（公財）ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社文化財調査報告　第44集

三反田遺跡第７・８次発掘調査報告書

２０１９

ひたちなか市教育委員会
公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社

（公財）ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社文化財調査報告　第44集

三反田遺跡第７・８次発掘調査報告書

２０１９

ひたちなか市教育委員会
公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社

三反田遺跡第 8 次調査区

三反田遺跡第 8 次調査区遠景

序

ひたちなか市は，東が太平洋，南が那珂川に面している，自然環境に恵まれた土地であり，古くから人々の生活の場として，市内には国指定史跡虎塚古墳をはじめとする三百数十か所の遺跡が残されております。

これまでに市内の遺跡からは，郷土の歴史を語る数多くの文化遺産が発見され，往時の生活文化を偲ぶ貴重な学術資料が発掘されてまいりました。都市化がすすむなかで貴重な文化遺産を保存していくことは重要なことであり，祖先からの遺産を都市づくりの基盤として活用し，子孫へと伝えていくことはわれわれの義務といえるでしょう。

那珂川をのぞむ台地上にある三反田遺跡は，古墳時代の遺物を出土する集落跡であります。発掘調査は，ひたちなか市立三反田小学校改築に伴う事業として市の委託を受け，当公社が実施いたしました。本書は，三反田遺跡の発掘調査の詳細を公表するため，本報告書として発刊するものです。貴重な資料の記録を収めた本書が考古学研究にとって基礎資料となり，市民の方々に広く活用していただけますことを祈念いたしております。

最後になりますが，発掘調査から報告書刊行に至るまで，多大なご指導・ご協力を賜りました関係各位の皆様に厚くお礼申し上げます。

平成31年3月

公益財団法人　ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社

理事長　永盛　啓司

例　言

1　本書は，ひたちなか市教育委員会の委託を受けて，公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社が実施した三反田遺跡発掘調査の報告書である。

2　発掘調査は，ひたちなか市立三反田小学校改築工事予定地域内に存在する埋蔵文化財の事前調査を目的とする。

3　発掘調査および整理報告は，ひたちなか市教育委員会総務課文化財室の指導のもとに，公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社の文化課文化財調査事務所が実施したものであり，組織は次のとおりである。

理事長	永盛　啓司	
副理事長	須藤　雅由	
常務理事	鈴木　隆之　　横須賀　重夫	
理事	杉山　和子　　大和田　健　　綱川　正　　鈴木　一成　　加藤　恭子　　福地　佳子	
監事	武藤　猛　　安　智範	
文化課 文化財調査事務所	参事	鈴木　素行
	課長	小泉　裕
	課長補佐	佐々木　義則
	係長	稲田　健一
	嘱託	菊池　順子

4　発掘調査の従事者は次の通りである。

調査員：佐々木義則

調査補助員：青木千歌子，榎澤由紀江，海老原四郎，大里美穂，岡野政雄，小貫栄子，海後晴美，黒澤 響，小西竜世，助川 諒，坪内治良，中嶋順子，廣水一真，矢野徳也，渡辺恵子

5　整理作業及び本書の作成に従事したものは，次の通りである。

青木千歌子，稲田健一，照沼沙保里，榎澤由紀江，小貫栄子，海後晴美，菊池順子，桐嶋美子，後藤みち子，佐々木義則，佐藤富美江，助川 諒，鈴鹿八重子，鈴木素行，中嶋順子，西野陽子，矢野徳也，山田梨央

6　本書は，佐々木義則が編集した。

7　本書の執筆と分担は以下のとおりである。

鈴木素行（旧石器・縄文・弥生時代の遺物）　稲田健一（調査の歩み，古墳時代の遺物）　矢野徳也（岩石同定）

照沼沙保里（調査の経緯）　佐々木義則（左記以外）

8　発掘調査の出土資料は，ひたちなか市埋蔵文化財調査センターで一括保管している。

9　本書の作成にあたっては，次の方々にご協力を賜った。記して感謝の意を表する次第である。（50 音順・敬称略）

相田美樹男，市村俊英，大和田 都，鴨志田篤二，川崎純徳，栗田昌幸，黒沢 浩，小橋健司，近藤裕子，斉藤 新，塩谷 修，志関弘平，篠原とよ子，住谷光男，田中 裕，西川修一，西野和幸，橋本勝雄，平野伸生，矢野広子

（株）秋山工務店，市立三反田小学校，市教育委員会施設整備課，市広報広聴課

目　次

Ⅰ　遺跡の概要…… 1
1　地理的環境 …… 1
2　三反田遺跡における調査の歩み …… 2

Ⅱ　第７次調査報告…… 5
1　調査の経緯 …… 5
2　遺構と遺物 …… 6
（1）　竪穴住居跡 …… 6
（2）　土坑 …… 16
（3）　溝跡 …… 17
（4）　表土出土遺物 …… 17

Ⅲ　第８次調査報告……18
1　調査の経緯 …… 18
2　遺構と遺物 …… 19
（1）　竪穴住居跡 …… 19
（2）　方形周溝墓 …… 33
（3）　溝跡 …… 37
（4）　石組 …… 37
（5）　道跡 …… 38
（6）　土坑 …… 38

Ⅳ　旧石器・縄文・弥生時代の遺物……40
1　旧石器時代の遺物 …… 40
2　縄文時代の土器 …… 40
3　弥生時代の土器 …… 45
4　縄文・弥生時代の石器 …… 47

Ⅰ　遺跡の概要

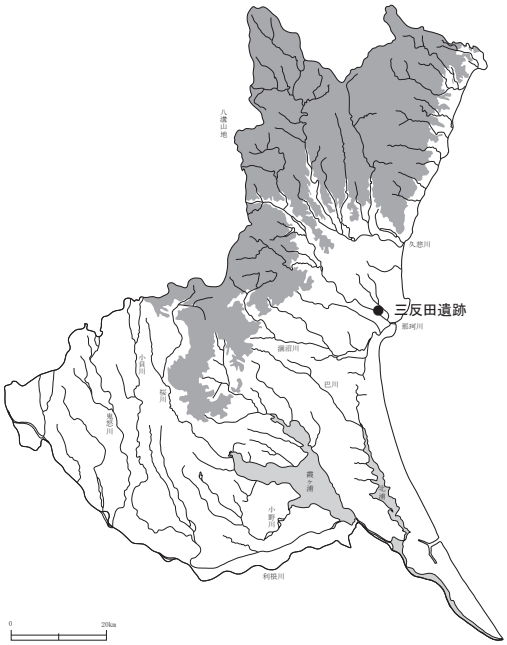
1　地理的環境

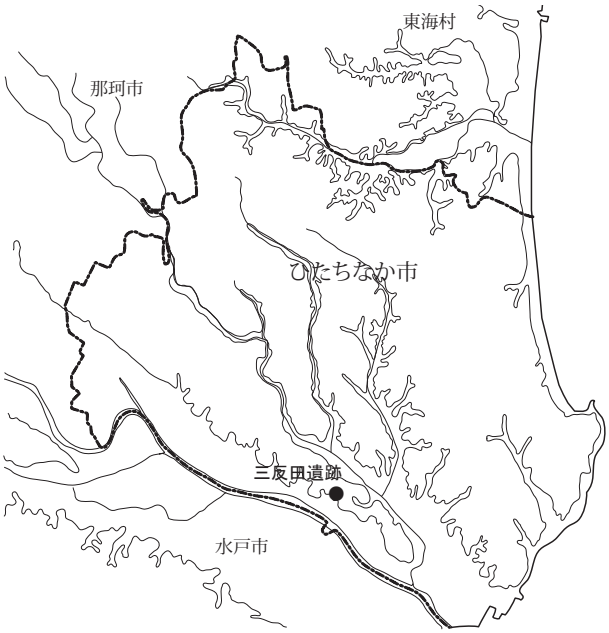
ひたちなか市立三反田小学校敷地内に所在する三反田遺跡は，ひたちなか市南部，那珂川下流左岸域の台地縁辺部に位置する。三反田遺跡のある台地は，南側に広がる那珂川低地と，中丸川によって開析された北側の谷とに挟まれた，東西に長く伸びる台地となっている。台地上は畑が広がる景観となっているが，最近は住宅も目立つようになってきた。

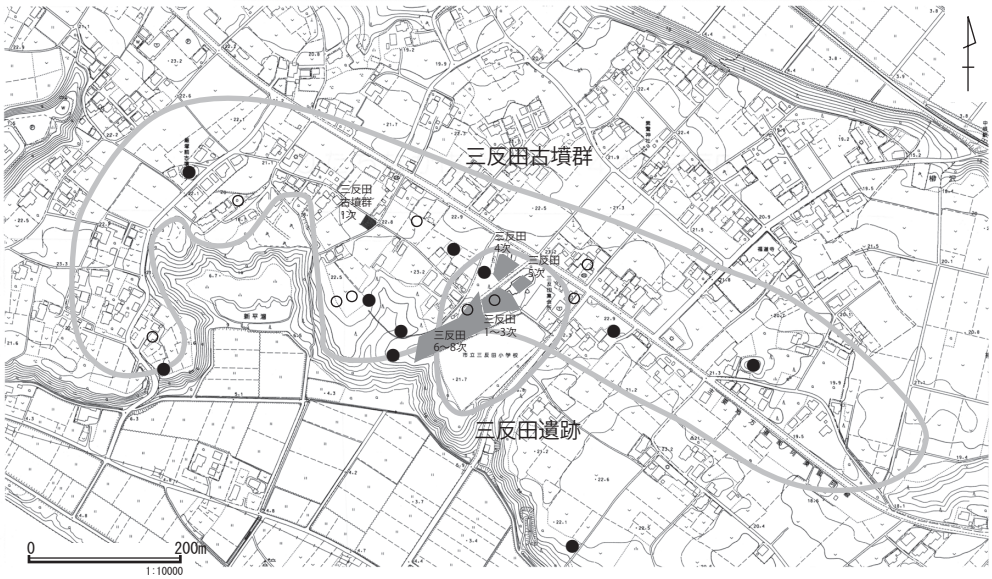
三反田遺跡のある場所は，那珂川と台地の位置関係からみて，那珂川が最も台地に迫る位置にあたっており，那珂川の水運利用の面でも有利な場所といえる。それを裏付けるように三反田遺跡南側の台地斜面裾部に所在する三反田上河原遺跡からは丸木舟とされる木製品が確認されている。また，台地北側に広がる中丸川低地は，現在もひたちなか市を代表する水田地帯となっているように，古墳時代以後の水田耕作地として利用されてきた可能性があろう。

三反田遺跡の南側隣接地には，斜面から台地上縁辺部にかけて斜面林が広がっているが，そのなかには遺存状況が良好な前方後円墳を有する三反田古墳群が所在する。古墳群と三反田遺跡の間には，それら遺跡を区画するように南側から浅い谷が入り込んでいる。

三反田遺跡内在住の西野和幸氏によると，三反田小学校は昭和 24 年ごろに那珂川脇にあった木造校舎を現在地に移築したのだという。その頃は調査地あたりはまだ畑だったらしい。昭和 30 年代後半ごろ校舎の鉄骨化がおこなわれ，自衛隊による造成工事がおこなわれた。その工事以前は，現在の校庭あたりはまだ畑が広がっており，その土地には緩やかな起伏がみられたという。







第 1 図　三反田遺跡の位置（●：古墳，○湮滅した古墳）

２　三反田遺跡における調査の歩み

三反田遺跡は，1963 年に新校舎建設とグランドの整備が行われていたため，その際に遺跡の大半が削平され消滅してしまったものと考えられていた。工事の際に出土した土器については，宮本栄一氏が報告を行い，当地域では類例の少ない南関東系の土器の存在が紹介された。［宮本 1965］

1974 年１月，校舎周辺に水道管を埋設する工事が施工されている折，溝の断面に住居跡と思われる遺構を確認したことから，遺物包蔵地が残っている可能性が考えられ，調査が実施されることになる。この調査が第１次調査となり，1991 年まで５回の調査を実施することとなった。

第１次調査［勝田市三反田 1977］

第１次調査は 1974 年３月 24 日から４月 15 日に実施され，住居跡３基（第１～３号住居跡）を調査した。調査では，過去に紹介された南関東系の土器とともに，Ｓ字状口縁甕等が出土したことから，古墳時代前期の土器研究において注目される遺跡となった。

第２次調査［勝田市 1978］

第１次調査の結果から，三反田遺跡がきわめて重要な遺跡であることが判明したため，さらに詳細な遺跡の性格を得るため，第２次調査が実施された。第２次調査では 1977 年７月 23 日から８月 13 日に実施され，住居跡２基（第４・５号住居跡）と円形周溝遺構（円墳）等を調査した。この調査においても古墳時代前期の土器が出土し，特に第４号住居跡からは，口縁部と胴部に網目状撚糸文，頸部に円形浮文で，赤彩された土器が出土した。

第３次調査［三反田 1979］

第３次調査は，三反田小学校校舎増築工事に伴い実施された。第３次調査では 1978 年５月 25 日～６月９日に実施され，住居跡６基（第３・５～９号住居跡）と円形周溝遺構等を調査した。調査区は第１・２次調査区の拡張という形で設定された。よって，第３・５号住居跡と円形周溝遺構の未調査部分の調査も実施された。新たに確認された第６～９号住居跡からも古墳時代前期の土器が出土している。円形周溝遺構からは凝灰岩（凝灰質泥岩か）の集石を確認しており，これは埋葬施設の石棺の残材と思われる。円形周溝遺構に伴う遺物として須恵器の壷片が出土していることから，古墳時代中期以降の時期と思われる。

第４次調査［三反田 1985］

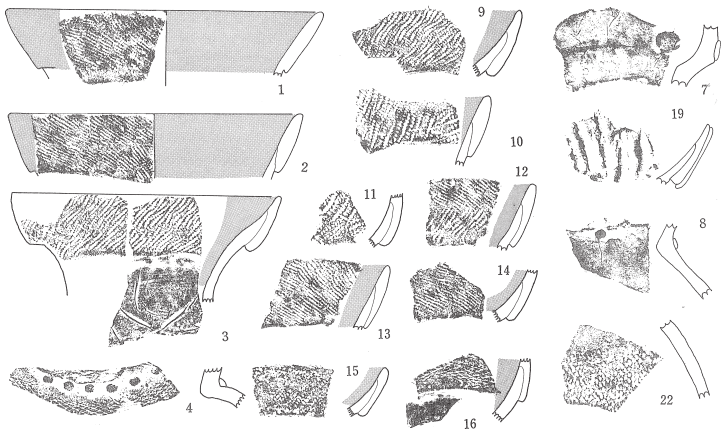
第４次調査は，三反田小学校プール建設工事に伴い実施された。第４次調査では 1984 年６月 18 日～８月３日に実施され，住居跡５基（第 10 ～ 14 号住居跡）等を調査した。住居跡からは古墳時代前期の土器が出土している。第 10･11･12 号住居跡からはＳ字状口縁甕が出土し，土器のセット関係と併せて第 10 号住居跡→第 11 号住居跡→第 12 号住居跡という新旧関係が推定できる。また，第 11 号住居跡からは「大廓式」の壷が出土し，土器の胎土から東海東部地域からの搬入品と考えられる。

第５次調査［三反田 1991］

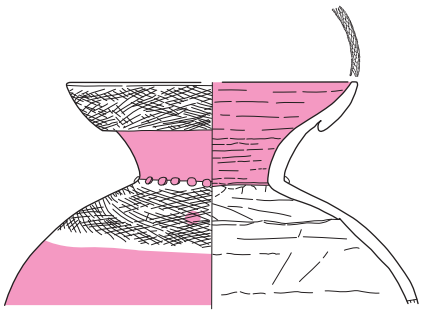
第５次調査は，三反田小学校校舎増築工事に伴い実施された。第５次調査では 1990 年６月 20 日～７月 18 日に実施され，住居跡５基（第 15 ～ 19 号住居跡）等を調査した。住居跡からは古墳時代前期の土器が出土している。第５次調査で出土した遺物には，縄文や赤彩が施された装飾壷がない。

以上，５回の調査で住居跡 19 基を確認した。調査した 19 基の住居跡すべてが古墳時代前期の時期に比定される。また，住居跡の重複もない。これらの住居跡からは，網目状撚糸文や櫛描波状文を施文した壷，輪積口縁台付甕，Ｓ字状口縁甕，「大廓式」の壷，器表面にタタキ目のある「畿内系」と思われる甕など，南関東や東海東部・西部などの他地域から持ち込まれたもの，またはその特徴を有するものが多く，このことが三反田遺跡を特徴付けている。また，発掘調査で出土した土器の中には，地元の「十王台式」が１点も含まれていないことも注目される。

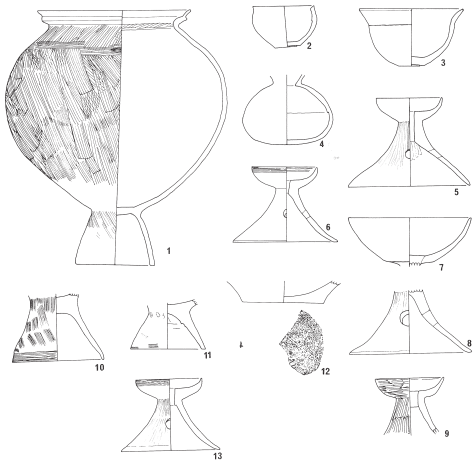
このように，三反田遺跡は地元の「十王台式」がなく，他地域の特徴を有する土器を主体とする集落跡であることが重要な点である。また，当遺跡周辺には弥生時代後期後半の集落が確認されていないことから，集落のない空白地域に「移住」という形で遺跡が形成されたと考えら



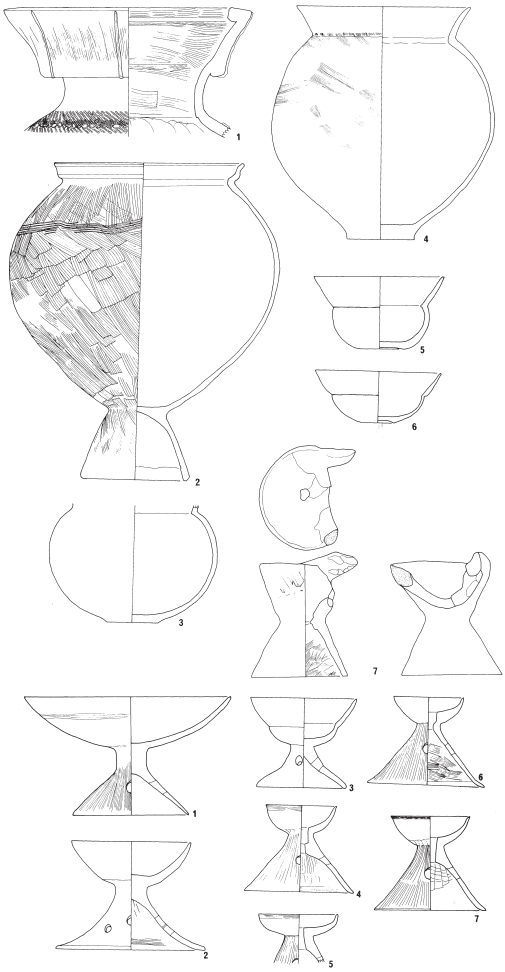
第１・２次調査出土遺物（S=1/4）



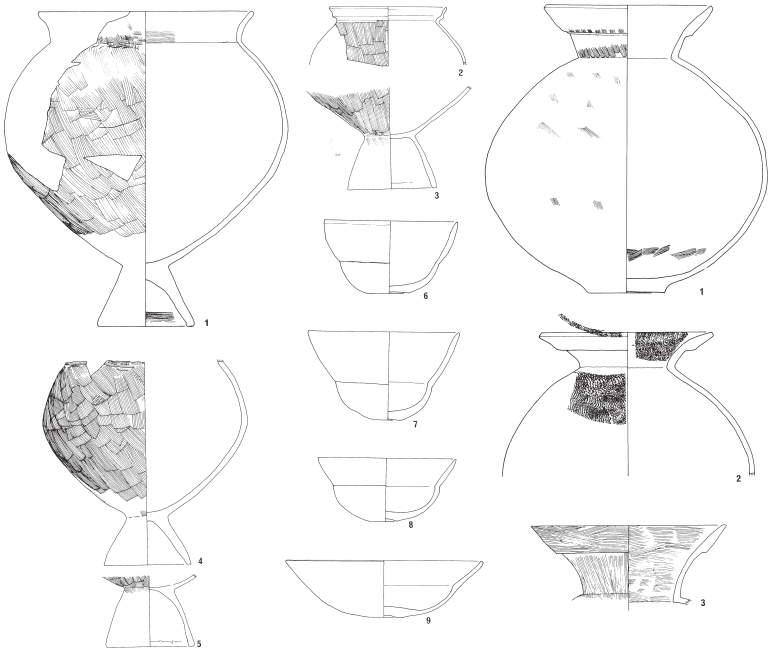
第４号住居跡出土遺物（S=1/4）



第 10 号住居跡出土遺物（S=1/8）



第 11 号住居跡出土遺物（S=1/8）



第 12 号住居跡出土遺物（S=1/8）

第２図　三反田遺跡古墳時代前期の主な出土遺物（図は報告書から引用・第４号住居跡のみ再実測）

れる。

報告文献

宮本栄一 1965「勝田市三反田小学校校庭発見の弥生式土器」『栃木考古学研究』9・10 合併号

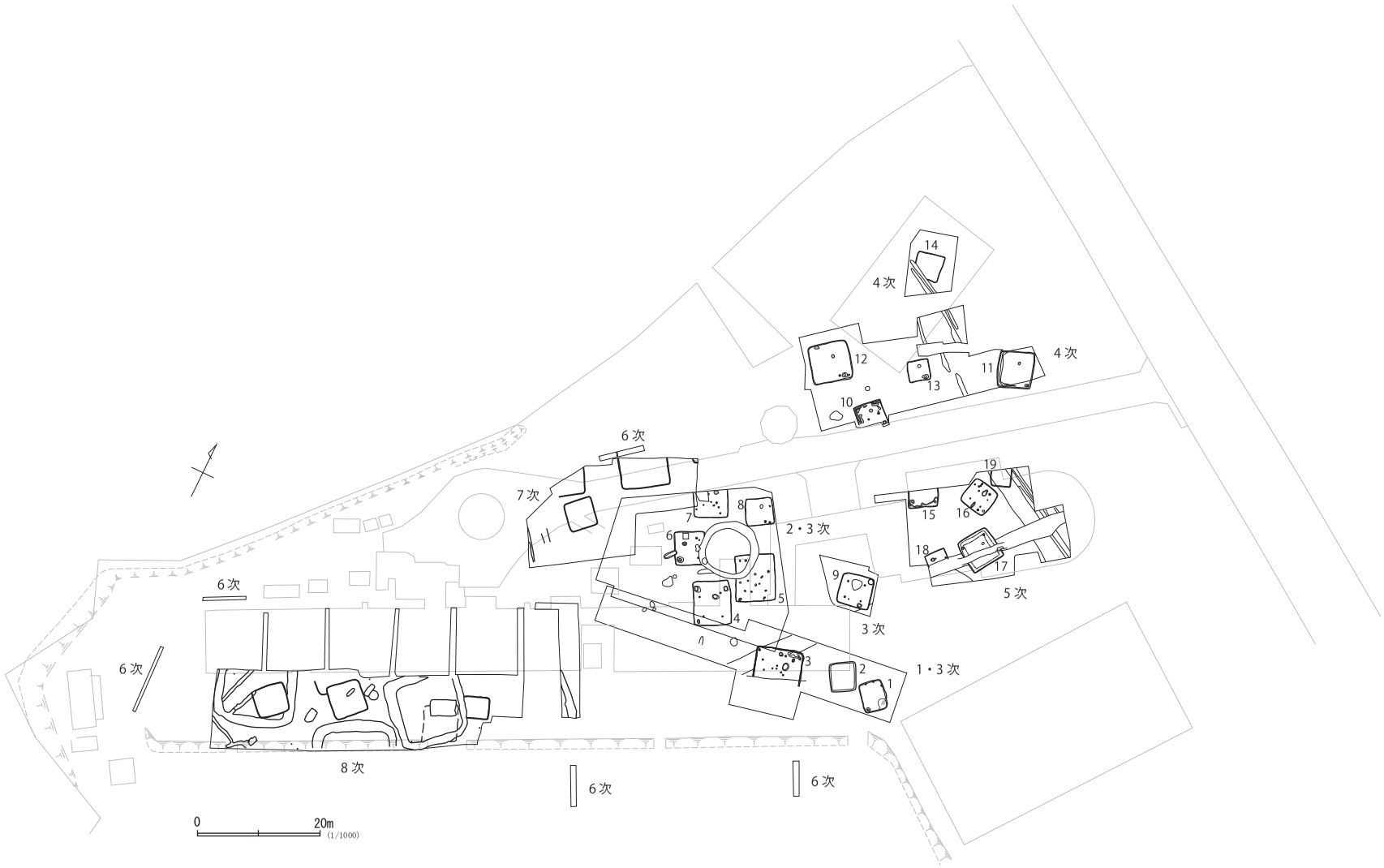
勝田市三反田遺跡調査団 1977『三反田遺跡』勝田市教育委員会

勝田市教育委員会 1978『三反田遺跡群調査報告書』

三反田遺跡群調査団 1979『三反田遺跡調査報告書（第３次）』勝田市教育委員会

三反田遺跡群調査団 1985『三反田遺跡調査報告書（第４次）』勝田市教育委員会

三反田遺跡群調査団 1991『三反田遺跡調査報告書（第５次）』勝田市教育委員会



第３図　三反田遺跡の調査区

II　第７次調査報告

１　調査の経緯

調査に至る経緯

平成 27 年１月 21 日付ひたちなか市教育委員会へ，ひたちなか市より三反田小学校校舎建設に関する埋蔵文化財の有無及びその取扱いについての照会文書が提出された。建設予定地は確認調査が必要であったため，ひたちなか市教育委員会から公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社へ試掘調査が依頼された。平成 29 年３月 13 日から 24 日にかけて調査を実施した結果，住居跡１基，溝３条，土坑１基が確認された。

試掘調査結果を踏まえて，ひたちなか市とひたちなか市教育委員会で協議を行った結果，遺構の保護が困難である給食棟建設予定地及び渡り廊下建設等予定地について，発掘調査の実施を決定した。渡り廊下建設等予定地には平成 30 年度に解体予定である既存校舎部分が範囲に含まれていたため，平成 29 年度は給食棟建設予定地の約 610 ㎡を対象とし，平成 30 年度に渡り廊下建設予定地等の約 1,350 ㎡を対象とした，２ヵ年に渡って発掘調査を実施することとした。

調査にあたって，事業主であるひたちなか市と発掘調査を行う公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社の二者間で発掘調査業務の契約が交わされ，調査の実施方法等について，前述の二者にひたちなか市教育委員会を加えた三者で協定書が締結された。

調査の経過

所在地 / ひたちなか市三反田字羽黒 3044 番１外

期間 / 平成 29 年９月 12 日～ 10 月 25 日

担当 / 佐々木義則　面積 /270 ㎡　時代 / 古墳・平安

遺構 / 竪穴住居跡７基（古墳時代６基，平安時代１基），土坑１基（縄文時代），溝跡１条（時期不明）

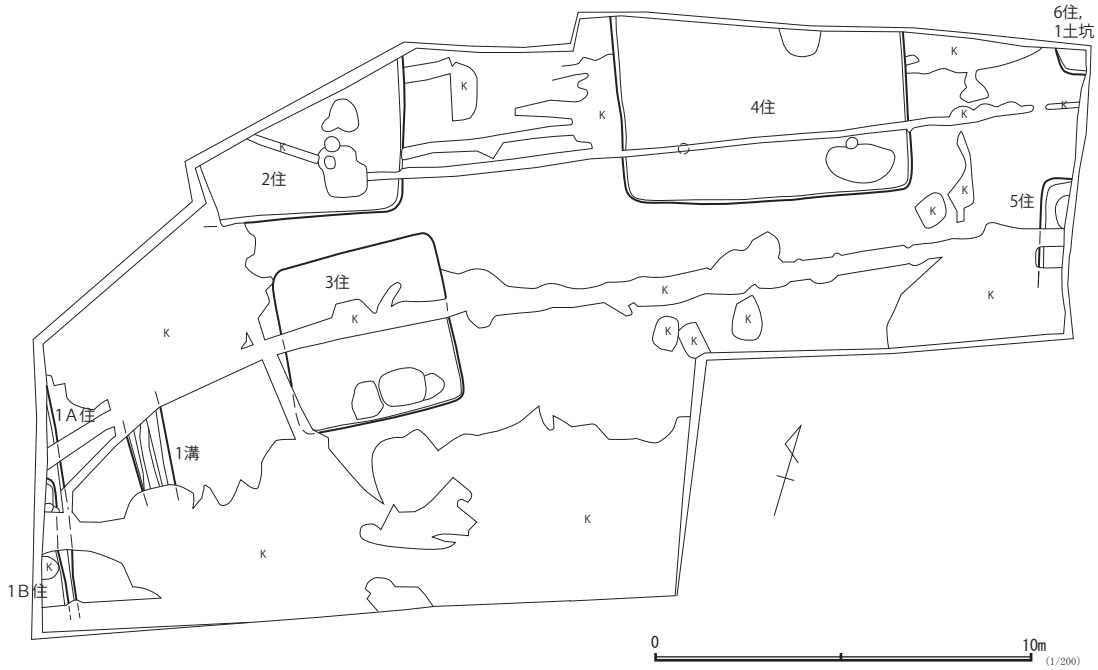
調査経過 / ９月 12 日：現地確認　９月 14 日：重機による表土除去開始　９月 15 日：遺構掘り込み開始　９月 20 日：図面・写真による記録作業開始　10 月 10 日：三反田小学校５・６年生説明会　10 月 17 日：全体写真撮影，機材撤収　10 月 24 ～ 25 日：重機による埋め戻し

第４図　三反田遺跡第７次調査区遺構確認状況

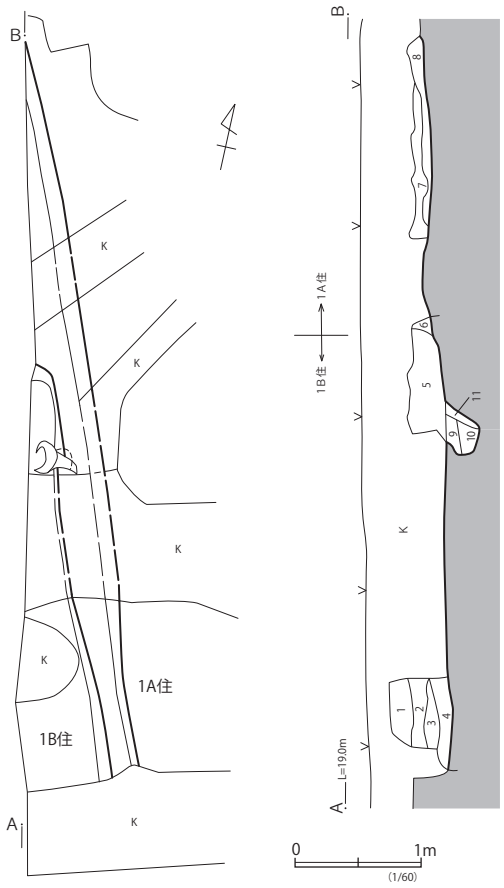
第５図　三反田遺跡第７次調査区作業風景１

第６図　三反田遺跡第７次調査区作業風景２

第７図　三反田遺跡第７次調査区三反田小学校児童見学



第８図　三反田遺跡第７次調査区



土層説明

1住 AB 土層説明

1　暗褐色（表土）

2　暗褐色（ローム粒含む）

3　明褐色（ローム粒多量含む
　　ローム小ブロック含む）

4　褐色（ローム粒少量含む）

5　暗褐色（ローム粒やや多量含む）

6　暗褐色（ローム粒多量含む）

7　暗褐色（ローム粒含む）

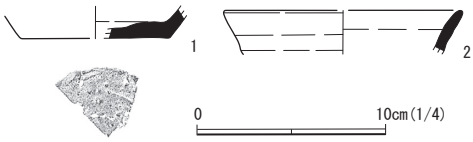
8　褐色（ローム粒多量含む）

9　褐色（ローム粒非常に多量含む
　　ロームブロック多量含む　締まり有り）

10　黄褐色（ロームブロック主体　締まり有り）

11　褐色（暗褐色土混じる
　　ロームブロック多量含む　締まり有り）

第９図　三反田遺跡第７次調査区第１Ａ・Ｂ号住居跡



第 10 図　三反田遺跡第７次調査区第１Ｂ号住居跡出土遺物

２　遺構と遺物

（１）竪穴住居跡

第１Ａ・Ｂ号住居跡

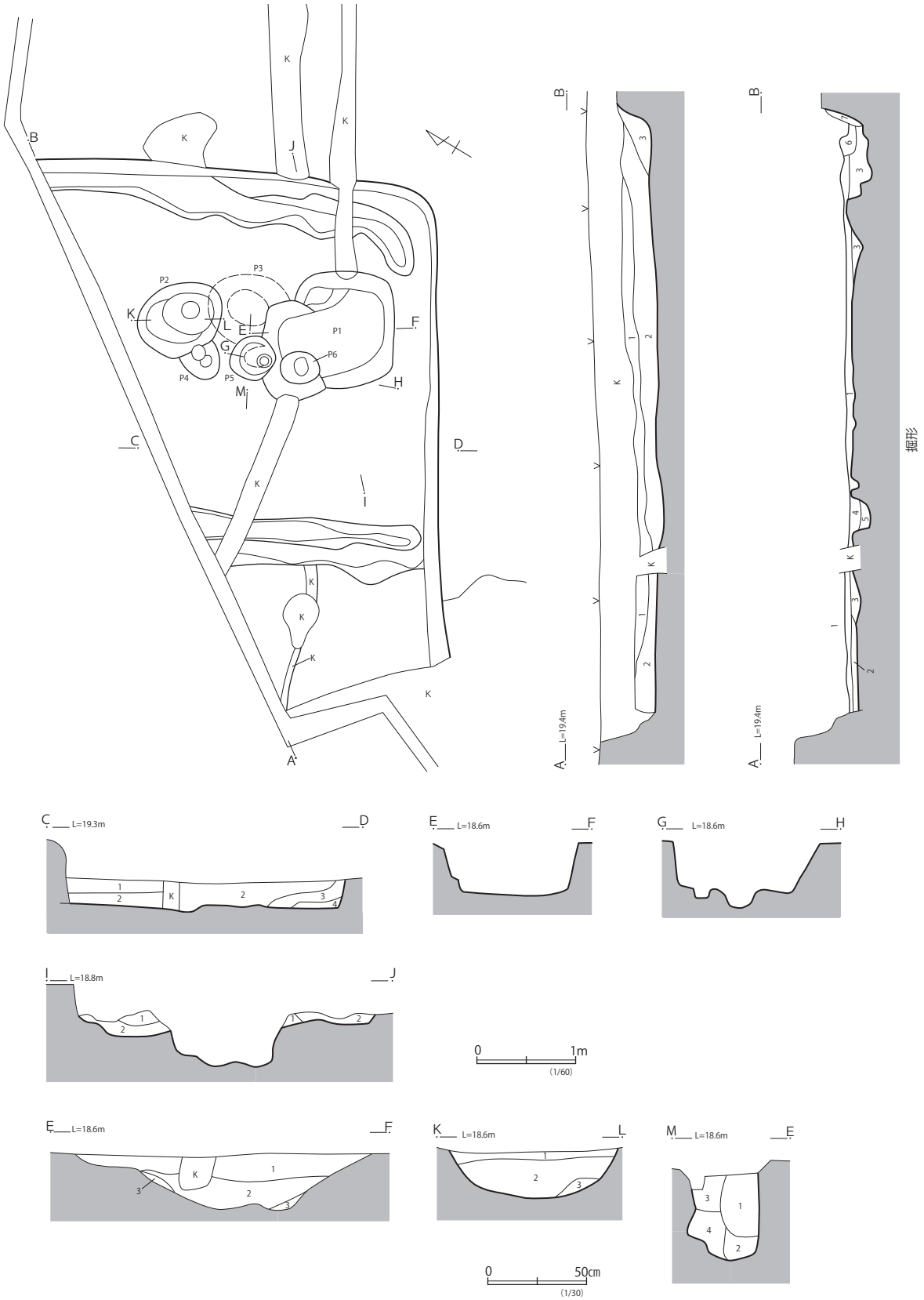
遺構　調査区西端部より住居跡と思われる遺構を検出し，第１Ａ・１Ｂ号住居跡とした。底面が平坦であったため住居跡ととらえたが，第１Ａ号住居跡については第８次調査区第１号道跡の延長部分の可能性もある。第１Ａ号住居跡は東壁の壁高 0.1 mを測る。第１Ｂ号住居跡は第１Ａ号住居跡を 0.1m ほど掘り込んでいた。第１Ａ号住居跡の時期は不明であるが，遺物は住居跡覆土中から土師器・須恵器片が少量出土している。第１Ｂ号住居跡からは平安時代の須恵器が出土しており，当該期の住居跡と考えられる。

遺物説明

第 10 図

1　出土位置：1B 住床下ピット　材質：須恵器　器種：杯　残存：底部(7.8)　色調：灰色　胎土：砂（白透，灰少），骨針少　特徴：底部外面回転ヘラ切り　備考：木葉下窯産か

2　出土位置：1B 住　材質：須恵器　器種：杯　残存：口縁部 15%　法量：口径（12.4）　色調：灰色　胎土：礫（白少），骨針



第 11 図　三反田遺跡第７次調査区第２号住居跡

第２号住居跡

遺構　住居跡南東隅部の調査である。当住居跡の主軸方向は，N-32°　-W，竪穴部方形を呈し，規模は東西 5.5 m以上, 南北 4.0 m以上を測る。壁高は東壁 0.3 m, 南壁 0.3 mを測る。壁周溝は東壁に認められた。住居跡西側に段差があり, その段差部分に沿うように溝が掘られていた。間仕切りの溝であろうか。床面は全体的に硬くしまっていた。床面からのピットの深さは, ピット１:50cm, ピッ

第２号住居跡土層説明

AB 土層説明

1　暗褐色（黒褐色土混じる　ローム粒含む）
2　暗褐色（ローム粒含む）
3　暗褐色（褐色土混じる　ローム粒含む）

掘形 AB 土層説明

1　明褐色（ロームブロック主体　明褐色土混じる
　　非常に締まり有り）
2　黒褐色（ローム粒・ローム小ブロック含む）
3　明褐色（ローム小ブロック多量含む）
4　明褐色（ローム粒多量含む）
5　黄褐色（ローム粒主体　ロームブロック少量含む）
6　明褐色（ローム粒多量含む）
7　明褐色（ローム粒非常に多量含む）

CD 土層説明

1　暗褐色（ローム粒含む　黒褐色土混じる）
2　暗褐色（ローム粒やや多量含む）
3　暗褐色（ローム粒含む）
4　褐色（ローム粒多量含む）

EF 土層説明

1　暗褐色（ローム粒やや多量含む）
2　暗褐色（ローム粒少量含む）
3　暗褐色（ローム粒多量含む）

IJ 土層説明

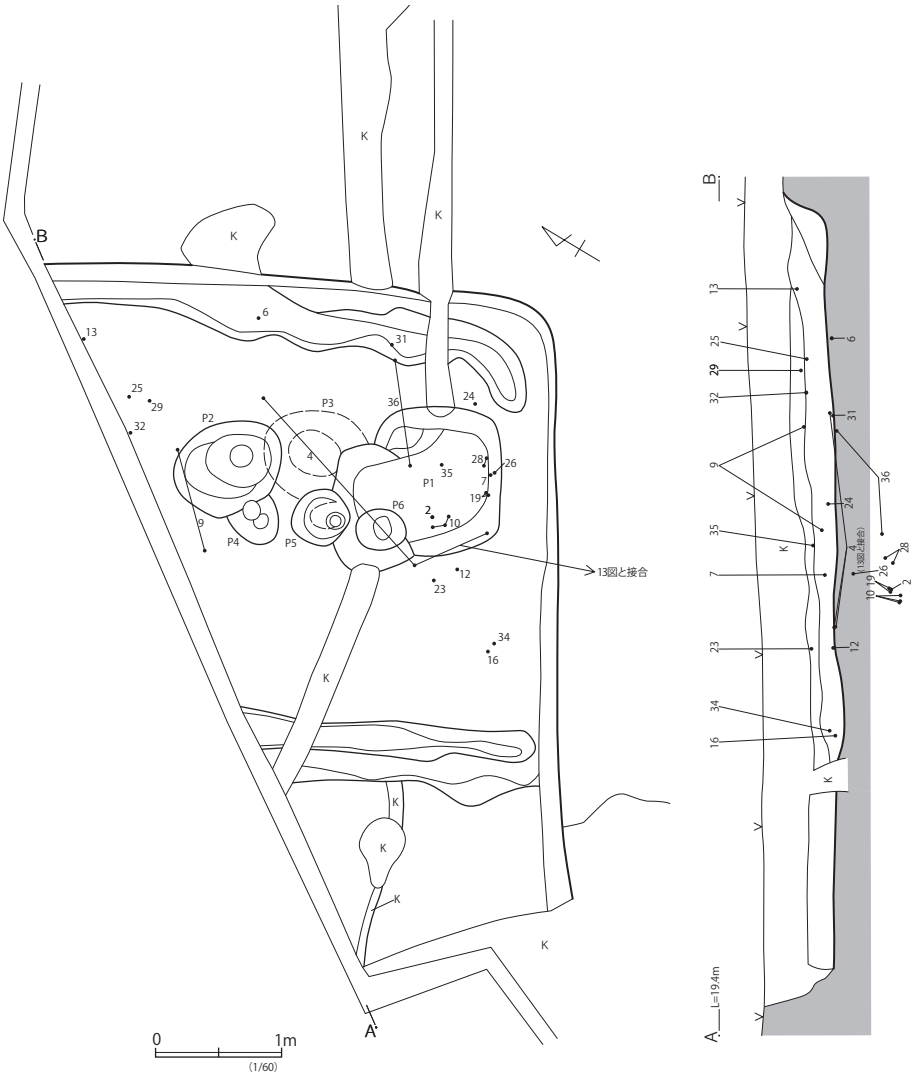
1　褐色（ロームブロック多量含む　締まり有り　住居床）
2　黒褐色(ローム粒やや多量含む　ロームブロック少量含む)

KL 土層説明

1　黒褐色（ローム粒含む）
2　暗褐色（ローム粒やや多量含む　ローム小ブロック含む）
3　明褐色（ローム粒多量含む）

ME 土層説明

1　褐色（ロームブロック多量含む）
2　褐色（ローム粒やや多量含む）
3　褐色（ローム粒含む）
4　明褐色（ロームブロック含む）



第 12 図　三反田遺跡第７次調査区第２号住居跡遺物出土状況

ト２：30cm，ピット３（床下ピット）：50cm，ピット４：20 ㎝，ピット５：58cm，ピット６：66cm を測る。おそらくピット５・６が主柱穴になるのであろう。

ピット１は方形を呈するやや大きめのピットであることから，貯蔵穴になるものと思われる。

遺物出土状況　当住居跡はピット１内から多量の土器片が出土しているのが注目される。ピット１から出土した多量の土器片は，ピット１が埋まった段階で廃棄された土器群と思われる。ピット１が埋没する途中の窪み状となった土坑の立ち上がりに貼りつけたような状況での出土であった。

遺物説明

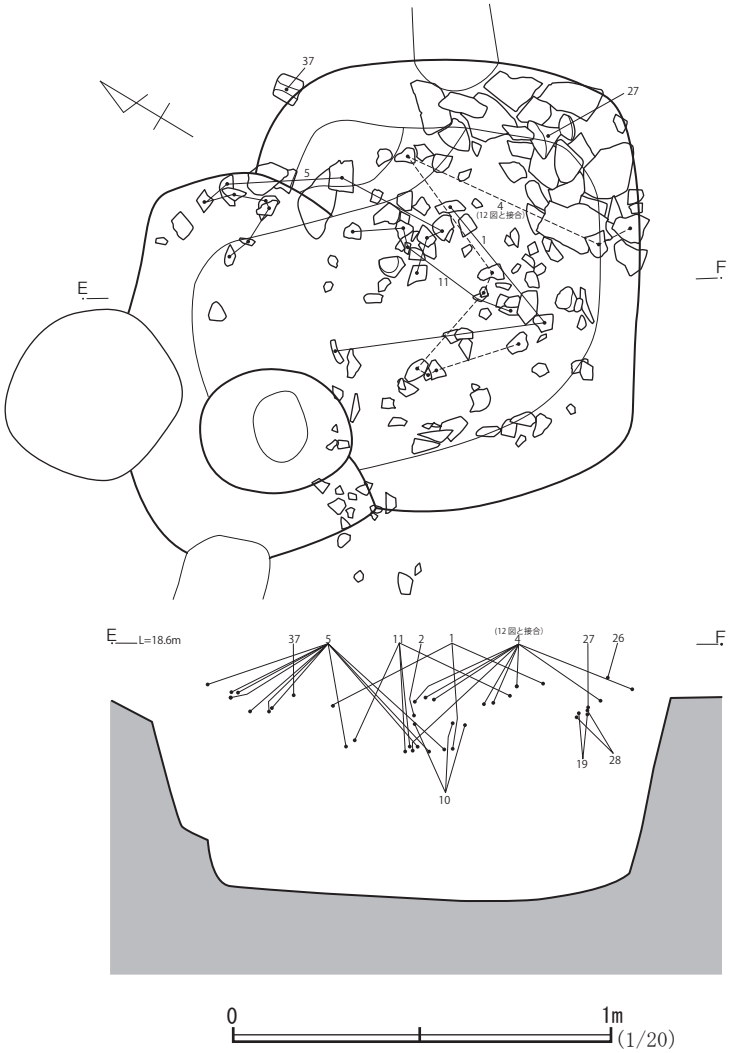
第 14 図

1　台帳：P36･42・99，Pit1　材質：土師器　器種：甕　残存：口縁～胴部上位 10％　法量：口径（17.2），器高（7.5）　色調：外面橙～にぶい褐色。内面橙色。　胎土：礫（白微），砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ・押捺・輪積痕，胴部ヘラ削り？。内面口縁部ヨコナデ，胴部ヘラナデ。　使用痕：―　備考：外面器面が摩滅している。

2　台帳：P153，Pit1･2　材質：土師器　器種：甕　残存：口縁部 20％　法量：口径（20.8），器高（4.0）　色調：外面褐～黒褐色。内面にぶい黄橙色。　胎土：礫（赤微），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面ハケ。内面ナデ・ハケ。　使用痕：―　備考：―

3　台帳：２住　材質：土師器　器種：甕　残存：底部 20％　法量：器高（5.7），底径（10.7）　色調：外面にぶい黄橙～黒褐色。内面橙色。　胎土:礫（白少），砂（白多，透多）　焼成:良好　技法等:外面ヘラナデ？。内面ヘラナデ。　使用痕：―　備考：―

4　台帳：P32 ～ 34･41･48･50･109･121･122･188･195･196，２住・Pit1　材質:土師器　器種:壷　残存:胴部 50％，底部 90％　法量:器高（22.0），底径 8.8　色調:外面赤～橙～黒色。内面橙色。　胎土:礫（白微），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面胴部ヘラナデ・ヘラミガキ。底面ヘラナデ。内面ヘラナデ・ハケ。　使用痕：―　備考：外面器面が



第 13 図　三反田遺跡第７次調査区第２号住居跡ピット１遺物出土状況

やや摩滅している。

５　台帳：P70･73 ～ 75･77･78･80･82･91･96･100，２住 ･Pit1　材質：土師器　器種：壷　残存：胴部下位 60%，底部 100%　法量：器高（13.5），底径 6.2　色調：外面赤～にぶい黄橙～黒色。内面にぶい黄橙色。　胎土：小石（灰微），礫（白微，灰微），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面胴部ヘラナデ・ヘラミガキ，下位～底面ヘラ削り。内面ヘラナデ。外面胴部に赤彩。　使用痕：―　備考：外面器面が摩滅している。

６　台帳：P183，２住床　材質：土師器　器種：壷　残存：口縁部 10%　法量：口径（17.4），器高（5.4）　色調：内外面とも橙色。　胎土：礫（白微），砂（白多，透多，黒少），金雲母含む　技法等：外面口縁部ヨコナデ･ハケ･刻み，頸部ヘラ削り後ヘラミガキ。内面ヘラナデ･ヘラミガキ。　使用痕：―　備考：―

７　台帳：P192　材質：土師器　器種：壷　残存：口縁部 20%　法量：口径（13.0），器高（4.8）　色調：内外面とも赤褐～橙～黒褐色。　胎土：礫（白少），砂（白多，透多，黒少），金雲母含む　焼成：良好　技法等：外面口唇部網目状撚文，口縁部ヘラミガキ。内面上位網目状撚糸文，中位ヘラナデ，下位ヘラミガキ。外面口唇部以外と内面上位以外に赤彩。　使用痕：―　備考：―

８　台帳：２住 ･Pit1　材質：土師器　器種：壷　残存：口縁部 20%　法量：口径（15.0），器高（3.0）　色調：内外面とも赤～橙色。　胎土：砂（白少，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：内外面とも赤彩。　使用痕：―　備考：―

９　台帳：P207･208　材質：土師器　器種：壷　残存：底部 100%　法量：器高（3.5），底径 8.8　色調：内外面ともにぶい黄橙色。　胎土：小石（茶微），礫（白少，灰少），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面ヘラナデ？。内面ヘラナデ。　使用痕：―　備考：外面器面が摩滅している。この他に大形の胴部片あり。

10　台帳：P154･156･157，Pit1･床　材質：土師器　器種：壷　残存：底部 100%　法量：器高（4.7），底径 6.0　色調：外面浅黄色。内面黄灰色。　胎土：小石（灰微），小石（白少，透多）　焼成：良好　技法等：外面胴部ヘラナデ？，底面ヘラ削り。内面ヘラナデ。　外面使用痕：―　備考：器面が摩滅している。

11　台帳：P46･83･90･94　材質：土師器　器種：壷？　残存：底部 100%　法量：器高（3.8），底径 6.2　色調：外面橙～黒褐色。内面橙～暗赤褐色。　胎土：礫（白少），砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面胴部ヘラナデ，底面ヘラ削り。内面ヘラナデ，ハケ。　使用痕：―　備考：―

12　台帳：P197，２住　材質：土師器　器種：壷？　残存：底部 30%　法量：器高（2.3），底径（7.6）　色調：外面橙～にぶい黄橙色。内面にぶい黄橙色。　胎土：砂（白多，透多，灰少，赤微）　焼成：良好　技法等：外面ヘラ削り。内面ハケ。　使用痕：―　備考：―

13　台帳：P175　材質：土師器　器種：壷　残存：底部 30%　法量：器高（3.3），底径（5.3）　色調：外面赤色。内面にぶい黄橙色。　胎土：礫（白少，灰少），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面胴部ハケ後ヘラナデ，底面ヘラ削り。内面ヘラナデ。外面に赤彩。　使用痕：―　備考：―

14　台帳：２住　材質：土師器　器種：壷　残存：口縁部 10%以下　法量：―　色調：内外面とも赤～橙色。　胎土：砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面口唇部と口縁部に網目撚糸文。内外面とも赤彩。　使用痕：―　備考：―

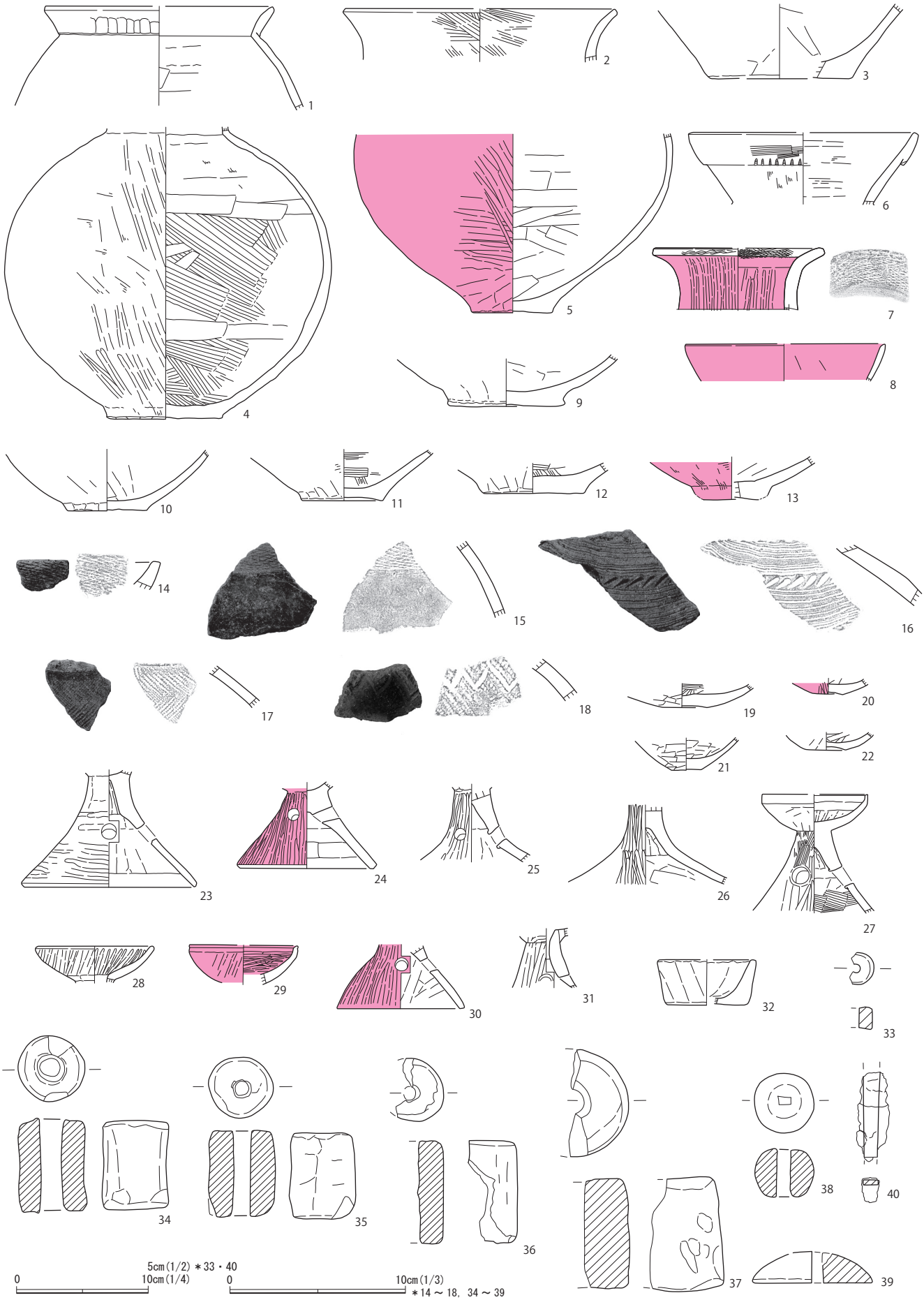
15　台帳：２住　材質：土師器　器種：壷　残存：胴部片　法量：―　色調：外面赤～橙色。内面褐色。　胎土：礫（白微），砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面網目状撚糸文。外面一部に赤彩。　使用痕：―　備考：―

16　台帳：P209，Pit1　材質：土師器　器種：壷　残存：胴部片　法量：―　色調：外面橙色。内面にぶい橙色。　胎土：砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面櫛描文・櫛歯状工具による押捺。内面ナデ。　使用痕：―　備考：―

17　台帳：２住　材質：土師器　器種：壷　残存：胴部片　法量：―　色調：外面赤～橙色。内面黄橙色。　胎土：砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面羽状の単節縄文。内面ナデ。外面一部に赤彩。　使用痕：―　備考：―

18　台帳：Pit1　材質：土師器　器種：壷　残存：胴部片　法量：―　色調：外部にぶい黄橙～黒色。内面にぶい黄橙色。　胎土：砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面単節縄文・鋸歯文。内面ヘラナデ。　使用痕：―　備考：―

19　台帳：P158･160　材質：土師器　器種：壷　残存：底部 100%　法量：器高（1.8），底径 3.3　色調：内外面ともにぶい黄橙色。　胎土：礫（白少），砂（白多，透多）　技法等：外面ヘラ削り。内面ヘラミガキ。凹む底。



第 14 図　三反田遺跡第７次調査区第２号住居跡出土遺物

使用痕：―　備考：―

20　台帳：2住　材質：土師器　器種：壷　残存：底部100％　法量：器高（1.3），底径2.2　色調：外面赤～にぶい橙色。内面にぶい橙色。　胎土：砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面ヘラミガキ。内面ヘラナデ。外面胴部赤彩。　使用痕：―　備考：―

21　台帳：2住床下　材質：土師器　器種：壷　残存：底部100％　法量：器高（2.4），底径2.3　色調：内外面ともにぶい黄橙色。　胎土：砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。　使用痕：―　備考：―

22　台帳：壁溝　材質：土師器　器種：壷　残存：底部100％　法量：器高（1.4），底径2.9　色調：内外面ともにぶい黄橙色。　胎土：―　焼成：良好　技法等：外面ヘラ削り？。内面ヘラナデ。　使用痕：―　備考：外面器面が摩滅している。

23　台帳：P198　材質：土師器　器種：高杯　残存：脚部60％　法量：器高（8.9），底径12.9　色調：外面にぶい黄橙～暗褐色。内面にぶい黄橙色。　胎土：礫（白微），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面上位ナデ，下位ヘラミガキ。内面上～中位ヘラナデ，下位ヨコナデ。　使用痕：―　備考：―

24　台帳：P204　材質：土師器　器種：高杯　残存：脚部100％　法量：器高（6.5），底径9.8　色調：赤～暗赤褐色。内面にぶい黄橙色。　胎土：礫（白微），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面ヘラミガキ。内面ヘラナデ・ナデ。外面に赤彩。　使用痕：―　備考：―

25　台帳：P177　材質：土師器　器種：高杯　残存：脚部20％　法量：器高（6.0）　色調：内外面とも暗赤褐色。　胎土：砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面ヘラミガキ。内面ナデ。　使用痕：―　備考：―

26　台帳：P165　材質：土師器　器種：高杯　残存：脚部20％　法量：器高（6.0）　色調：内外面ともにぶい黄橙色。　胎土：砂（白多，透多，灰多，赤少）　焼成：良好　技法等：外面ヘラミガキ。内面ヘラナデ，上位にしぼり。孔なし。　使用痕：―　備考：―

27　台帳：P144　材質：土師器　器種：器台　残存：60％　法量：口径（8.0），器高（9.0）　色調：内外面とも橙色。　胎土：礫（白微），砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面器受部口縁部ヨコナデ・体部ヘラナデ，脚部ハケ・ヘラミガキ。内面器受部ヘラナデ・ヘラミガキ，脚部上～中位ナデ・ヘラナデ，下位ハケ。　使用痕：―　備考：―

28　台帳：P163・170　材質：土師器　器種：器台　残存：60％　法量：口径9.0，器高（2.8）　色調：内外面とも黄橙色。　胎土：礫（白微），砂（白少，透多）　焼成：良好　技法等：内外面ともヘラミガキ。　使用痕：―　備考：―

29　台帳：P179　材質：土師器　器種：器台　残存：杯部40％　法量：口径（8.1），器高（3.0）　色調：内外面とも赤色。　胎土：砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：内外面ともヘラミガキ，赤彩。　使用痕：―　備考：―

30　台帳：Pit・2住　材質：器台　残存：脚部70％　法量：器高（4.8～5.0），底径9.6　色調：外面赤～黒色。内面橙～褐色。　胎土：礫（白微），砂（白少，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面ヘラミガキ。内面ヘラナデ。外面に赤彩。　使用痕：―　備考：孔は3孔か。

31　台帳：P185　材質：土師器　器種：器台　残存：脚部50％　法量：器高（4.6）　色調：内外面ともにぶい黄橙色。　胎土：礫（白少），砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面ヘラミガキ。内面ヘラナデ・ナデ。　使用痕：―　備考：―

32　台帳：P180　材質：土師器　器種：手づくね土器　残存：40％　法量：口径（7.2），器高3.4，底径（6.0）　色調：内外面ともにぶい橙色。　胎土：礫（白少），砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：内外面ともヘラナデ。　使用痕：―　備考：―

33　台帳：床　材質：土師質　種類：土玉　法量：長0.8，最大径1.1，孔径0.3　備考：―

34　台帳：P199　材質：土師質　種類：土錘　法量：長5.3，最大径3.8，孔径1.1～1.5，重量79.91g　備考：両側穿孔。

35　台帳：P191　材質：土師質　種類：土錘　法量：長4.8，最大径3.7，孔径0.8～1.0，重量71.48g　備考：―

36　台帳：P149・206，2住　材質：土師質　種類：土錘　法量：長5.8，最大径3.5，孔径0.9　備考：―

37　台帳：P81　材質：土師質　種類：土錘　法量：長6.5，最大径6.0，孔径―，重量142.31g　備考：―

38　台帳：P174　材質：土師質　種類：土玉　法量：径3.4，厚2.7，孔径0.4～0.7，重量30.97g　備考：孔は長方形。

39　台帳：2住　材質：土師質　種類：紡錘車　残存：10％　法量：最大径（7.0），高（1.8），孔径（1.0）　備考：―

40　台帳：Ⅰ1　材質：鉄製品　種類：―　法量：長（3.1），幅0.4～0.5，厚0.2？，重量3.68 g　備考：―

第３号住居跡

遺構　住居掘り込みが浅く，床面のみ確認された住居跡である。住居西側を重機により削平されていたが，壁周溝のあり方から住居跡の形状は把握できた。当住居跡の主軸方向は，N-39°-Wを測る。竪穴部の規模は，東西4.5 m，南北4.5 mで，形状はほぼ正方形である。壁周溝はごく浅く，全周するようである。調査最終段階で，床を削って柱穴を探したが，主柱穴は見つからなかった。ピットは南壁付近にいくつかまとまって見られたが，最も大きいピット１が貯蔵穴になる可能性があろう。ピット２西側に焼土の堆積がみられたので，当住居跡は火事にあっているのかもしれない。

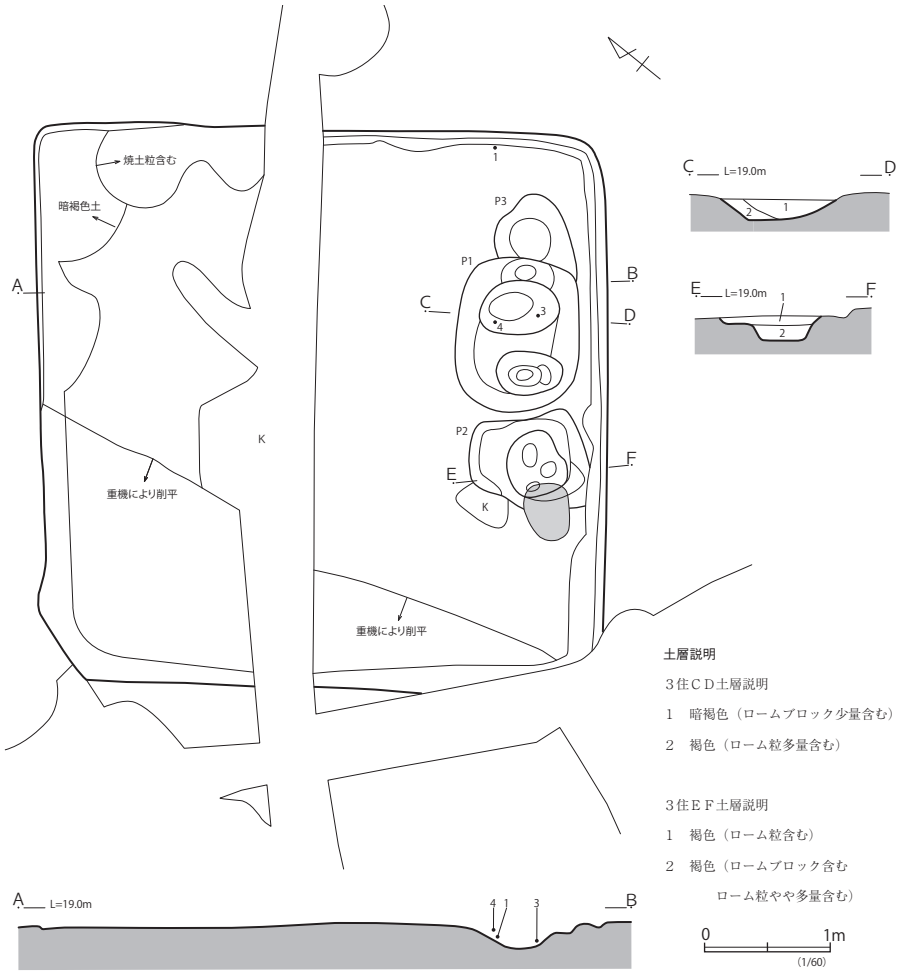
遺物出土状況　住居覆土が薄く，床面付近の遺存も少ない。土錘４のみが完形での出土であった。

遺物説明

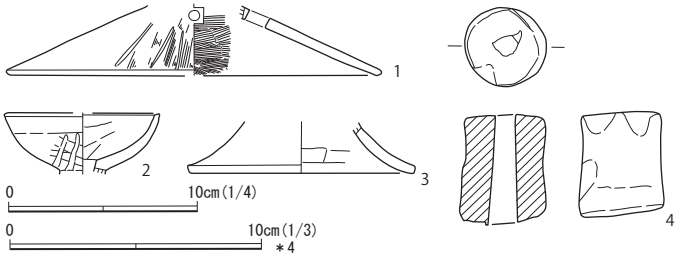
第16図

1　台帳：P1　材質：土師器　器種：高杯　残存：裾部10％　法量：器高（3.8），底径（19.6）　色調：内外面ともにぶい黄橙色。　胎土：砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面ハケ後ヘラミガキ。内面ハケ。　使用痕：―　備考：―

2　台帳：Pit1　材質：土師器　器種：器台　残存：杯部20％　法量：口径（8.1），器高（3.2）　色調：外面橙～にぶい黄橙色。内面橙色。　胎土：礫（白少，灰微），砂（白多，透多，赤少）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部ヘラ削りヘラミガキ。内面ヘラナデ・ヘラミガキ。　使用痕：―　備考：―



第 15 図　三反田遺跡第７次調査区第３号住居跡



第 16 図　三反田遺跡第７次調査区第３号住居跡出土遺物

３　台帳：P6　材質：土師器　器種：器台　残存：裾部 10％　法量：器高（2.7），底径（11.8）　色調：内外面とも暗褐色　胎土：砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：内外面ともヨコナデ。　使用痕：―　備考：―

４　台帳：P5　材質：土師器　種類：土錘　法量：長 4.3，最大径 3.2，孔径 0.7 ～ 1.5，重量 47.71g　備考：―

第４号住居跡

遺構　住居跡南半部分の調査である。当住居跡の主軸方向は，N-22°　-W を測る。竪穴部の規模は，東西 7.6 m，南北 5.0 m以上で，形状は方形である。壁高は東壁 0.1 m，西壁 0.1 m，南壁 0.1 mを測る。壁周溝は認められたが，所々途切れている。炉は床をやや掘りくぼめ，全体に焼土が薄く形成されていた。床面からのピットの深さは，ピット１：10cm，ピット２：57cm，ピット３：70cm，ピット４：80cm，ピット５：10cm，ピット６：11cm を測る。ピット３・４が主柱穴であろう。南東隅にあり方形を呈するやや大きめのピットであるピット２はいわゆる貯蔵穴として理解できよう。床面の所々に焼土の堆積がみられ，床面から炭化材が出土している点からみて，当住居跡は火事にあったと考えられる。

遺物出土状況　土錘 24・25 を除き，いずれも破片での出土である。

遺物説明

第 19 図

１　台帳：P6，４住・Pit2　材質：土師器　器種：甕　残存：口縁～胴部上位 20％　法量：口径（18.7），器高（6.7）　色調：外面にぶい黄橙～褐色。内面にぶい黄橙色。　胎土：礫（白少），砂（白少，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，頸部～胴部ハケ。内面口縁部ヨコナデ，頸部ハケ，胴部ヘラナデ。　使用痕：―　備考：―

２　台帳：４住　材質：土師器　器種：台付甕　残存：台部 10％　法量：器高（5.5），底径（11.9）　色調：内外面とも橙～にぶい橙色。　胎土：砂（白少，黒微）　焼成：良好　技法等：内外面ともヘラナデ。　技法等：―　備考：―

３　台帳：P5，Pit2・４住　材質：土師器　器種：甕　残存：底部 100％　法量：器高（4.5），底径 8.0　色調：外面暗褐～黒褐色。内面暗褐色。　胎土：礫（白少，赤微），砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面胴部ヘラ削り後ヘラミガキ，底面ヘラ削り。内面ヘラナデ。　技法等：―　備考：―

４　台帳：P13　材質：土師器　器種：甕　残存：底部 90％　法量：器高（2.2），底径 7.9　色調：外面にぶい橙～黒褐色。内面橙色。　胎土：礫（白少），砂（白多，透多，灰少，黒少，赤微）　焼成：良好　技法等：外面ヘラ削り，底面木葉痕。内面ヘラナデ。　使用痕：―　備考：―

５　台帳：P1，４住・Pit2　材質：土師器　器種：壷　残存：口縁部 90％　法量：口径 18.4，器高（5.5）　色調：外面赤～橙色。内面赤～黒色。　胎土：礫（白少），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ・赤彩による円文，頸部ハケ・円形浮文，円形浮文は赤彩。内面ヘラミガキ。内面に赤彩される。　使用痕：―　備考：―

６　台帳：P26・27，４住　材質：土師器　器種：壷　残存：口縁部 20％　法量：口径（18.0），器高（3.0）　色調：外面赤～黄橙色。内面赤

土層説明

4住 AB 土層説明

1　暗褐色（黒褐色土混じる　炭化材含む）
2　褐色（ローム粒やや多量含む　ローム小ブロック含む）
3　黒褐色
4　暗褐色（ローム粒含む）
5　暗褐色
6　暗褐色（ローム粒含む）
7　褐色（ローム粒やや多量含む）
8　明褐色（ロームブロック多量含む　黒褐色土混じる　締まり有り　4住床面）
9　明褐色（ロームブロック多量含む　黒褐色土混じる　4住掘形埋土）
10　暗褐色（焼土粒含む）
11　暗褐色（焼土粒やや多量含む）

4住 CD 土層説明

1　暗褐色（ローム粒やや多量含む　ローム小ブロック少量含む）
2　黒褐色

4住掘形 CD 土層説明

1　暗褐色（ローム粒含む）
2　明褐色（ローム粒多量含む）
3　明褐色（ロームブロックと黒褐色土の混合層）
4　褐色（焼土粒多量含む　焼土小ブロック含む　暗褐色土混じる）

第 17 図　三反田遺跡第７次調査区第４号住居跡

～にぶい黄橙色。　胎土：礫（白少），砂（白多，透多），金雲母含む　焼成：良好　技法等：外面棒状浮文。内面ヘラナデ。外面頸部と内面に赤彩か。　使用痕：―　備考：―

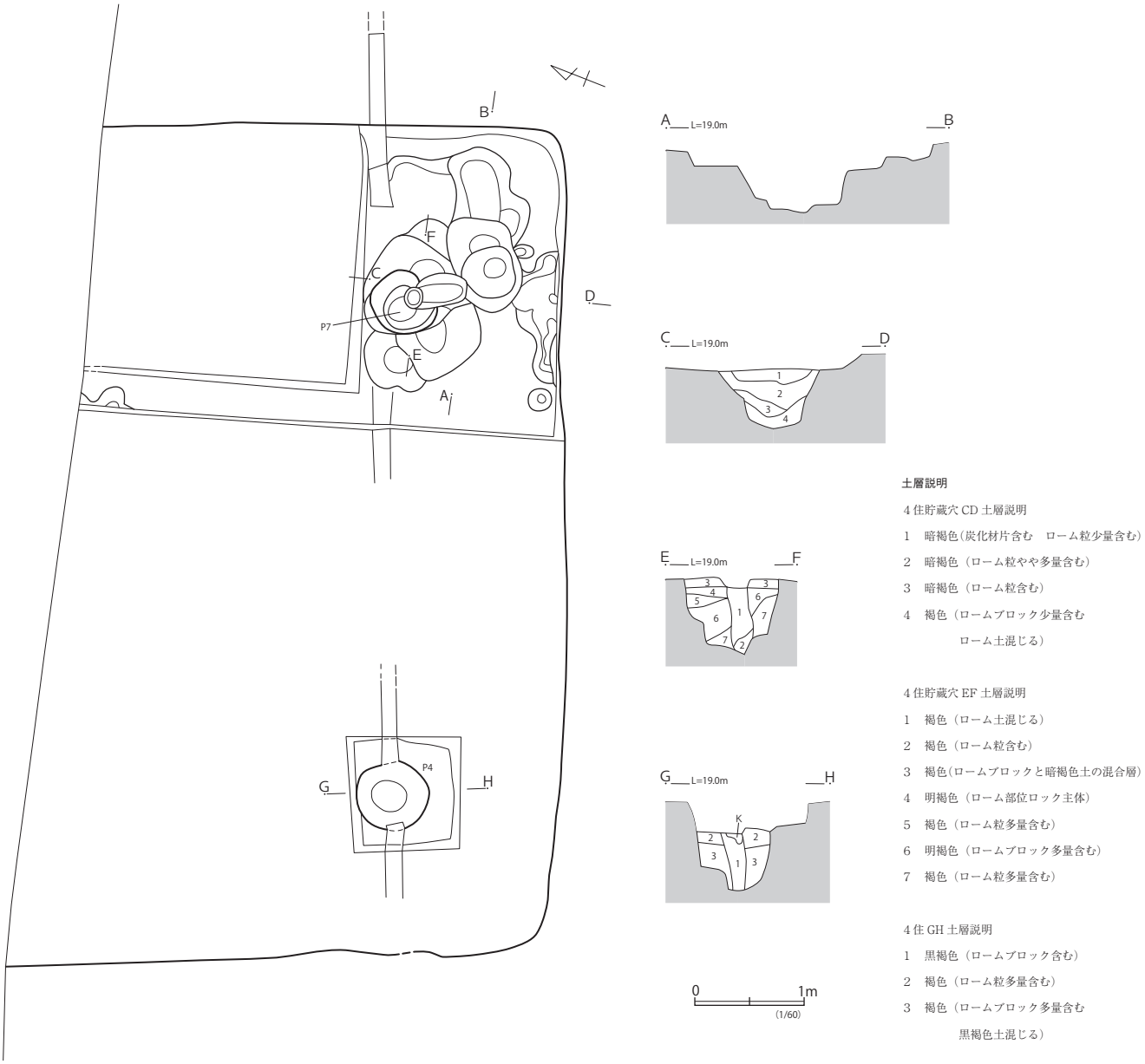
7　台帳:P23　材質:土師器　器種:壷　残存:頸部10%　法量:器高(5.0)　色調:外面橙色。内面暗褐色。　胎土:小石（白微），礫（白少），砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面ヘラナデ・櫛歯状工具による押捺。内面ナデ。　使用痕：―　備考：―

8　台帳: 4住　材質:土師器　器種:壷　残存:口縁部　法量:―　色調:外面暗褐色。内面にぶい黄橙色。　胎土：礫（白少），砂（白多，透多，黒少），金雲母含む　焼成：良好　技法等：外面口唇部ヘラ状工具による刻み，ヘラナデ。内面ヘラナデ。　使用痕：―　備考：―

9　台帳：4住　材質：土師器　器種：壷　残存：―　法量：―　色調：内外面とも橙色。　胎土：砂（白少，透多）　焼成：良好　技法等：外面ハケ，棒状浮文。内面ヘラナデ・ヘラミガキ。　使用痕：―　備考：―

10　台帳：P3・4，4住 Pit3　材質：土師器　器種：壷？　残存：胴部20%　法量：器高（26.7）　色調：内外面とも赤～橙～浅黄橙～黒色。胎土：礫（白微），砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：内外面ともヘラナデ。　使用痕：―　備考：―

11　台帳：P29　材質：土師器　器種：壷　残存：胴部10%，底部100%　法量：器高（8.3），底径2.6　色調：外面にぶい黄橙～黒色。内面にぶ



第18図 三反田遺跡第7次調査区第4号住居跡掘形

い黄橙色。 胎土：礫（白微），砂（白多，透多） 焼成：良好 技法等：外面胴部ヘラミガキ，底面ヘラ削り。凹み底。内面ヘラナデ。 使用痕：— 備考：—

12 台帳：P 31 材質：土師器 器種：壷 残存：底部100％ 法量：器高（1.5），底径3.3 色調：外面赤～にぶい橙色。内面にぶい橙色。胎土：礫（白少），砂（白多，透多） 焼成：良好 技法等：外面胴部ヘラ削り後ヘラミガキ。底面ヘラナデ。内面ヘラナデ。 使用痕：— 備考：—

13 台帳：4住 材質：土師器 器種：高杯 残存：杯部10％ 法量：口径（23.9），器高（5.0） 色調：内外面とも橙～にぶい橙色。 胎土：小石（白微），礫（白多，透多） 焼成：良好 技法等：外面ハケ後ヘラナデ・ヘラミガキ。内面口縁部ヨコナデ，体部ハケ後ヘラミガキ。 使用痕：— 備考：—

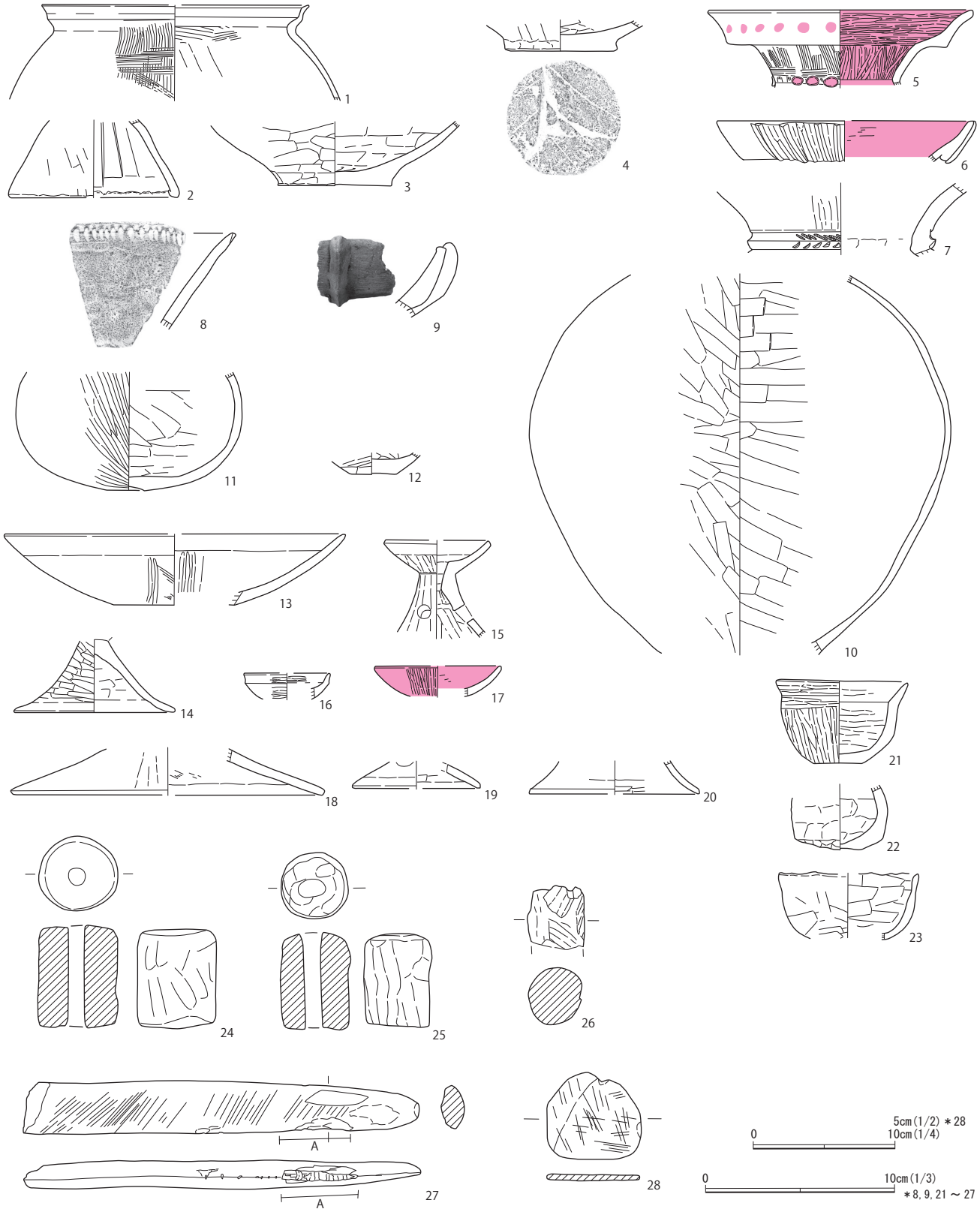
14 台帳：P32，Pit2 材質：土師器 器種：高杯 残存：脚部60％ 法量：器高（5.1），底径11.4 色調：外面橙～にぶい橙～暗褐～黒褐色。内面黒褐色。 胎土：礫（白微），砂（白多，透多） 焼成：良好 技法等：外面ヘラ削り後ヘラミガキ，下位のみヨコナデ。内面ヘラナデ，下位のみヨコナデ。 使用痕：— 備考：—

15 台帳：P21 材質：土師器 器種：器台 残存：30％ 法量：口径（7.2），器高（6.9） 色調：内外面とも橙～にぶい黄橙色。 胎土：礫（白微），砂（白多，透多） 焼成：良好 技法等：外面器受部上位ヨコナデ，中位～胴部ヘラミガキ。内面器受部上位ヨコナデ，中位～脚部ヘラナデ。 使用痕：— 備考：—

16 台帳：4住 材質：土師器 器種：器台 残存：器受部10％ 法量：口径（5.9），器高（1.9） 色調：内外面ともにぶい黄橙色。 胎土：小石（白多，透多） 焼成：良好 技法等：内外面ともヘラミガキ。 使用痕：— 備考：—

17 台帳：4住 Pit2 材質：土師器 器種：器台 残存：器受部10％ 法量：口径（8.8），器高（2.2） 色調：外面赤～灰赤～黒色。内面赤～黒色。胎土：砂（白少，透多） 焼成：良好 技法等：外面ヘラミガキ。内面ナデ。内外面に赤彩。 使用痕：— 備考：—

18 台帳：P19，4住 材質：土師器 器種：器台 残存：脚部20％ 法量：



第 19 図　三反田遺跡第７次調査区第４号住居跡出土遺物

器高（3.3），底径（21.8）　色調：外面橙色。内面橙～にぶい橙色。　胎土：礫（白少）、砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面ヘラナデ？内面ヘラナデ・ハケ・ヨコナデ。　使用痕：―　備考：内外面とも器面が摩滅している。

19　台帳：4 住　材質：土師器　器種：器台　残存：脚部 10％　法量：器高（2.0），底径（9.0）　色調：内外面とも橙～褐色。　胎土：砂（白少，透多）　焼成：良好　技法等：外面ナデ・ヨコナデ。内面ヘラナデ・ヨコナデ。　使用痕：―　備考：―

20　台帳：4 住，Pit2　材質：土師器　器種：器台　残存：脚部 10％　法量：器高（2.3），底径（12.0）　色調：内外面とも浅黄橙色。　胎土：砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：内外面ともヘラナデ。　使用痕：―　備考：―

21　台帳：P17，4住・4住床　材質：土師器　器種：手づくね土器　残存：80％　法量：口径6.9，器高4.4，底径2.5　色調：内外面とも橙色。　胎土：砂（白多，透多，黒微）　焼成：良好　技法等：外面ヘラミガキ。内面ヘラナデ・ヘラミガキ。　使用痕：―　備考：―

22　台帳：P28　材質：土師器　器種：手づくね土器　残存：下位100％　法量：器高（3.5），底径4.5　色調：内外面とも褐色。　胎土：砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：内外面とも指ナデ。　使用痕：―　備考：―

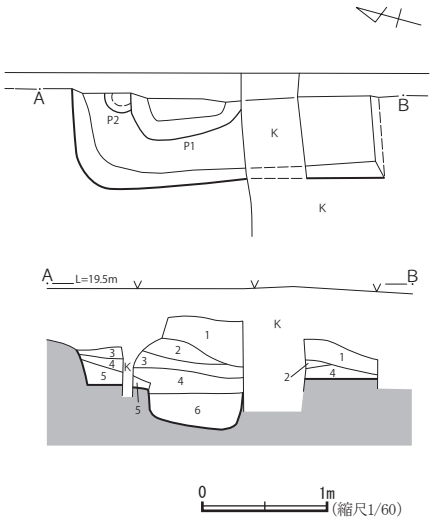
23　台帳：4住・4住炉　材質：土師器　器種：手づくね土器　残存：40％　法量：口径（7.2），器高（3.5）　色調：内外面とも橙～にぶい橙色。　胎土：砂（白多、透多）　焼成：良好　技法等：外面ヘラ削り。内面ヘラナデ。　使用痕：―　備考：―

24　台帳：P33　材質：土師質　種類：土錘　法量：長5.4，最大径4.2，孔径.0.9，重量108.42g　備考：片側穿孔。

25　台帳：P36　材質：土師質　種類：土錘　法量：長5.1，最大径3.5，孔径1.4，重量77.86g　備考：―

26　台帳：P20　材質：土師質　種類：粘土塊　残存：―　法量：長（3.3），最大径3.0　技法等：未調整　備考：―

27　台帳：S1　材質：千枚岩　種類：敲打器（縄文時代の石剣の二次利用）　法量：長20.7，幅2.8，厚1.5，重量131.73g　備考：片面1面に敲打痕。（Aは敲打によるつぶれ部分）。



土層説明

5住AB土層説明

1　暗褐色

2　明褐色（ローム粒やや多量含む　ローム小ブロック少量含む）

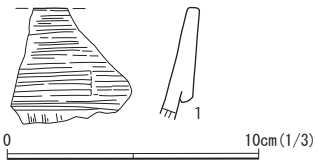
3　褐色（ローム粒含む　ロームブロック少量含む）

4　褐色（ロームブロック含む　黒褐色土混じる）

5　明褐色（ローム小ブロック多量含む　黒褐色土少量混じる）

6　明褐色（ロームブロック多量含む）

第20図　三反田遺跡第７次調査区第５号住居跡



第21図　三反田遺跡第７次調査区第５号住居跡出土遺物

28　台帳：S5　材質：滑石　種類：―　法量：長3.3，幅3.0，厚0.2，重量3.66g　備考：両面とも側面に摩滅あり。

第５号住居跡

遺構　住居跡北西隅部の調査である。当住居跡の主軸方向は，N-17°　-W，竪穴部方形を呈し，規模は東西0.8ｍ以上，南北2.4ｍ以上を測る。壁高は北壁0.3ｍ，西壁0.2ｍを測る。壁周溝は確認できなかった。床面からのピットの深さは，ピット１：35cm，ピット２：３cmを測る。ピット１は方形を呈するやや大きめのピットであることから，貯蔵穴になるのかもしれない。

遺物出土状況　遺物は住居跡覆土中から土師器片が少量出土している。

遺物説明

第21図

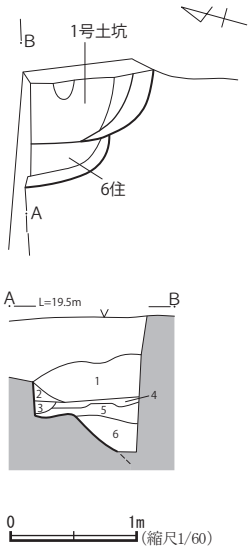
1　台帳：5住　材質：土師器　器種：壷　残存：口縁部10％　法量：―　色調：外面にぶい橙色。内面にぶい黄橙色。　胎土：礫（白微），砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面ハケ。内面ヘラナデ？。　使用痕：―　備考：―

第６号住居跡

遺構　住居跡南西隅のみの確認である。壁高は西壁0.2ｍを測る。壁周溝は確認できなかった。遺物は住居跡覆土中から土師器片が少量出土している。なお当住居跡の床下から，縄文時代の第１号土坑が検出されている。

（２）土坑

第１号土坑



土層説明

6住AB土層説明

1　暗褐色

2　暗褐色（ローム小ブロック少量含む）

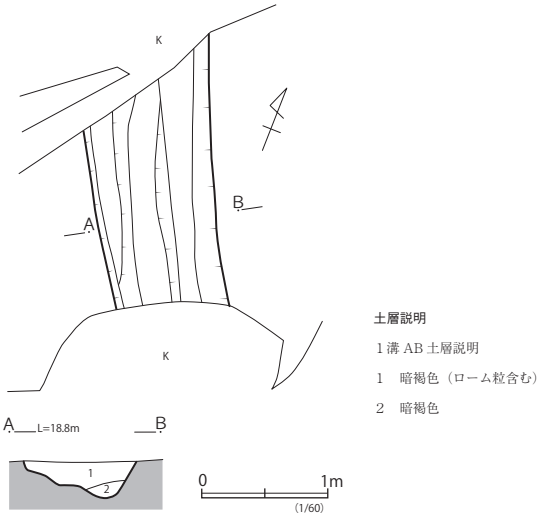
3　褐色（ローム小ブロック含む）

4　褐色（ロームブロック・ローム粒含む　非常に締まり有り　6住床）

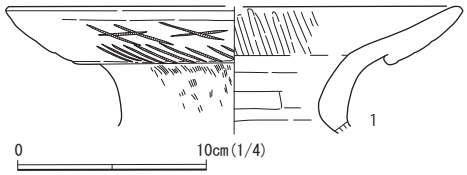
5　明褐色（ロームブロックと暗褐色ブロックとの混合層　締まり有り　6住掘形埋土）

6　褐色（ローム土と暗褐色土の混合層　1号土坑覆土）

第22図　三反田遺跡第７次調査区第６号住居跡・第１号土坑



第 23 図　三反田遺跡第７次調査区第１号溝跡



第 24 図　三反田遺跡第７次調査区表土出土遺物

第６号住居跡と重複して調査された土坑である。壁は斜めになっており底面が調査区外に位置するため深さは確認できなかった。覆土から数点の縄文土器が出土している（第 63 図５・12，第 64 図 59・61）。縄文時代の土坑になると思われるが，風倒木痕の可能性もあろう。

（３）溝跡

第１号溝跡

調査区西側で攪乱部の間で確認された南北方向に伸びる溝跡である。確認された長さ 2.1 m，幅 1.0 m，深さ 28cm を測る。遺物は住居跡覆土中から土師器小片・磁器小片が少量出土している。

（４）表土出土遺物

調査区表土より出土した遺物である。

遺物説明

第 24 図

1　台帳：表採　材質：土師器　器種：壷　残存：口縁部 10％　法量：口径（23.7），器高（6.8）　色調：内外面ともにぶい黄橙～暗褐色。　胎土：礫（白少），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ・刻み，頸部ヘラナデ・ハケ。内面口縁部ヘラナデ・ヘラミガキ，頸部ヘラナデ。　使用痕：―　備考：―

III　第８次調査報告

１　調査の経緯

調査に至る経緯

平成 29 年度の計画通り，今年度は校庭及び渡り廊下建設予定地の約 1,350 ㎡を対象として発掘調査を実施することとした。

調査の経過

所在地 / ひたちなか市三反田字羽黒 3044 番１外

期間 / 平成 30 年７月３日～９月 14 日

担当 / 佐々木義則　面積 /650 ㎡　時代 / 古墳

遺構 / 竪穴住居跡４基（古墳時代前期），方形周溝墓３基（古墳時代前期），石組２基，溝跡４条，道跡１条，土坑３基，ピット１基

調査経過 /

７月 ３ 日：重機による表土除去開始

７月 11 日：遺構掘り込み開始

７月 12 日：図面・写真による記録作業開始

７月 31 日：川崎純徳氏・平野伸生氏視察

８月 ２ 日：市村俊英氏文化財巡視

８月 29 日：博物館実習生・職場体験生徒参加

９月 ６ 日：三反田小学校児童説明会

９月 ９ 日：ふるさと考古学講座見学会

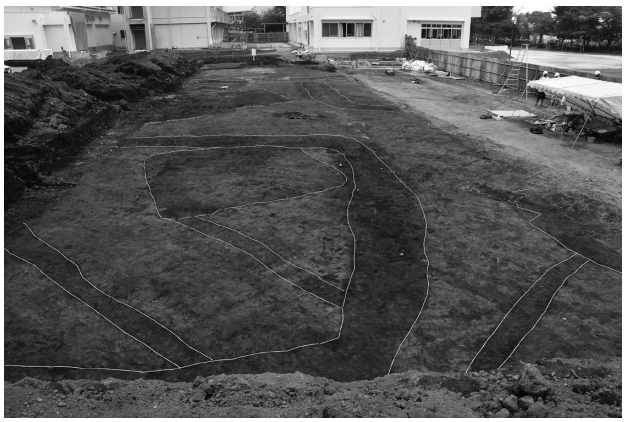
９月 13 日：市広報課によるドローンでの空中撮影

９月 14 日：器材撤収

第 26 図　三反田遺跡第８次調査区作業風景１

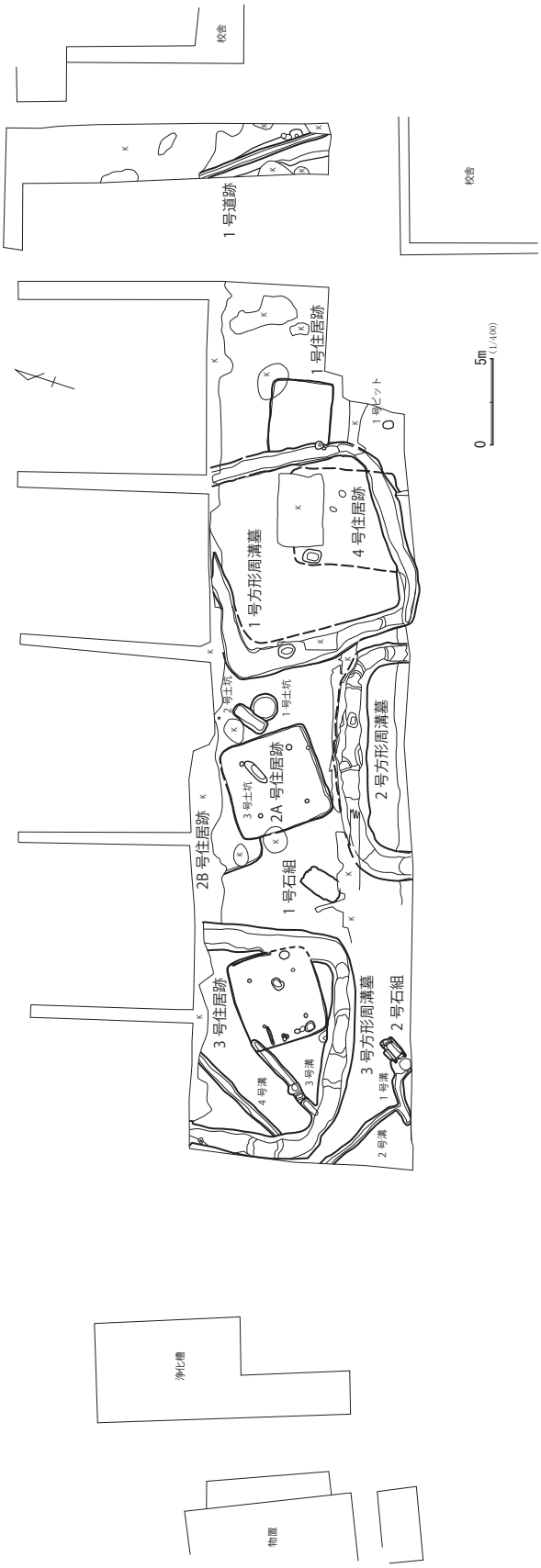
第 27 図　三反田遺跡第８次調査区作業風景２

第 28 図　三反田遺跡第８次調査区三反田小学校児童見学



第 25 図　三反田遺跡第８次調査区遺構確認状況

第 29 図　三反田遺跡第８次調査区ドローンによる空撮



第30図　三反田遺跡第８次調査区

２　遺構と遺物

（１）竪穴住居跡

第１号住居跡

遺構　第１号方形周溝墓と重複する。新旧は，第１号住居跡→第１号方形周溝墓となる。当住居跡の主軸方向は，N-15°　-W を測る。竪穴部の規模は，東西 4.3 m以上，南北 3.5 mで，形状はやや長方形を呈する。壁高は東壁 0.1 m，南壁 0.1 m，北壁 0.1 mを測る。壁周溝は認められていない。主柱穴は掘形調査によっても見つからなかった。床硬化面の範囲は，炉の東側から南側にかけて広がる。床面東側と南側に，帯状に硬化面が見られない部分が認められる。間仕切りがあったのだろうか。炉は不明瞭であるが，住居中央部北側床面の焼土が炉になるのであろう。炉の北側床面が５cm ほどの高まりを持つ点が注意される。ピットは住居南西隅部に２つ存在するが，住居跡に伴うものか不明である。住居掘形は，周囲をやや深く掘り込むタイプであった。北西部に焼土が混じる土が堆積していたが，古い炉の痕跡かもしれない。中央部南側の溝状の掘り込みは，その位置が床面の硬化していない部分と対応しており，間仕切りの痕跡なのかもしれない。

遺物出土状況　いずれも破片であり，覆土中からの出土である。

遺物説明

第 33 図

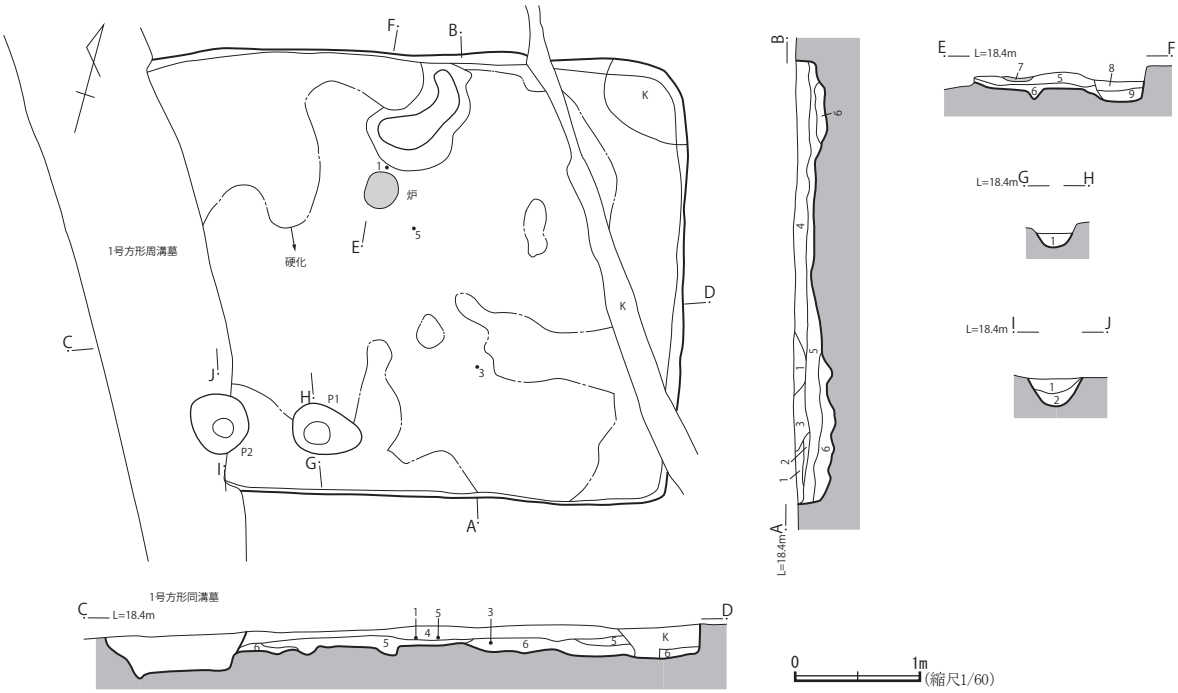
１　台帳：P7　材質：土師器　器種：甕　残存：口縁～胴部上位 20％　法量：口径（16.4），器高（7.2）　色調：内外面とも浅黄色。　胎土：礫（白少），砂（白多，透多，茶少）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，胴部ハケ。内面口縁部ヨコナデ，胴部ヘラナデ。　使用痕：―　備考：―

２　台帳：掘形　材質：土師器　器種：壷　残存：口縁部 20％　法量：口径（19.8），器高（3.7）　色調：内外面とも赤色。　胎土：砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面口唇部縄文，口縁部ハケ・縄文，頸部ヘラミガキ。内面ヘラミガキ？　使用痕：―　備考：―

３　台帳：P2　材質：土師器　器種：壷　残存：口縁部 10％　法量：口径（18.0），器高（2.6）　色調：外面にぶい橙色。内面赤色。　胎土：礫（白微），砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面口唇～口縁部網目状撚糸文。内面ヘラミガキ。　使用痕：―　備考：―

４　台帳：掘形　材質：土師器　器種：壷　残存：口縁部片　法量：―　色調：外面赤～褐色。内面橙色。　胎土：礫（白微），砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面赤彩された円形浮文。　使用痕：―　備考：―

５　台帳：P5　材質：土師器　器種：器台　残存：器受部 90％　法量：口径 7.3，器高（4.2）　色調：外面橙色。内面橙～にぶい橙色。　胎土：砂（白多，透多，灰少）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部ヘラミガキ，胴部ヘラ削り。内面口縁部ヨコナデ，体部ヘラミガキ，脚部しぼり。



土層説明

AB・CD 土層断面・EF 土層断面

1　黒褐色（ロームブロック少量含む　褐色土混じる）

2　褐色

3　褐色（ロームブロック・黒褐色土ブロック含む）

4　暗褐色（ローム粒含む）

5　褐色（ロームブロック多量含む　締まり有り　床面）

6　黒褐色（ロームブロック含む）

7　暗褐色（焼土混じる）

8　褐色（ローム粒多量含む　ローム小ブロック少量含む）

9　明褐色（ロームブロック含む）

GH 土層断面

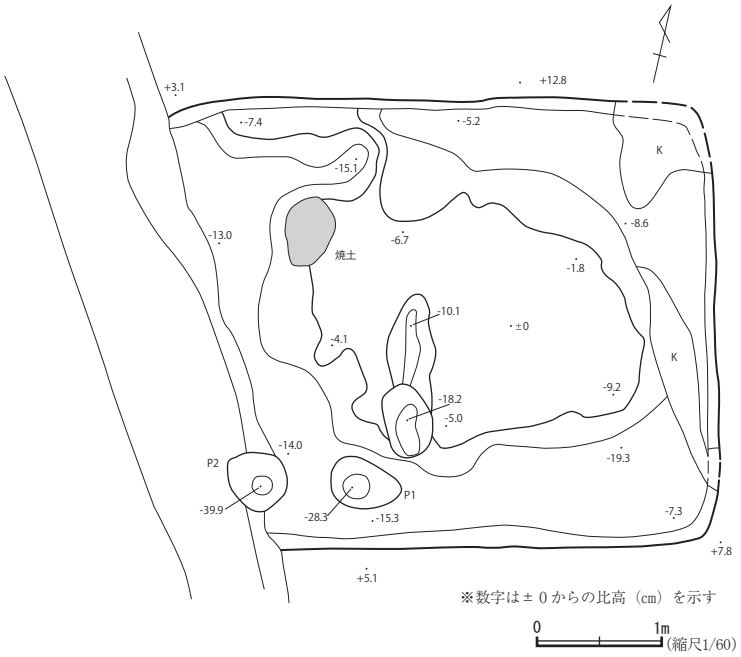
1　褐色（ローム粒多量含む）

IJ 土層断面

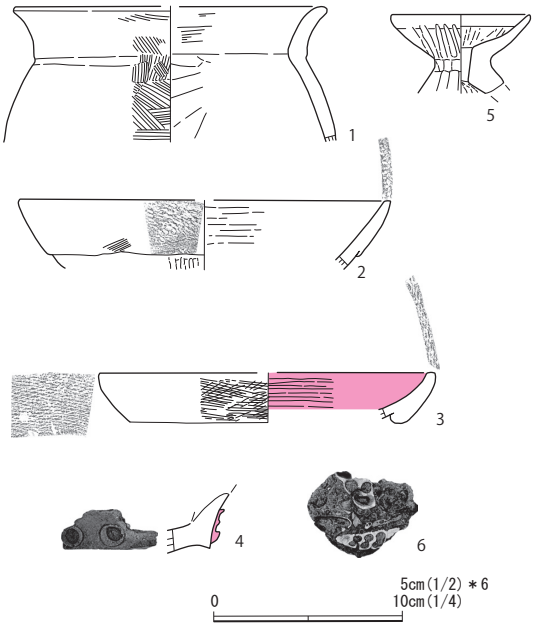
1　暗褐色（ローム粒含む）

2　明褐色（ローム粒非常に多量含む　ローム小ブロック含む）

第 31 図　三反田遺跡第８次調査区第１号住居跡



第 32 図　三反田遺跡第８次調査区第１号住居跡掘形



第 33 図　三反田遺跡第８次調査区第１号住居跡出土遺物

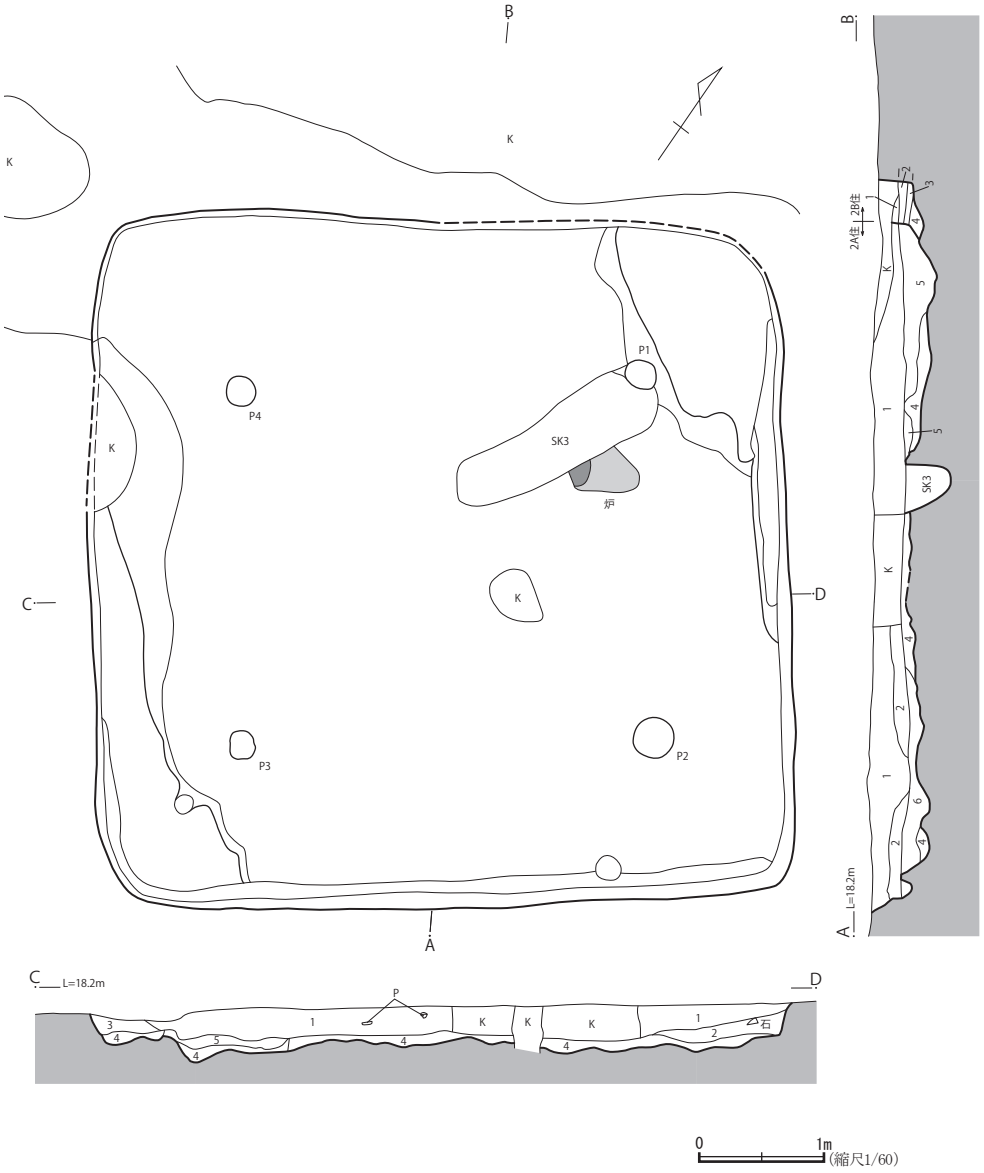
使用痕：―　備考：内外面とも器面が摩滅している。

6　台帳:1 区　材質:石　種類:―　法量:長 2.2, 幅 2.9, 厚 0.8, 重量 5.46g

備考：貝化石を含む海岸の石。

第２A 号住居跡

遺構　第２B 号住居跡と重複する。新旧は不明瞭ではあるが，かろうじて確認できた覆土の切り合い関係からみて第２B 号住居跡→第２A 号住居跡となる。当住居跡の主軸方向はN-55°-E を測る。竪穴部の規模は，東西 5.6



土層説明

AB・CD 土層断面

1　暗褐色（ローム粒）

2　暗褐色（ロームブロック含む　黒褐色土混じる）

3　明褐色（ローム小ブロック多量含む）

4　明褐色（ロームブロック多量含む　締まり有り）

5　暗褐色（ロームブロック含む　黒褐色土混じる　締まり有り）

6　褐色（ロームブロック含む　黒褐色土混じる　締まり有り）

第 34 図　三反田遺跡第８次調査区第２A 号住居跡

m，南北5.5 mで，形状は正方形である。壁高は東壁0.3 m，西壁 0.2 m，南壁 0.3 m，北壁 0.1 mを測る。壁周溝は認められたが，所々途切れている。主柱穴はピット１～４と思われ，床面からの深さは，ピット１：40cm，ピット２：18cm，ピット３：30cm，ピット４：40cm を測る。床は全体的にやや硬化する。床面北東部と南西部の壁際床面が５～ 10cm ほど高くなっていた。炉は床面中央部北東寄りの焼土が炉になるものと思われるが，平面図の濃いトーンで示した部分がより強く焼けていた。住居掘形は壁際を除く住居外周部を掘り込むタイプであった。

遺物出土状況　覆土中から出土した遺物は破損品であり，他住居からの廃棄品が主になるものと考えられる。ただし，土錘類はその多くが床面付近からの出土であり，なおかつ住居西方隅部にまとまりをもつことから，そのあたりにまとめ置かれていたものと推定される。

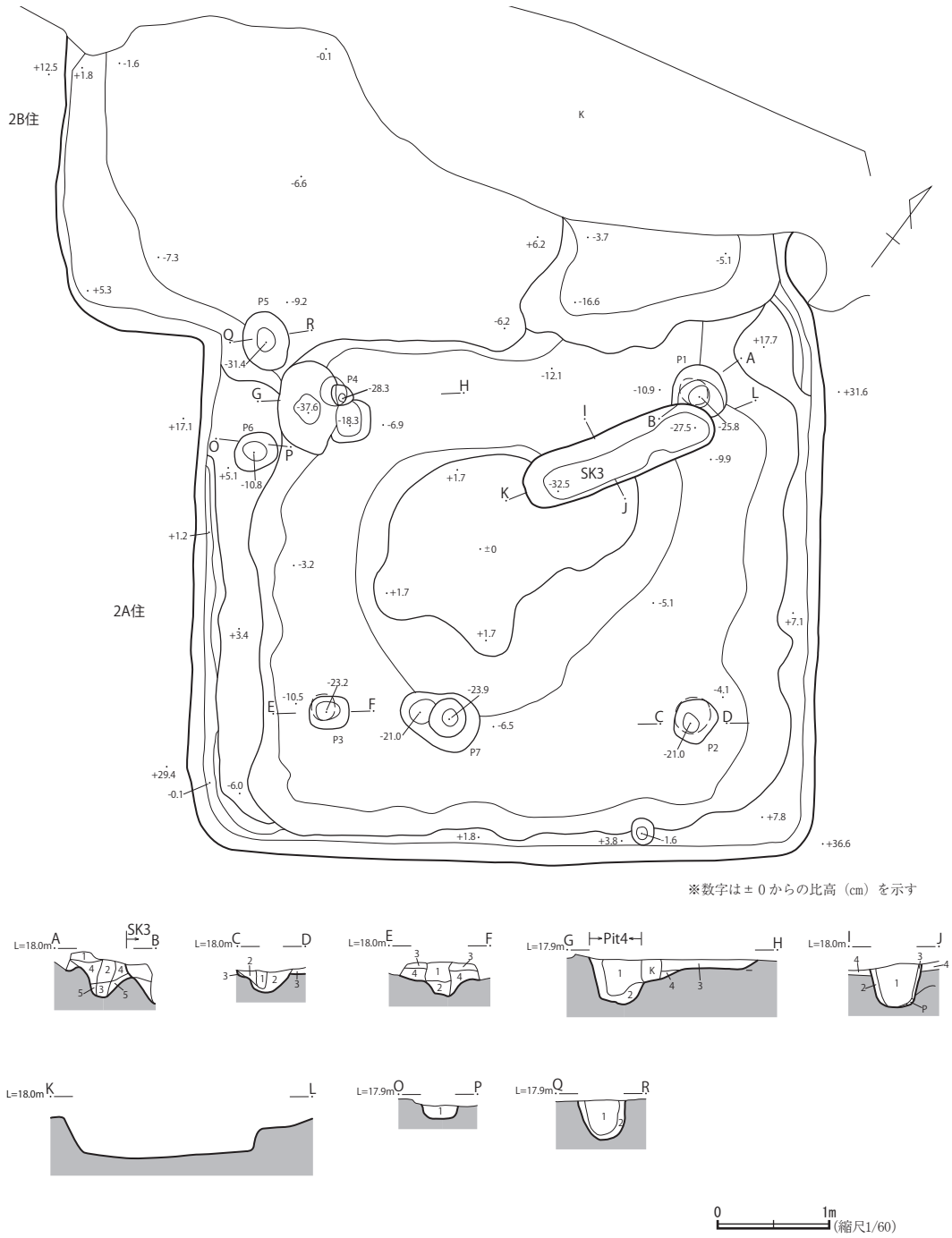
遺物説明

第 37 図

1　台帳：P7・9・10・58，1 区・2 区・床・掘形　材質：土師器　器種：甕　残存：口縁部 20%，胴部 50%　法量：器高（22.1）　色調：外面暗褐～黒褐色。内面にぶい黄橙～暗褐色。　胎土：礫（白少），砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヘラナデ，胴部ヘラナデ。内面ヘラナデ・ナデ。　使用痕：外面胴部下位器面が被熱により薄く剥離している。　備考：―

2　台帳：P25　材質：土師器　器種：台付甕　残存：台部 100%　法量：器高（9.2），底径 10.0　色調：内外面とも赤橙～橙～浅黄～暗褐～黒色。　胎土：砂（白少，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面胴～脚部上位ハケ，中～下位ヘラナデ。内面ヘラナデ。胴部と台部の接合部に砂粒の多い粘土がみられる。　使用痕：被熱している。内面胴部にスス状物付着。　備考：―

3　台帳：P52，4 区　材質：土師器　器種：台付甕　残存：台部 20%　法量：器高（6.7）　色調：内外面ともにぶい橙～にぶい赤褐色。　胎土：礫（白微），



土層説明

AB 土層断面

1　褐色（ローム粒含む
ローム小ブロック少量含む
締まり有り　2A 住床）

2　暗褐色

3　暗褐色

4　褐色

5　褐色

CD 土層断面

1　褐色（ローム粒多量含む）

2　褐色（ローム小ブロック多量含む
黒色土混じる）

3　明褐色（ロームブロック多量含む
住居堀形フク土）

EF 土層断面

1　褐色（ローム粒含む）

2　褐色（ローム粒多量含む
ローム小ブロック少量含む）

3　褐色（ローム粒多量含む
黒色土粒含む　床）

4　褐色（ロームブロック・
ローム粒含む　黒色土混じる）

GH 土層断面

1　暗褐色（ローム粒含む
ローム小ブロック含む）

2　暗褐色（ロームブロック含む）

3　褐色（ロームブロック含む
ローム粒多量含む）

4　黄褐色（ローム土主体）

IJ 土層断面

1　黒褐色（ローム粒含む）

2　明褐色（ローム粒多量含む）

3　褐色(ローム小ブロック多量に含む)

4　黄褐色（ローム土多量に混じる
2A 住掘形覆土）

MN 土層断面

1　褐色（ローム粒・焼土粒含む）

2　明褐色（ローム粒･焼土粒多量含む）

3　黒褐色(ローム粒含む　土坑フク土)

OP 土層断面

1　明褐色（ローム土多量含む）

QR 土層断面

1　褐色（ローム粒含む）

2　暗褐色（ローム粒多量含む）

第 35 図　三反田遺跡第８次調査区第２Ａ・２Ｂ号住居跡掘形および第３号土坑

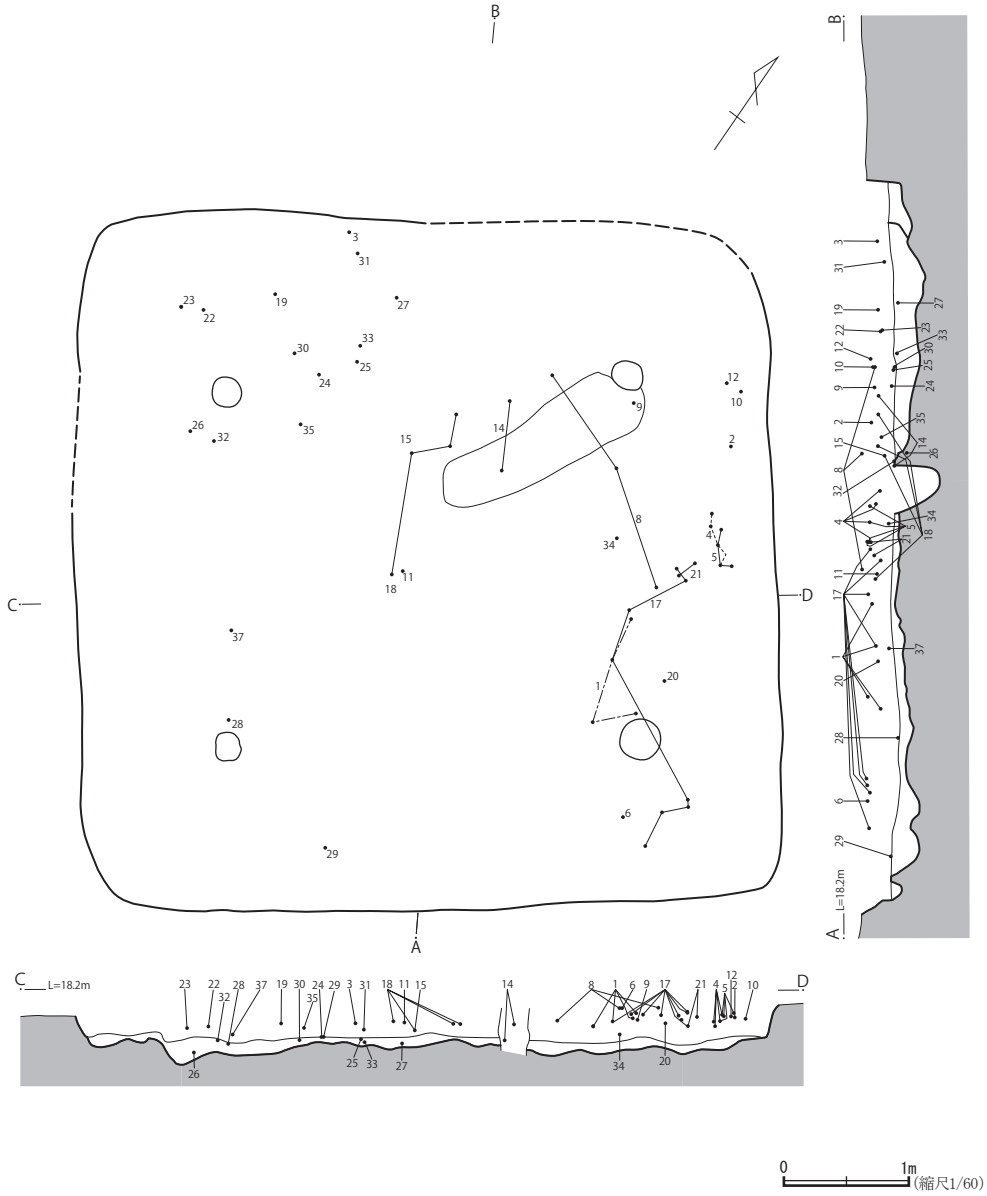
砂（白多，透多，赤少）　焼成:良好　外面胴部ヘラ削り，台部ヘラナデ。内面ヘラナデ。　使用痕：―　備考：―

４　台帳：P17・19・21・22，１区　材質：土師器　器種：甕　残存：口縁～胴部 80%，台部 100%　法量：口径 12.2，器高 15.3，底径 7.5　色調:外面にぶい黄橙～暗褐～黒褐色。内面にぶい赤橙色。　胎土:小石(白微)，礫（白少），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面口縁部指ナデ，胴～台部ハケ・ヘラナデ。内面口縁部ハケ，胴部上位ヘラナデ，胴部上位ヘラナデ，下位ヘラ削り，台部上位ヘラナデ，下位ハケ。　使用痕：―　備考：―

５　台帳：P17 ～ 20，１区･床･２住　材質:土師器　器種:台付甕　残存:口縁～台部上位 60%　法量：口径 12.4，器高（11.7）　色調：外面にぶい黄橙～暗褐～黒褐色。内面浅黄橙色。　胎土：小石（白微），礫（白少），砂（白多，透多，赤少）　焼成：良好　技法等：外面口縁部上位ハケ，下位ヘラナデ，胴部ヘラナデ・一部ハケ，台部ヘラナデ。内面口縁部ハケ・ヘラナデ，胴部上位ヘラナデ，下位ヘラ削り，台部ヘラナデ。　使用痕:二次焼成を受けている。外面胴部にスス状物付着。　備考：―

６　台帳：P2　材質：土師器　器種：台付甕　残存：台部 100%　法量：器高（5.8），底径 6.5　色調：内外面とも橙～にぶい黄橙～黒色。　胎土:小石（白微），礫（白微），砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面胴部ヘラ削り，台部ヘラナデ・ヘラミガキ。内面胴部ヘラナデ，台部ヨコナデ・ナデ。　使用痕：―　備考：―

７　台帳：１区　材質：土師器　器種：甕　残存：底部 20%　法量：器高(2.1)，底径(11.5)　色調:外面暗褐～黒褐色。内面にぶい橙色。　胎土:砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面胴部ヘラ削り，底面



第 36 図　三反田遺跡第８次調査区第２A 号住居跡遺物出土状況

ナデ。内面ヘラナデ。底面は凹む底。　使用痕：外面器面にスス状物が付着している。　備考：—

８　台帳：P12・31・36　材質：土師器　器種：壷　残存：口縁～頸部 40%　法量：口径（17.9），器高（4.9）　色調：外面赤～橙色。内面赤～黒褐色。　胎土：礫（白微），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヘラナデ，頸部ハケ・ヘラナデ。内面ヘラナデ。内外面に赤彩。　使用痕：—　備考：—

９　台帳：P32　材質：土師器　器種：壷　残存：口縁部 10%　法量：口径（15.0），器高（3.2）　色調：外面にぶい黄橙色。内面赤色。　胎土：礫（白微），砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面口縁部上位ヨコナデ，中～下位ハケ。内面ハケ・ヘラミガキ。内面に赤彩。　使用痕：—　備考：—

10　台帳：P27，炉１　材質：土師器　器種：壷　残存：口縁～頸部 80%，胴部 10%　法量：口径 14.6，器高（8.8）　色調：内外面とも橙～灰黄褐色。　胎土：礫（白微），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，頸部上位指押捺，下位ヘラナデ，胴部ヘラ削り。内面口縁部ヘラナデ・一部ヘラミガキ，頸部ヘラナデ，胴部ナデ。　使用痕：—　備考：—

11　台帳：P45　材質：土師器　器種：壷　残存：口縁部 10%　法量：口径（20.0），器高（3.2）　色調：内外面とも黄橙色。　胎土：礫（白微），砂（白多，透多，黒少，赤少）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヘラナデ，頸部指押捺。内面ヘラナデ。　使用痕：—　備考：粗雑な作りの土器。内外面とも器面が摩滅している。

12　台帳：P29　材質：土師器　器種：壷　残存：口縁部 10%　法量：口径（18.2），器高（4.2）　色調：外面橙色。内面橙～にぶい黄橙色。　胎土：礫（白微），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ハケ後ヘラナデ，頸部ハケ。内面ヘラナデ・ヘラミガキ。　使用痕：—　備考：—

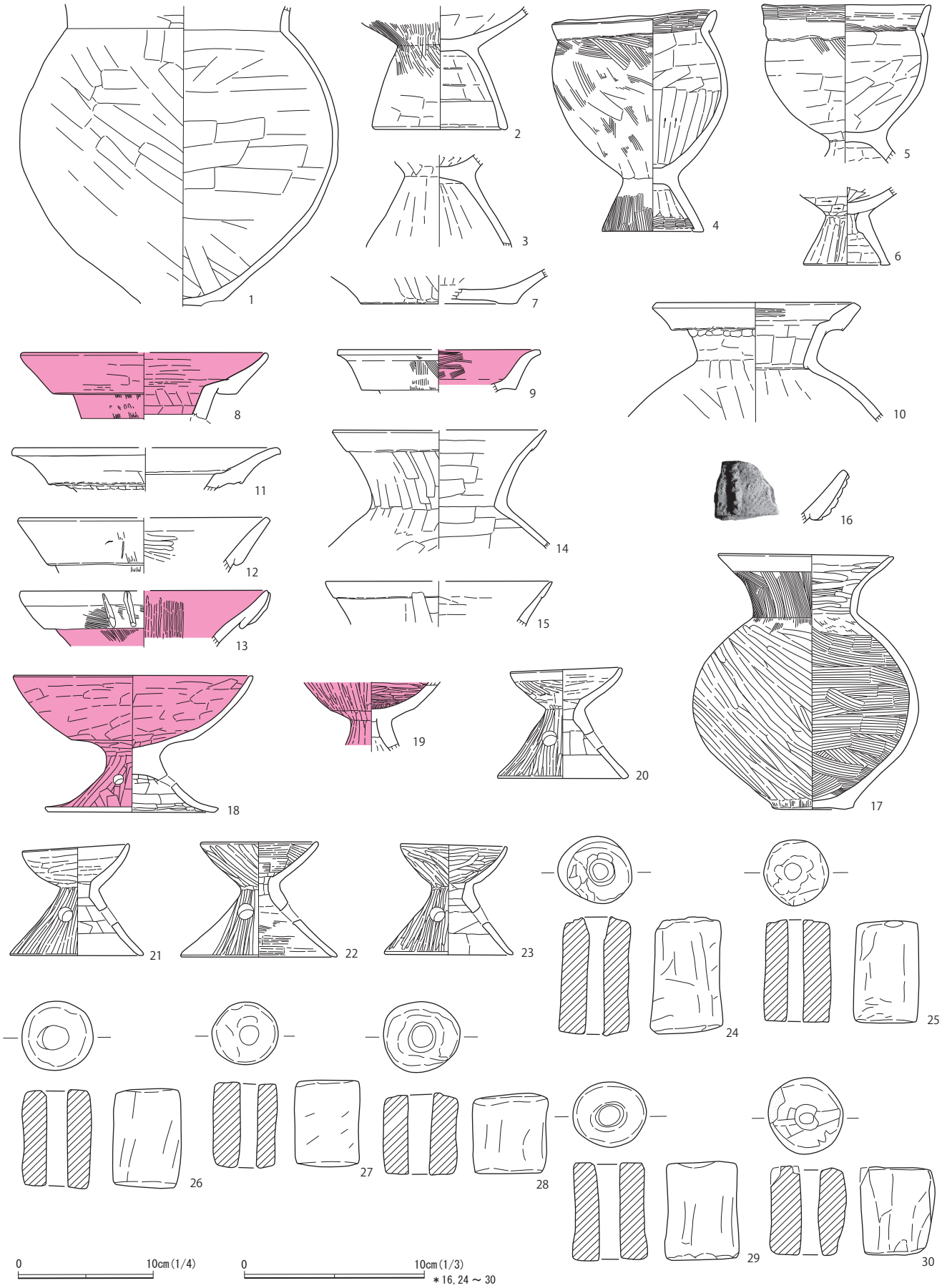
13　台帳：1 区　材質：土師器　器種：壷　残存：口縁部 10%　法量：口径（18.2），器高（4.2）　色調：外面赤～暗褐色。内面赤色。　胎土：砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面口縁部上位ヨコナデ，下位～頸部ハケ，口縁部に棒状浮文。内面口縁部上位ヨコナデ，下位ヘラミガキ。外面頸部と内面に赤彩。　使用痕：—　備考：—

14　台帳：P37・40，1 区・2 区・1 区掘形・SK3　材質：土師器　器種：壷　残存：口縁～胴部上位 20%　法量：口径（15.6），器高（8.8）　色調：内外面ともにぶい黄橙～暗褐色。　胎土：礫（白微），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，頸～胴部ヘラナデ。内面ヘラナデ。　使用痕：—　備考：—

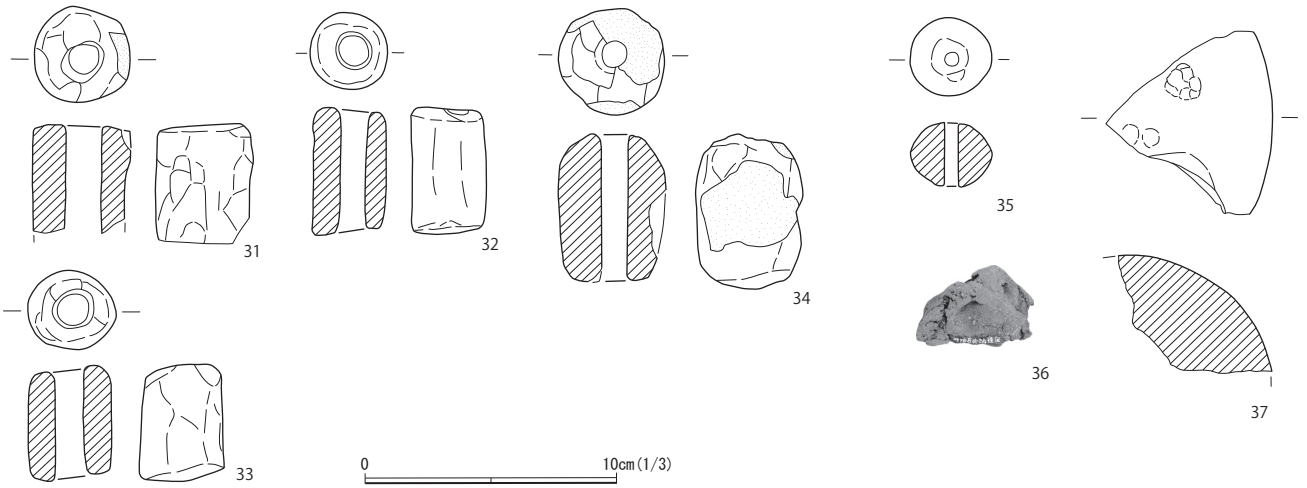
15　台帳：P43　材質：土師器　器種：壷　残存：口縁部 10%　法量：口径（16.7），器高（3.4）　色調：内外面ともにぶい黄橙～灰白色。　胎土：砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，頸部ヘラナデ。内面ヘラナデ。　使用痕：—　備考：—

16　台帳：1 区掘形　材質：土師器　器種：壷　残存：口縁部片　法量：—　色調：外面浅黄色。内面浅黄～灰黄色。　胎土：礫（白微），砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面口縁部縄文，刻みのある棒状浮文。　使用痕：—　備考：—

17　台帳：P3・4・5・9・11・13・56・57・59，1 区・2 区　材質：土師器　器種：壷　残存：70%　法量：口径 12.8，器高 19.0，底径 6.0　色調：内外面とも橙～浅黄橙～にぶい黄橙色。　胎土：砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，頸部ハケ，胴部ヘラミガキ，



第 37 図　三反田遺跡第８次調査区第２A 号住居跡出土遺物 (1)



第 38 図　三反田遺跡第８次調査区第２A 号住居跡出土遺物 (2)

下位のみハケ, 底面ヘラナデ。内面口縁部ヘラナデ･ヘラミガキ･一部ハケ, 胴部ハケ。　使用痕：―　備考：―

18　台帳：P41・42・43・46，1 区～ 4 区・4 区掘形　材質：土師器　器種：高杯　残存：杯部 20%, 脚部 40%　法量：口径（17.3）, 器高 10.1, 底径（12.4）　色調：杯部内外面赤～暗赤褐色。脚部内面褐～暗褐色。　胎土：礫（白微），砂（白多，透多，黒微）　焼成：良好　技法等：外面口縁～体部ヘラ削り後ヘラナデ・ヘラミガキ，脚部ヘラ削り後ヘラミガキ。内面口縁～体部ヘラ削り後ヘラナデ･ヘラミガキ, 脚部ヘラ削り。外面と内面杯部に赤彩。　使用痕：―　備考：―

19　台帳：P53　材質：土師器　器種：高杯　残存：30%　法量：器高（5.3）　色調：内外面とも赤～にぶい黄橙色。　胎土：礫（白少），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面ヘラミガキ。内面杯部ヘラミガキ，脚部ナデ。外面と内面杯部に赤彩。　使用痕：―　備考：―

20　台帳：P8，1 区・2 区　材質：土師器　器種：器台　残存：90%　法量：口径 8.1, 器高 7.8 ～ 8.3, 底径 9.6　色調：内外面ともにぶい黄橙色。　胎土：礫（白微），砂（白多，透多，黒少，赤微）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，体～脚部ヘラミガキ。内面器受部ヘラミガキ？，脚部上位ヘラナデ，下位ヨコナデ。　使用痕：口縁端部と内面器受部，裾端部が摩滅している。　備考：―

21　台帳：P14・16，1 区・SK3　材質：土師器　器種：器台　残存：100%　法量：口径 7.7，器高 7.8 ～ 8.3，底径 9.8　色調：内外面とも橙～にぶい黄橙色。　胎土：砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面器受部ヘラナデ・ヘラミガキ，脚部ヘラミガキ。内面口縁部ヨコナデ，体部ヘラミガキ，孔部ヘラ削り，脚部上位ヘラナデ，下位ヨコナデ。　使用痕：口縁端部と裾端部が摩滅している。　備考：―

22　台帳：P54，4 区・床　材質：土師器　器種：器台　残存：器受部 100%，脚部 20%　法量：口径 8.5，器高 8.6，底径（11.5）　色調：内外面ともにぶい黄橙色。　胎土：礫（白微），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面ヘラミガキ。内面器受部ハケ，脚部ハケ・ヘラナデ。　使用痕：口縁端部と裾端部が摩滅している。　備考：―

23　台帳：P55，4 区・2 住　材質：土師器　器種：器台　残存：80%　法量：口径 7.8，器高 8.0 ～ 8.3，底径 9.4　色調：内外面とも橙色。　胎土：礫（白微），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面ヘラミガキ，脚部下位のみヨコナデ後ヘラミガキ。内面器受部ヘラミガキ，脚部ヘラナデ。　使用痕：口縁端部と裾端部が摩滅している。　備考：―

24　台帳：P50　材質：土師質　種類：土錘　法量：長 6.6，最大径 4.0，孔径 1.2，重量 105.89g　備考：―

25　台帳：P73　材質：土師質　種類：土錘　法量：長 5.7，最大径 3.6，孔径 1.0，重量 90.71g　備考：―

26　台帳：P70　材質：土師質　種類：土錘　法量：長 5.5，最大径 3.9，孔径 1.3，重量 94.04g　備考：―

27　台帳：P75　材質：土師質　種類：土錘　法量：長 4.8，最大径 3.6，孔径 1.1，重量 73.27g　備考：―

28　台帳：P77　材質：土師質　種類：土錘　法量：長 4.4，最大径 4.2，孔径 1.2 ～ 1.5，重量 93.06g　備考：―

29　台帳：P47　材質：土師質　種類：土錘　法量：長 5.4，最大径 4.1，孔径 1.2 ～ 1.4，重量 98.24g　備考：―

30　台帳：P72　材質：土師質　種類：土錘　法量：長 5.0，最大径 4.2，孔径 1.4，重量 97.91g　備考：成形が雑。

第 38 図

31　台帳：P51　材質：土師質　種類：土錘　法量：長（4.7），最大径 3.8，孔径 1.5，重量 62.73g　備考：―

32　台帳：P71　材質：土師質　種類：土錘　法量：長 5.0，最大径 3.0，孔径 1.5，重量 42.48g　備考：表面が摩滅している。

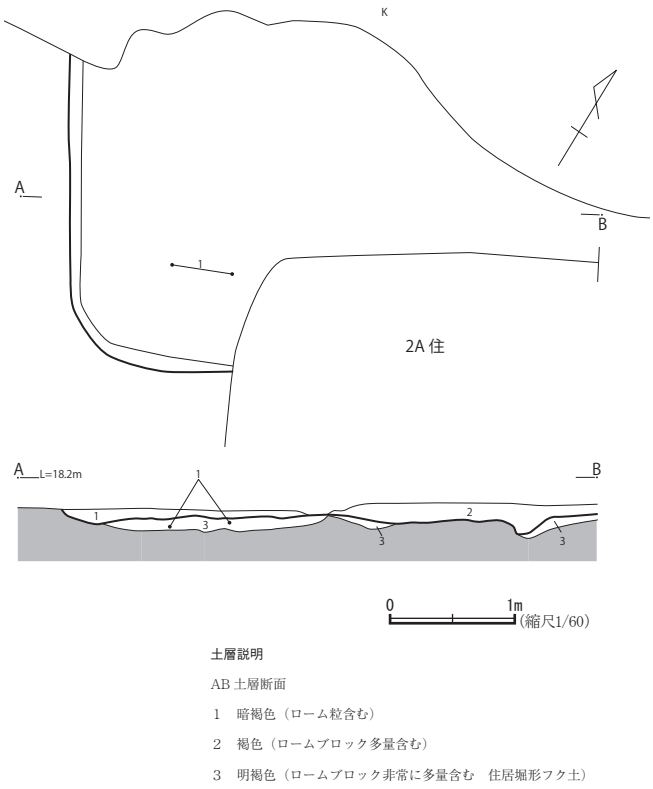
33　台帳：P74　材質：土師質　種類：土錘　法量：長 4.6，最大径 3.5，孔径 1.5，重量 49.61g　備考：―

34　台帳：P28　材質：土師質　種類：土錘　法量：長 6.2，最大径 4.2，孔径 1.1，重量 94.30g　備考：―

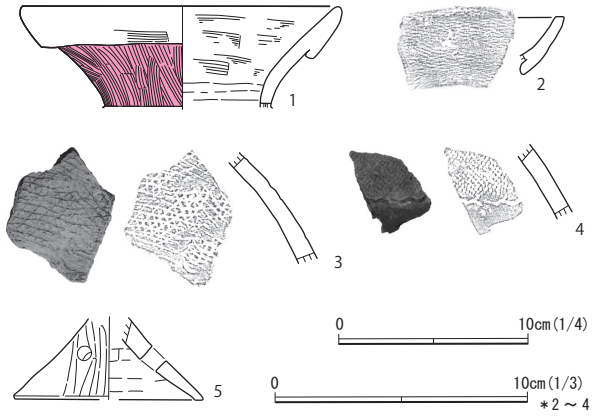
35　台帳：P49　材質：土師質　種類：土玉　法量：径 3.3，厚 2.5，孔径 0.5，重量 24.56g　備考：―

36　台帳：1 区　材質：土師質　種類：粘土塊？　法量：長 4.6, 幅 3.1, 厚 2.0, 重量 21.27g　備考：指で捏ねた痕が残る。

37　台帳：S6　材質：砂岩　種類：台石　法量：長 7.2，幅 6.6，厚 4.5，重量 167.06g　備考：敲打による窪みがみられる。



第 39 図　三反田遺跡第８次調査区第２Ｂ号住居跡



第 40 図　三反田遺跡第８次調査区第２Ｂ号住居跡出土遺物

３　台帳:2B 住　材質:土師器　器種:壷　残存:胴部片　法量:―　色調:内外面とも赤～にぶい黄橙色。　胎土：砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面網目状撚糸文・自縄結節文？　使用痕：―　備考：―

４　台帳：2 住（2B 住）　材質：土師器　器種：壷　残存：胴部片　法量：―　色調:外面赤～橙色。内面にぶい黄橙色。　胎土:小石（茶），砂（白少，透多）　焼成：良好　技法等：外面単節縄文・自縄結節文。　使用痕：―　備考：―

５　台帳：2 住・2B 住　材質：土師器　器種：器台？　残存：脚部 20%　法量:器高（4.4），底径（10.0）　色調:内外面ともにぶい黄橙色。　胎土:礫（白微），砂（白少，透少），骨針含む。　焼成：良好　技法等：外面ヘラナデ・ヘラミガキ。内面ヘラナデ。　使用痕：―　備考：―

第２Ｂ号住居跡

遺構　第２Ａ号住居跡と重複する。新旧は，不明瞭であるが，第２Ｂ号住居跡→第２Ａ号住居跡であろう。当住居跡の主軸方向は，南北方向を主軸と考えると，N-32°-W を測る。竪穴部の規模は，東西 4.2 m以上，南北 2.9 m以上で，形状は不明である。壁高は西壁 0.1 mであり，覆土はごく薄くしか残っておらず，しかも旧校舎造成の際に重機により固められており，状況はよくなかった。壁周溝は認められない。主柱穴は掘形調査によっても見つからなかった。

遺物出土状況　住居覆土が薄いため，いずれも床面付近からの出土である。

遺物説明

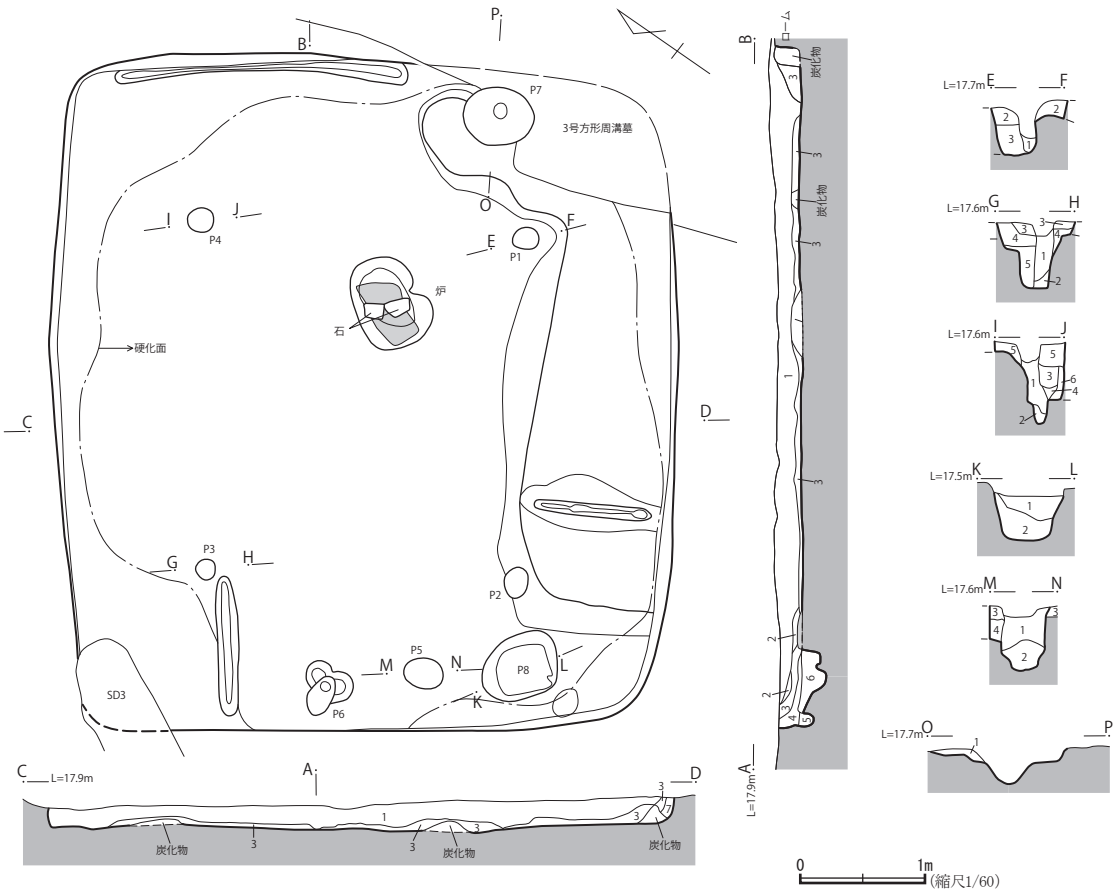
第 40 図

１　台帳:P1･3　材質:土師器　器種:壷　残存:口縁～頸部 70%　法量:口径 16.7，器高（5.4）　色調：外面赤～橙～にぶい橙～暗褐色。内面橙～にぶい橙～黒褐色　胎土：礫（白微，灰微），砂（白多、透多）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，ハケ，頸部ハケ。内面ハケ後ナデ。外面頸部に赤彩。　使用痕：―　備考：―

２　台帳：2B 住　材質：土師器　器種：壷　残存：口縁部片　法量：―　色調:外面浅黄～にぶい浅黄色。内面にぶい浅黄色。　胎土:礫（白少，灰少），砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面口唇～口縁部網目状撚糸文。　使用痕：―　備考：―

第３号住居跡

遺構　第３号方形周溝墓および第３号溝跡と重複する。新旧は土層から第３号住居跡→第３号方形周溝墓となる。第３号溝跡との新旧は不明である。当住居跡の主軸方向は N-55°-E を測る。竪穴部の規模は，東西 5.4 m，南北 5.0 mで，形状はほぼ正方形である。壁高は東壁 0.2 m，西壁 0.2 m，南壁 0.2 m，北壁 0.2 mを測る。壁周溝は東壁のみ確認できた。主柱穴はピット１～４が該当する。床面からの主柱穴の深さは，ピット 1:44cm，ピット 2：70cm，ピット 3：56cm，ピット 4：63cm を測る。床は壁際を除き硬化するが，ピット６付近のみ壁際まで硬化面が達している。ピット６付近が出入り口になるのであろうか。なお床面は南壁付近が５cm ほど一段高くなっており，その部分にも硬化面は広がる。根太の痕跡と思われる溝は南壁と西壁から伸びている。炉は住居中央やや東寄りのところに設けられており，焼土の堆積が認められた。炉の中央には凝灰質泥岩の切石が二つ並べられていた。南西隅部にあるピット８は多量の土器や穴の蓋かと思われる板状の炭化材が出土しており，貯蔵穴になるものと思われる。なおピット５・７は，当住居跡



土層説明

AB・CD 土層断面

1　明褐色（ロームブロック多量含む　黒褐色土ブロック含む）
2　橙色（焼土）
3　黒色（炭化材多量含む）
4　褐色（ローム粒多量含む）
5　黄褐色（ローム粒主体）
6　明褐色（ローム小ブロック多量含む　締まり有り）
7　褐色（ローム小ブロック多量含む）

EF 土層断面

1　黄褐色（ローム粒主体　締まり有り）
2　褐色（ロームブロック・黒褐色土ブロック多量含む）
3　黄褐色（ロームブロック主体）

GH 土層断面

1　褐色（ローム粒多量含む　締まり無し）
2　明褐色（ローム粒主体　締まり無し）
3　褐色（ロームブロック・黒褐色土ブロック多量含む）
4　黄褐色（ロームブロック主体　黒褐色土小ブロック含む）
5　明褐色（ローム小ブロック多量含む　黒褐色土ブロック含む）

IJ 土層断面

1　褐色（ローム粒多量含む　締まり無し）
2　褐色（ローム粒非常に多量含む　締まり無し）
3　褐色（ローム小ブロック・黒褐色小ブロック・ローム粒多量含む）
4　褐色（黒褐色土ブロック含む）
5　褐色（黒褐色土ブロック・ロームブロック多量含む）
6　黄褐色（ロームブロック主体　黒褐色土小ブロック含む）

KL 土層断面

1　褐色（ローム粒含む　炭化材小片含む）
2　明褐色（ローム小ブロック含む　炭化材含む）

MN 土層断面

1　褐色（ローム粒含む　炭化材少量含む）
2　明褐色（ローム粒主体）
3　明褐色（ロームブロック多量含む）
4　明褐色（ローム小ブロック含む）

OP 土層断面

1　橙色（焼土）

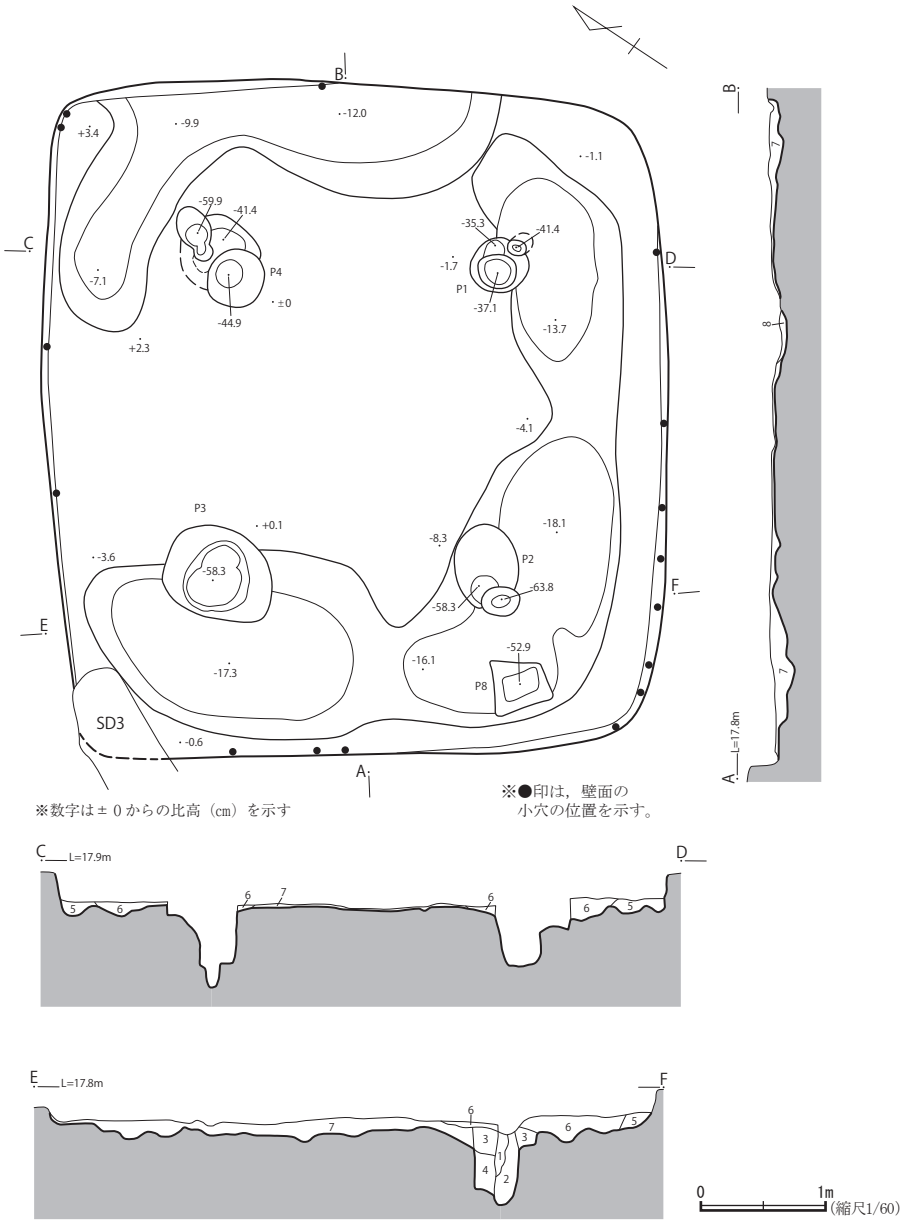
第 41 図　三反田遺跡第８次調査区第３号住居跡

に伴うものか明らかではない。住居掘形は，外周を掘り込むタイプであるが，全周はしておらず，土坑状の掘り込みが連結するような様相を呈していた。なお，掘形調査の際，住居跡壁面に横方向に穿たれた小穴をいくつも確認できた。

遺物出土状況　当住居跡は火事にあっており，床面上から多量の炭化材・焼土が出土した。壁面から直角に残存する炭化材（３～６・９a・13・18・19・25）は垂木の可能性がある。ピット１からピット４にかけて残存する炭化材（１・２・９・11・17 等）は梁だろうか。カヤ状炭化物もカヤの並びが壁面と直角方向を示すことから屋根材になる可能性があろう。板材もいくつか出土するが，特にピット８の上から出土した炭化材 26 は，貯蔵穴の蓋になる可能性が高いと思われる。主柱穴であるピット２に隣接して出土した板材８は，その上に丸い軽石が３つ置かれて出土した。なお，南壁中央部からまとまって出土した炭化材 21 も特異な出土状況であり，注意したい。

遺物説明

第 49 図



土層説明

AB・CD・EF 土層断面

1　明褐色（ローム粒非常に多量含む　締まり無し）

2　褐色（ローム粒多量含む　締まり無し）

3　黄褐色（ローム土主体　黒褐色土粒含む）

4　黄褐色（ローム粒非常に多量含む　黒褐色土混じる）

5　黄褐色（ロームブロック主体　締まり有り）

6　黒褐色（ローム小ブロック多量含む　ロームブロック含む　締まり有り）

7　明褐色（ロームブロック多量含む　黒褐色土混じる　締まり有り）

8　橙（焼土）

第 42 図　三反田遺跡第８次調査区第３号住居跡掘形

1　台帳：P26 ～ 29・31 ～ 34・36・37・39 ～ 44，3 区・Pit8　材質：土師器　器種：台付甕　残存：口縁部・台部 100%，胴部 70%　法量：口径 16.0，器高 28.7，底径 8.9　色調：内外面とも橙～にぶい橙～暗褐～黒色。　胎土：礫（白少），砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面口縁端部ハケ状工具による刻み，口縁～台部ハケ。内面口縁部ハケ，胴～台部ヘラナデ？。器厚は薄い。　使用痕：内外面とも器面が摩滅している。外面胴部器面にスス状物付着。　備考：—

2　台帳：P8・9・10・22・23・38，3 区・6 区・3 周溝・Pit8・表採　材質：土師器　器種：台付甕　残存：口縁～胴部 70%　法量：口径 19.8，器高（25.8）　色調：内外面ともにぶい橙～黒褐色。　胎土：小石（白微），礫（白少），砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面口縁部上位ヨコナデ，下位ヘラナデ・ハケ，胴部ハケ後ヘラナデ・ヘラミガキ。内面口縁部ヨコナデ，胴部ヘラナデ。　使用痕：—　備考：—

3　台帳：P8・10　材質：土師器　器種：台付甕　残存：口縁～胴部 80%　法量：口径 13.6，器高（18.1）　色調：外面赤～赤橙～にぶい赤色。内面橙～黒色。　胎土：小石（白微），礫（白少），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　外面口縁部上位ヨコナデ，下位ヘラ削り，胴部ハケ。内面口縁部ヨコナデ，胴部ヘラナデ・ヘラミガキ。　使用痕：—　備考：—

4　台帳：P1・21　材質：土師器　器種：鉢　残存：口縁～胴部 20%　法量：口径（28.2），器高（23.3）　色調：内外面ともにぶい黄橙～黒褐色。　胎土：砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，頸部に強いヘラナデ，胴部上～中位ハケ後ヘラナデ，下位ヘラ削り。内面口縁部ヘラナデ，胴部ハケ・一部ヘラナデ。　使用痕：—　備考：—

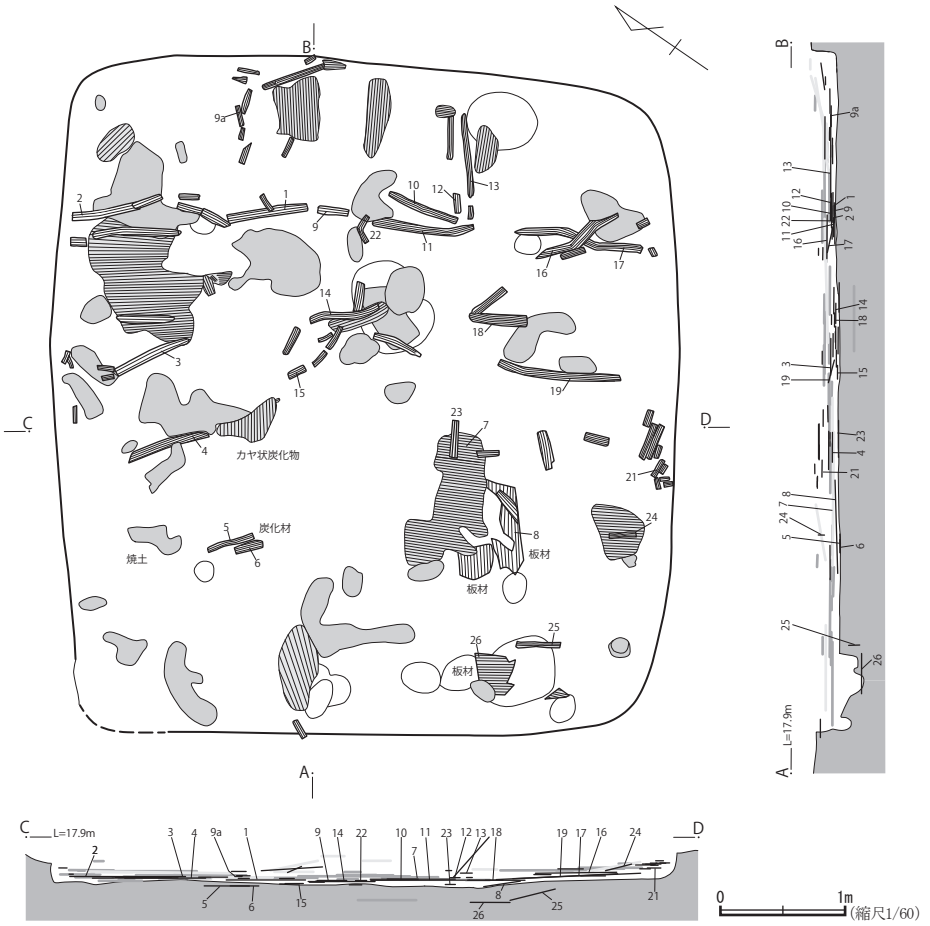
5　台帳：P24・37　材質：土師器　器種：壺　残存：胴～底部 80%　法量：器高（17.9），底径 7.0　色調：外面赤～橙～にぶい橙～暗褐～黒褐色。内面暗褐～黒褐色。　胎土：砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面頸部ハケ・ヘラナデ，胴部ヘラミガキ，底面ヘラ削り。内面胴部上位ヘラナデ，下位ハケ。　使用痕：外面底部周縁が摩滅している。。　備考：—

6　台帳：P14　材質：土師器　器種：壺　残存：口縁部 30%　法量：口径（15.5），器高（4.2）　色調：内外面とも赤～橙～暗褐～黒色。　胎土：礫（白微），砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面口縁部上位ヨコナデ，下位ヘラナデ・ヘラミガキ，頸部ヘラナデ。内面ヘラミガキ。外面頸部と内面に赤彩。　使用痕：—　備考：—

7　台帳：3 区　材質：土師器　器種：壺　残存：口縁部片　法量：—　色調：外面橙色。内面赤～黒色。　胎土：砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面口縁部と口唇部に網目状撚糸文。内面に赤彩。　使用痕：—　備考：—

8　台帳：P6　材質：土師器　器種：壺　残存：頸部片　法量：—　色調：内外面とも赤～橙色。　胎土：砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面頸部に円形浮文。外面と内面口縁部に赤彩。　使用痕：—　備考：—

9　台帳：P39　材質：土師器　器種：有孔鉢（甑）　残存：口縁部 30%，その他 100%　法量：口径（20.3），器高 13.5，底径 5.1　孔径 1.1 ～ 1.7　色調：外面橙色。内面橙～黄橙色。　胎土：礫（白少），砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，胴部ハケ後一部ヘラナデ，底面ヘラナデ。内面口縁部ハケ，胴部ヘラナデ。　使用痕：—　備考：外面の一部が剥離している。



炭化材等の計測値

番号	径（ｃｍ）（カヤ・板は幅）	長さ（ｃｍ）
1	6.8	63
2	5.2	53
3	6.0	64
4	7.0	67
5	4.5	38
6	8.0	23
7	110	56
8	24	76
9	6.5	24
9a	4.0	16
10	5.8	58
11	6.3	80
12	5.3	16
13	5.3	65
14	8.8	56
15	4.5	15
16	6.8	74
17	6.0	12
18	6.8	47
19	4.5	98
20	図化していない	
21	4.5	16
22	4.8	24
23	8.5	15
24	4.0	22
25	—	34
26	34	30

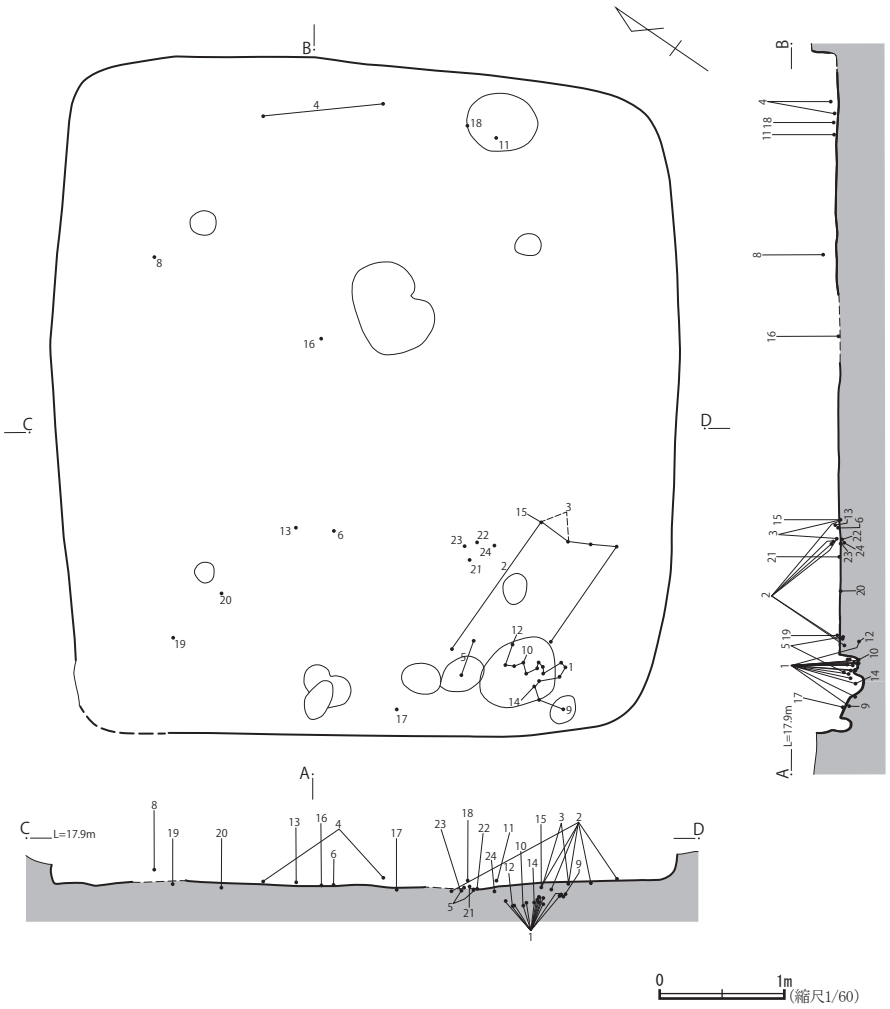
第 43 図　三反田遺跡第８次調査区第３号住居跡炭化材等出土状況

第 44 図　三反田遺跡第８次調査区第３号住居跡炭化材等出土状況

第 45 図　三反田遺跡第８次調査区第３号住居跡炭化材８

第 46 図　三反田遺跡第８次調査区第３号住居跡炭化材 21

第 47 図　三反田遺跡第８次調査区第３号住居跡炭化材 26



第 48 図　三反田遺跡第８次調査区第３号住居跡遺物出土状況

10　台帳：P28　材質：土師器　器種：脚付鉢　残存：鉢部 100%，脚部 20%　法量：口径 11.2，器高（8.7）　色調：外面橙～にぶい橙～黒褐色。内面浅黄～灰黄色。　胎土：礫（白少），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：内外面ともヘラナデ・ヘラミガキ。　使用痕：―　備考：内外面とも器面が摩滅している。

11　台帳：P4　材質：土師器　器種：高杯　残存：杯と脚部の接合部　法量：器高（3.1）　色調：内外面ともにぶい黄橙～暗褐色。　胎土：礫（白微），砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：内外面ともヘラミガキ。　使用痕：―　備考：―

12　台帳：P26　材質：土師器　器種：器台　残存：90%　法量：口径 6.5，器高 9.2 ～ 9.6，底径 11.4　色調：外面にぶい橙～暗褐～黒色。内面器受部橙色，脚部にぶい橙～黒褐色。　胎土：小石（白微），礫（白少），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，体～脚部ハケ後ヘラミガキ，裾部ヨコナデ。内面ヘラナデ。　使用痕：口縁端部の一部が欠失している。　備考：外面の一部にスス状物付着。

13　台帳：P13　材質：土師器　器種：器台　残存：30%　法量：口径（8.0），器高（4.8）　色調：外面赤～にぶい赤橙～暗赤褐色。内面赤～暗褐色。　胎土：小石（白微），礫（白少），砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面ヘラミガキ。内面器受部ヘラミガキ？，脚部ヘラナデ。外面と内面器受部に赤彩。　使用痕：内面口縁端部と底面が摩滅している。　備考：―

14　台帳：P30　材質：土師器　器種：鉢　残存：90%　法量：口径 12.7，器高 3.8 ～ 4.1，底径 3.3　色調：外面橙～にぶい黄橙～黒色。内面にぶい黄橙～黒色。　胎土：小石（白微），礫（白少），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部ヘラミガキ，底面ヘラナデ。内面ヘラナデ。　使用痕：―　備考：―

15　台帳：P10　材質：土師器　器種：小型鉢　残存：口縁部 80%，体部 100%　法量：口径 10.3，器高 5.2　色調：内外面とも橙～にぶい橙～黒色。　胎土：小石（白微），礫（白少），砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面口縁部上位ヨコナデ，下位ヘラナデ・ナデ，体部上～中位ヘラナデ，下位ヘラ削り。内面口縁部ヘラナデ・ナデ，体部ヘラナデ・ヘラミガキ。　使用痕：外面器面が摩滅している。　備考：―

16　台帳：P19　材質：土師器　器種：小型鉢　残存：90%　法量：口径 9.8，器高 5.5　色調：外面にぶい黄褐～黒褐色。内面橙～黒褐色。　胎土：礫（白少），砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，体部ヘラナデ・ナデ。内面口縁～体部上位ヨコナデ，中～下位ヘラナデ。　使用痕：外面底部が摩滅している。　備考：―

17　台帳：P15　材質：土師質　種類：土錘　法量：長 7.5，最大径 4.0，孔径 1.4，重量 145.98g　備考：―

18　台帳：P2　材質：土師質　種類：土玉　法量：径 2.7，厚 2.5，孔径 0.5，重量 19.70g　備考：―

19　台帳：P11　材質：土師質　種類：土玉　法量：径 2.7，厚 2.1，孔径 0.8，重量 14.00g　備考：―

20　台帳：P12　材質：土師質　種類：土玉　法量：径 3.4，厚 2.9，孔径 0.8，重量 32.31g　備考：―

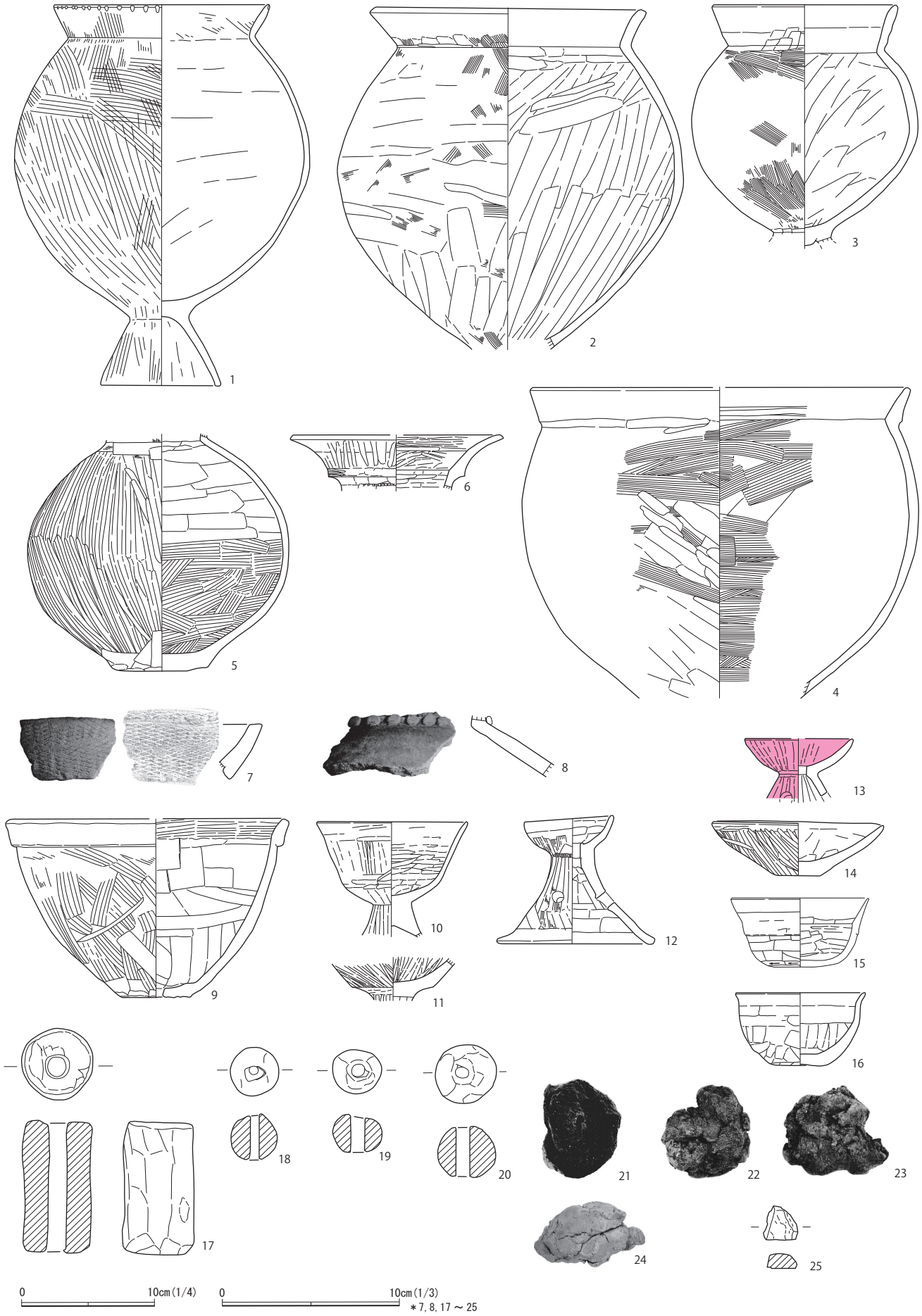
21　台帳：P16　材質：土師質　種類：粘土塊？　法量：長 5.6，幅 4.5，厚 5.0，重量 91.29g　備考：手で握ったような痕が残る。

22　台帳：P17　材質：土師質　種類：粘土塊？　法量：長 5.1，幅 5.0，厚 3.1，重量 61.79g　備考：指で押した痕が残る。

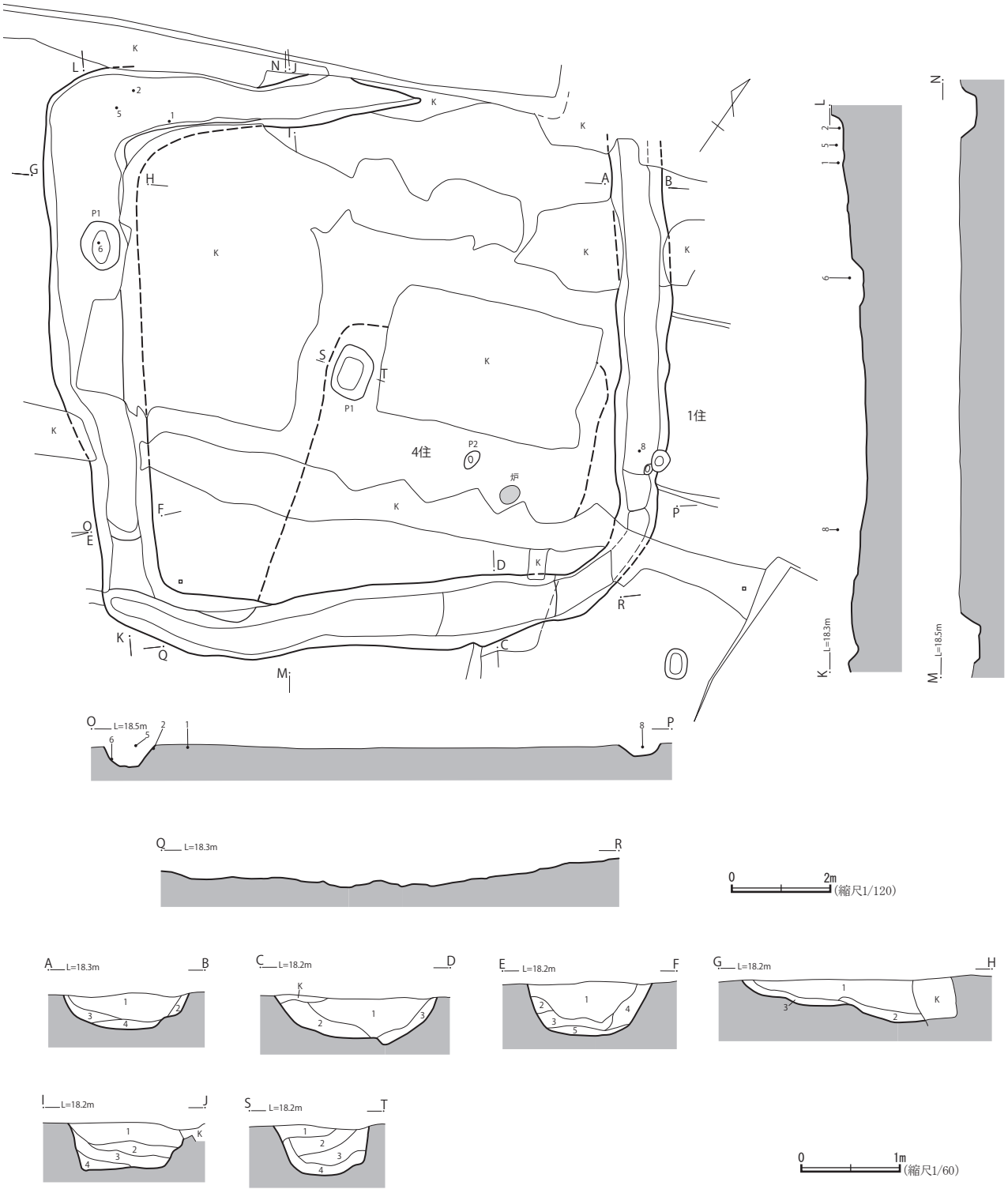
23　台帳：P18　材質：土師質　種類：粘土塊？　法量：長 5.0，幅 6.0，厚 2.8，重量 69.23g　備考：指で押した痕が残る。

24　台帳：P20　材質：土師質　種類：―　法量：長 3.6，幅 6.2，厚 2.6，重量 40.96g　備考：指で押した痕が残る。

25　台帳：3 区　材質：石炭　種類：―　法量：長 1.9，幅 2.0，厚 0.9，重量 2.26g　備考：―



第 49 図　三反田遺跡第８次調査区第３号住居跡出土遺物



土層説明

AB 土層断面

1　黒褐色（ローム粒多量含む）

2　暗褐色（ローム粒多量含む
　　ロームブロック少量含む）

3　明褐色（ロームブロック・
　　ローム小ブロック多量含む）

4　黄褐色（ロームブロック多量含む）

CD 土層断面

1　暗褐色（ローム粒多量含む）

2　暗褐色（ローム粒・ロームブロック少量含む）

3　暗褐色（ローム粒・ロームブロック含む）

EF 土層断面

1　褐色（ローム粒多量含む）

2　明褐色（ロームブロック多量含む）

3　暗褐色（ローム小ブロック含む
　　黒褐色土混じる）

4　明褐色(ロームブロック含む　ローム土混じる）

5　明褐色（ロームブロック多量含む）

GH 土層断面

1　暗褐色（ローム粒やや多量含む）

2　明褐色（第１層と第３層の混合層）

3　明褐色（ローム粒多量含む
　　第２層より明るい）

IJ 土層断面

1　褐色（ローム粒多量含む）

2　褐色（ローム粒やや多量含む）

3　暗褐色（ローム粒やや多量含む
　　ローム小ブロック少量含む）

4　明褐色（ローム土多量混じる
　　ロームブロック少量含む）

ST 土層断面

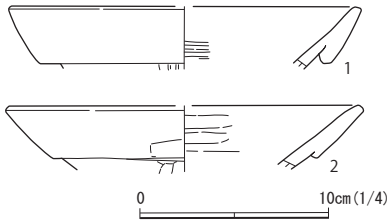
1　黒褐色（褐色土混じる）

2　明褐色（ローム小ブロック多量含む）

3　褐色（ローム小ブロックやや多量含む
　　黒褐色土ブロック含む）

4　黄褐色（ローム小ブロック多量含む
　　黒褐色土ブロック含む）

第 50 図　三反田遺跡第８次調査区第１号方形周溝墓・第４号住居跡



第 51 図　三反田遺跡第８次調査区第４号住居跡出土遺物

第４号住居跡

遺構　第１号方形周溝墓と重複する床の硬化面が薄く残る住居跡である。重複する第１号方形周溝墓との新旧は不明である。床面は削られていたため，住居跡の範囲は明確にとらえることができなかったが，炉と考えられる焼土の位置や，貯蔵穴と思われるピット１の位置，そして住居南東隅部の位置などから考えて，おおよそ第 50 図の点線の範囲が住居跡の形になるものと推定される。その推定範囲にもとづく住居跡の主軸方向は，N-70°-E を測る。竪穴部の規模は，東西 5.4 m，南北 6.0 m で，形状は長方形である。壁周溝・主柱穴は確認できなかった。炉は不明瞭であるが，中央部東寄りの焼土が炉になる可能性がある。ピットは北西隅に隅丸方形を呈するピットがみられた。ピットはいわゆる貯蔵穴として理解できよう。

遺物出土状況　住居覆土が薄く，床面付近の遺存も少なかった。いずれも破片での出土である。

遺物説明

第 51 図

1　台帳：Pit1　材質：土師器　器種：壷　残存：口縁部 10%　法量：口径(18.8)，器高(3.4)　色調：内外面ともにぶい黄橙色。　胎土：礫(白微，灰微)，砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面に口縁部ヨコナデ，頸部ヘラミガキ。内面口縁部ヨコナデ･ヘラミガキ。　使用痕：―　備考：―

2　台帳：Pit1・表土　材質：土師器　器種：壷　残存：口縁部 10%　法量：口径（19.0)、器高（3.6）　色調：外面橙色。内面橙～にぶい褐～黒色。　胎土：小石（白微），礫（白微），砂（白多，透多、黒少）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ，頸部ヘラミガキ。内面ヘラナデ・ヘラミガキ。　使用痕：―　備考：―

（２）方形周溝墓

第１号方形周溝墓

遺構　第１・４号住居跡と重複する。新旧は，第１号住居跡→第１号方形周溝墓となる。第４号住居跡との新旧は不明である。主体部は残存していないため，周溝のみの調査である。周溝の南北軸方向は，N-36°-W を測る。規模は，東西外径 12.5 m，東西内径 9.4 m，南北外径 11.5 m，南北内径 9.3 mで，形状は隅丸正方形である。周溝の幅は 0.7 ～ 2.2 mほどで，深さは 0.5 m前後である。周溝底面は第 50 図ＫＬ・QR 断面にみるように高低差を有していた。周溝底面には楕円形の土坑状の部分も見られており，ピット１とした。ピット１の覆土は明褐色のロームを多量に含む土である。周溝の土層断面をみると，ロームブロックを含む土が内側から流れ込んでいることがわかる。おそらく周溝内側の盛土が崩壊し堆積したものであろう。なお，第１号方形周溝墓は，第２号方形周溝墓を避けるように周溝が掘られていることから，第２号方形周溝墓のほうが古い可能性があろう。

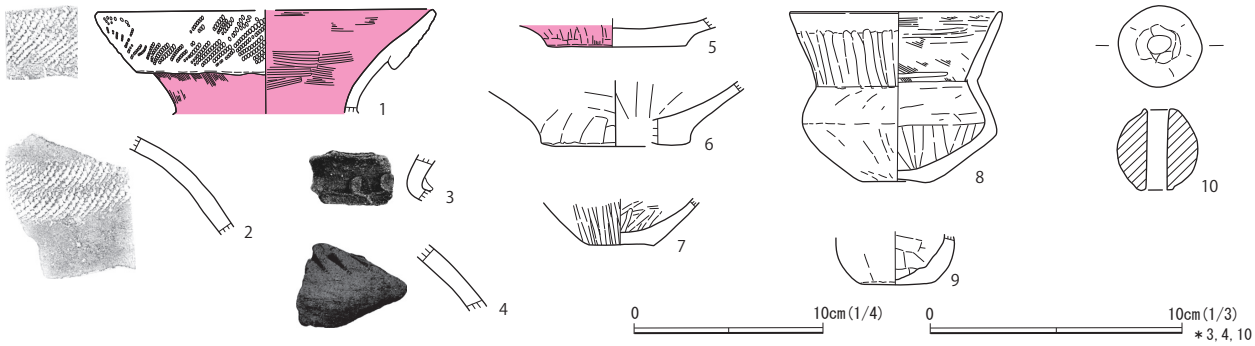
遺物出土状況　覆土中より少量の土器が出土している。

遺物説明

第 52 図

1　台帳：P6，SK2・SK3P1　材質：土師器　器種：壷　残存：口縁～頸部 30%　法量：口径（18.0)，器高（5.5）　色調：外面赤～橙～浅黄色。内面赤～浅黄色。　胎土：砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面口縁部単節縄文，頸部ハケ。内面ハケ。外面頸部と内面に赤彩。使用痕：―　備考：―

2　台帳：P8，2A 住１区・SK2　材質：土師器　器種：壷　残存：胴部片　法量：―　色調：外面赤～にぶい黄橙色。内面にぶい黄橙色。　胎土：



第 52 図　三反田遺跡第８次調査区第１号方形周溝墓出土遺物

砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面帯状に単節縄文。縄文帯の上下に赤彩。　使用痕：―　備考：1と同一個体か。

3　台帳：1周溝　材質：土師器　器種：壷　残存：頸部片　法量：―　色調：外面赤～暗褐色。内面赤色。　胎土：砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面円形浮文。外面口縁部と円形浮文，内面に赤彩。　使用痕：―　備考：―

4　台帳：4区　材質：土師器　器種：壷　残存：胴部片　法量：―　色調：外面赤～橙色。内面黒色。　胎土：砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面櫛歯状工具による押捺。外面に赤彩。　使用痕：―　備考：―

5　台帳：P7　材質：土師器　器種：壷？　残存：底部100％　法量：器高（1.5），底径7.3　色調：外面暗赤褐色。内面暗褐色。　胎土：礫（白多），砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面ヘラナデ。内面不明。外面胴部に赤彩。　使用痕：―　備考：内面器面の一部が剥離している。

6　台帳：P5　材質：土師器　器種：壷？　残存：底部10％　法量：器高（3.5），底径（8.0）　色調：外面橙色。内面にぶい橙～暗褐色。　胎土：礫（白少），砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面ヘラ削り後ヘラナデ。内面ヘラナデ。　使用痕：―　備考：―

7　台帳：7区　材質：土師器　器種：壷　残存：底部100％　法量：器高(2.5)，底径3.4　色調：外面褐灰色。内面橙～にぶい橙色。　胎土：礫(白微)，砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面胴部ヘラミガキ，底面ヘラ削り。内面ヘラミガキ。　使用痕：―　備考：―

8　台帳：P2，1周溝　材質：土師器　器種：小型鉢　残存：80％　法量：口径11.0，器高9.0，底径3.5　色調：外面橙色。内面橙～暗褐色。　胎土：砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面口縁部上位ヨコナデ，中～下位ヘラナデ・ヘラミガキ，胴部ヘラナデ・ヘラミガキ？。内面口縁部ハケ・ヘラミガキ，胴部ヘラナデ。　使用痕：―　備考：外面器面が摩滅している。

9　台帳：7区　材質：土師器　器種：手づくね土器？　残存：底部20％　法量：器高（2.8），底径（3.8）　色調：外面にぶい黄橙色。内面にぶい黄褐色。　胎土：砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面ヘラナデ？。内面ヘラナデ。　使用痕：―　備考：外面器面が摩滅している。

10　台帳：4区　材質：土師質　種類：土玉　法量：径3.3，厚3.2，孔径0.8，重量31.42g　備考：―。

第２号方形周溝墓

遺構　当方形周溝墓の南北軸方向は，N-19°-Wを測る。主体部は残存していないため，周溝のみの調査である。規模は，東西外径13.7 m，東西内径10.8 mで，隅丸方形の形状を呈すると思われる。残存状況がよくないが，周溝北側の北辺部は弧状を呈するようにみえる。周溝の幅は1.2～2.0 m，深さは0.4～0.7 m前後を測る。周溝底面は第53図IJ断面にみるように高低差を有していた。周溝の土層断面をみると，ロームブロックを含む土が内側から流れ込んでいることがわかる。おそらく周溝内側の盛土が崩壊し堆積したものであろう。

遺物出土状況　覆土中より少量の土器が出土している。

遺物説明

第54図

1　台帳：P1，4区　材質：土師器　器種：甕　残存：口縁～胴部10％　法量：口径（12.6），器高（6.5）　色調：内外面とも暗赤褐～暗褐色。胎土：小石（灰微），礫（白少），砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面ハケ。内面口縁部ハケ後ヘラミガキ，胴部ヘラナデ・ヘラミガキ。　使用痕：―　備考：―

2　台帳：P3　材質：土師器　器種：壷　残存：口縁～頸部10％　法量：口径（17.9），器高（4.2）　色調：内外面とも橙～にぶい橙色。　胎土：礫（白微），砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面口縁部ヨコナデ後櫛歯状工具による押捺，頸部上位ヨコナデ，下位ヘラミガキ。内面口縁部上位櫛歯状工具による押捺，下位～頸部ヘラナデ・ヘラミガキ。　使用痕：内面器面が摩滅している。　備考：―

第３号方形周溝墓

遺構　第３号住居跡・第３・４号溝跡と重複する。新旧は，第３号住居跡→第３号方形周溝墓となる。第３・４号溝跡との新旧は不明である。主体部は残存していないため，周溝のみの調査である。周溝の南北軸方向は，N-13°-Wを測る。規模は，東西外径13.2 m，東西内径10.5 mで，形状は隅丸方形になるものと思われる。周溝南側の南辺部は弧状を呈する。周溝の幅は1.1～1.8 mほどで，深さは0.2～0.5 m前後である。周溝底面は第55図ＯＰ断面にみるように高低差を有していた。周溝の土層断面をみると，CD土層断面以外はロームブロックを含む土が内側から流れ込んでいることがわかる。おそらく周溝内側の盛土が崩壊し堆積したものであろう。

遺物出土状況　覆土中より少量の土器が出土している。

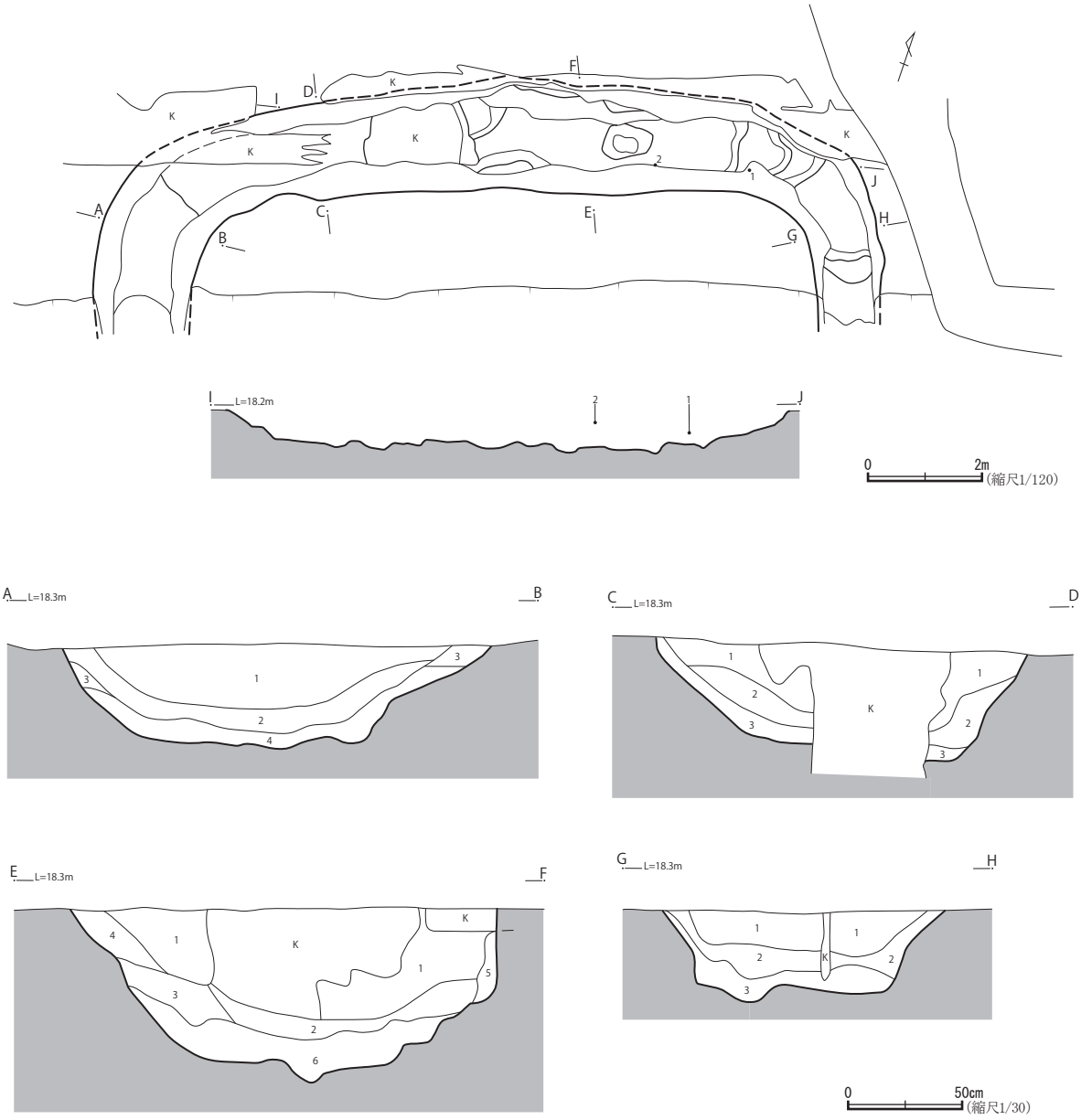
遺物説明

第56図

1　台帳：6区　材質：土師器　器種：壷　残存：胴部片　法量：―　色調：外面赤～灰黄色。内面にぶい橙色。　胎土：砂（白多，透多，黒少）　焼成：良好　技法等：外面に赤彩と網目状撚糸文。　使用痕：―　備考：―

2　台帳：4区　材質：土師器　器種：壷　残存：胴部片　法量：―　色調：内外面とも橙色。　胎土：砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：外面にハケと櫛歯状工具による押捺。　使用痕：―　備考：―

3　台帳：P2　材質：土師器　器種：小型鉢　残存：90％　法量：口径10.5，器高8.9～9.8，底径2.5　色調：外面橙～黄橙～黒色。内面橙色。　胎土：礫（白微），砂（白多，透多）　焼成：良好　技法等：内外面ともヘラミガキ。胴部に焼成後内側から外側に穿孔している。　使用痕：―　備考：―



土層説明

AB 土層断面

1　暗褐色（ローム粒やや多量含む）

2　暗（ロームやや多量含む
　　ロームブロック少量含む　明褐色土混じる）

3　褐色（ローム粒多量含む）

4　明褐色（ロームブロック多量含む）

CD 土層断面

1　暗褐色（ローム粒やや多量含む）

2　暗褐色（ローム粒多量含む
　　ロームブロック含む　明褐色土混じる）

3　明褐色（ロームブロック多量含む）

EF 土層断面

1　暗褐色（ローム粒やや多量含む）

2　褐色（ローム粒やや多量含む）

3　明褐色（ローム土混じる）

4　暗褐色（ローム小ブロック多量含む　黒褐土混じる）

5　明褐色（ローム粒多量含む）

6　黄褐色（ロームブロック非常に多量含む）

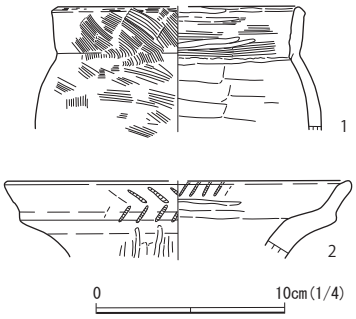
GH 土層断面

1　暗褐色（ローム粒やや多量含む）

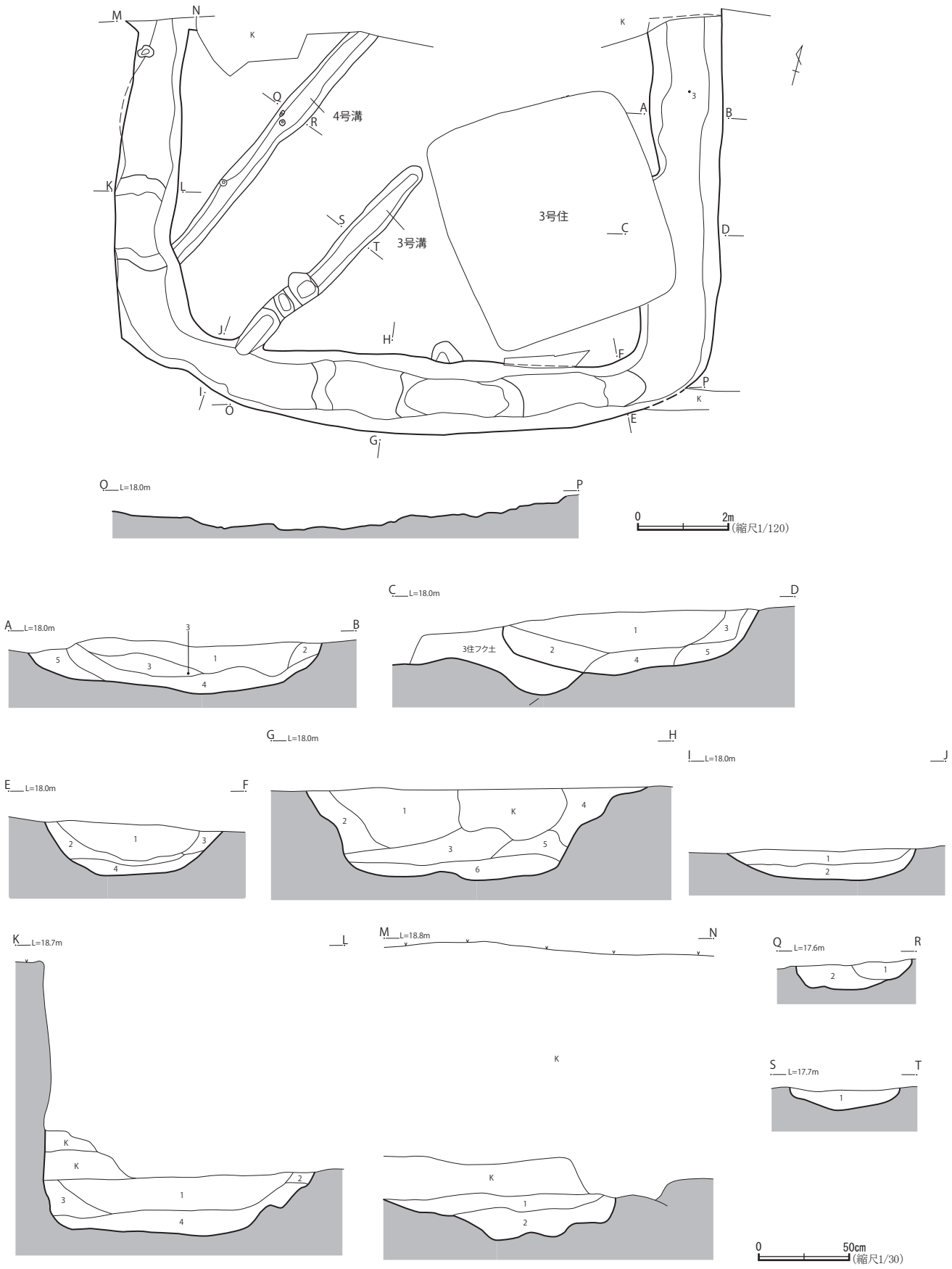
2　暗褐色（ロームブロック含む）

3　黄褐色（ロームブロック非常に多量含む）

第 53 図　三反田遺跡第８次調査区第２号方形周溝墓



第 54 図　三反田遺跡第８次調査区第２号方形周溝墓出土遺物



第 55 図　三反田遺跡第８次調査区第３号方形周溝墓及び第３・４号溝跡

第３号方形周溝墓土層説明

AB 土層断面
1　暗褐色（ローム粒含む）
2　褐色（ローム粒含む　ローム土少量混じる）
3　褐色（ローム粒含む　ローム土少量混じる）
4　褐色（ロームブロック多量含む）
5　明褐色（ローム土多量混じる）

CD 土層断面
1　黒褐色（ローム粒少量含む）
2　暗褐色（ローム粒やや多量含む　ローム小ブロック少量含む）
3　褐色（ローム土混じる　ロームブロック少量含む）
4　明褐色（ロームブロック多量含む）
5　明褐色（ロームブロック含む　ローム土含む）

EF 土層断面
1　黒褐色（ローム粒やや多量含む）
2　暗褐色（明褐色土混じる）
3　明褐色（ローム粒多量含む　ロームブロック含む）
4　暗褐色（ロームブロック多量含む　暗褐色土混じる）

GH 土層断面
1　暗褐色（ローム粒含む）
2　褐色（明褐色土混じる）
3　暗褐色（ローム粒やや多量含む　明褐色土混じる）
4　褐色（ロームブロック少量含む　ローム粒含む）
5　明褐色（ローム粒多量含む）
6　黄褐色（ロームブロック多量含む　褐色土混じる）

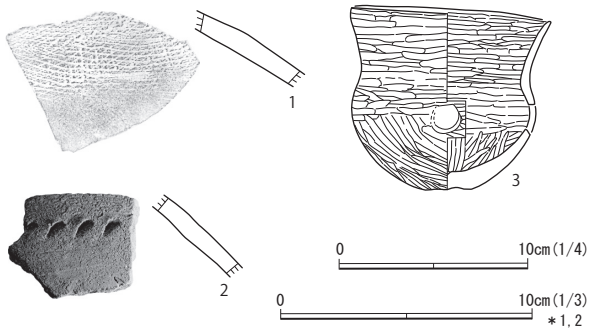
IJ 土層断面
1　褐色(ロームブロック少量含む　ローム粒やや多量含む)
2　黄褐色（ロームブロック多量含む　暗褐色土混じる）

KL 土層断面
1　黒褐色（ローム粒含む）
2　褐色（ローム粒含む）
3　褐色（明褐色土混じる）
4　明褐色（ローム土多量混じる　黒褐色土混じる）

MN 土層断面
1　黒褐色（ローム粒含む）
2　明褐色（ローム土・黒褐色混じる）

QR 土層断面
1　暗褐色
2　暗褐色（ローム粒やや多量に含む
　　ローム小ブロック少量含む）

ST 土層断面
1　暗褐色（ローム粒多量に含む）



第 56 図　三反田遺跡第８次調査区第３号方形周溝墓出土遺物

（３）溝跡

第１号溝跡

幅 0.4m，深さ 0.2 mほどを測る。長さは 3.0m あり，南東部は第２号溝跡と重複する。ローム土を多量に含む覆土であり，人為的埋土の可能性があろう。

第２号溝跡

幅 0.6m，深さ 0.1 mほどを測る。長さは 5.0m あり，南西部は第１号溝跡, 東部は第２号石組掘形と重複する。

第３号溝跡

幅 0.6m，深さ 0.1 mほどを測る。長さは 5.7m あり，南西部は第３号方形周溝墓，北東部は第３号住居跡と重複する。

第４号溝跡

幅 0.6m，深さ 0.1 mほどを測る。長さは 6.6m あり，南西部は第３号方形周溝墓と重複する。第３号溝跡と第４号溝跡は並行しており，その芯々間距離は 2.8 mを測る。硬化面等は確認できていないが，道路跡の両側側溝になる可能性もあろう。

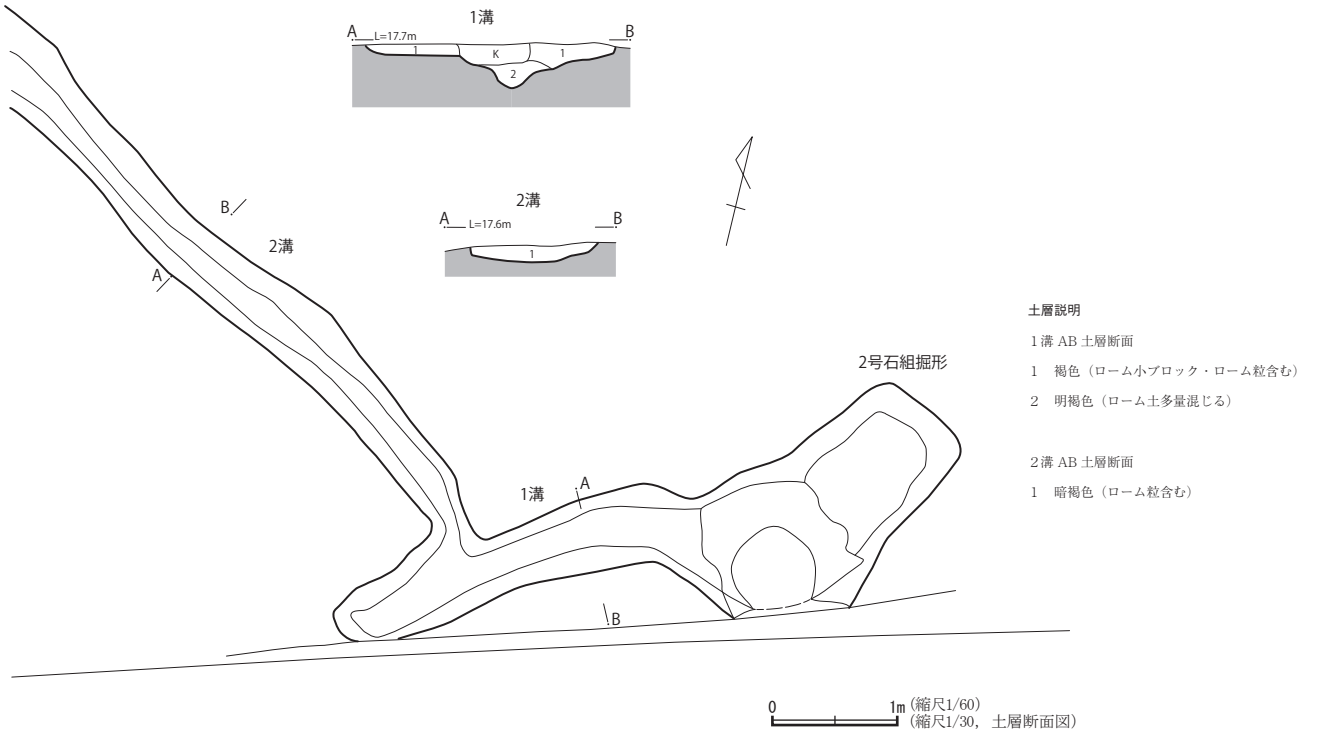
（４）石組

第１号石組

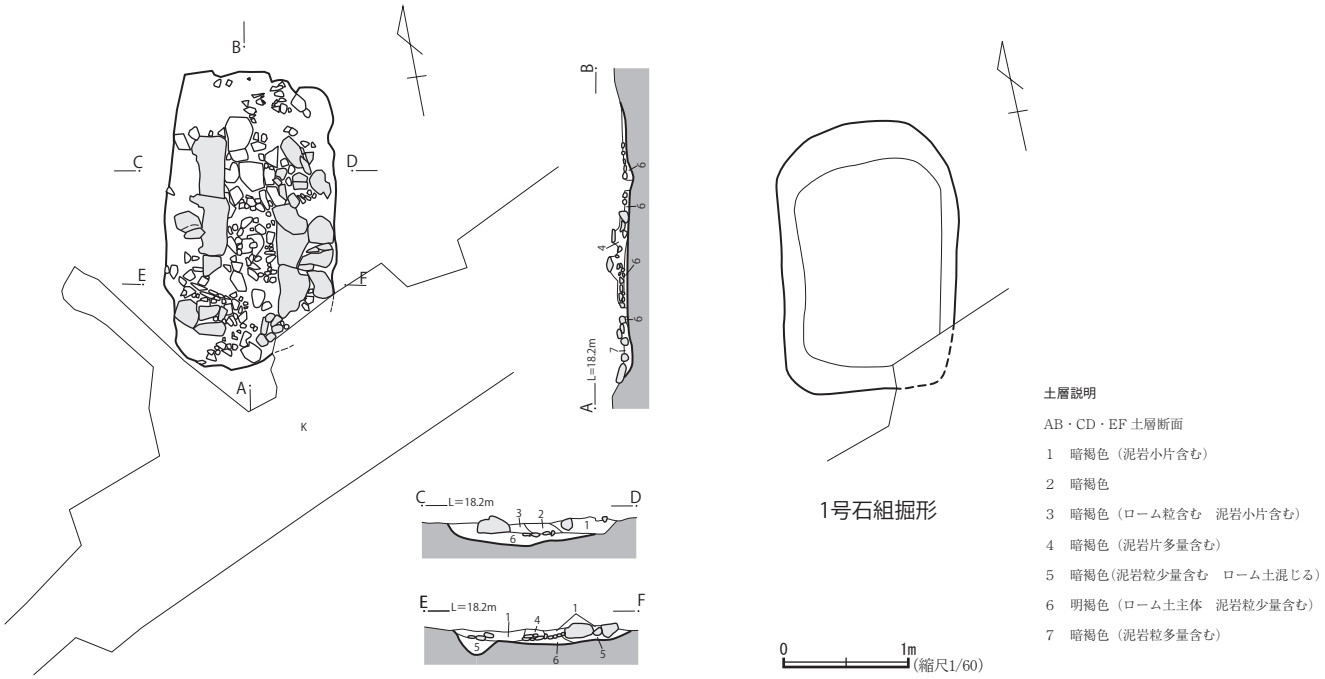
古墳時代の小型石棺の可能性もあるが，遺物が出土せず時期が不明なため, ここではいちおう石組として扱う。遺構は上部を小学校造成時に削られてしまったようで，底面のみの残存である。主軸方向は N-11°-E を測る。石組掘形は東西 1.4 m, 南北 2.1 mの隅丸長方形を呈する。石材の遺存状況はよくないが，比較的大きな凝灰質泥岩の切石が 0.4 mの間隔をあけて長辺に２列認められるようである。底面には同石材の砕石が敷かれていた。端部を区画する切石はみられていない。なお，分布調査報告書に記述のある第８号墳からは石棺が出土したとあり，その場所が第１号石組付近と考えられることから，第１号石組は第８号墳の可能性がある。

第２号石組

第１号石組同様，遺構は上部を小学校造成時に削られてしまったようで，底面のみの残存である。主軸方向は N-22°-E を測る。石組は東西外径 0.7 m, 東西内径 0.4 m, 南北外径 1.2 m，南北内径 0.9 mの長方形を呈する。側壁及び床面が凝灰質泥岩の切石により構築されており，床面１枚，東側長辺２枚，西側長辺２枚，両短辺１枚を使用する。長辺の切り石は両側とも長短２枚で構築され



第 57 図　三反田遺跡第８次調査区第１・２号溝跡



第 58 図　三反田遺跡第８次調査区第１号石組

ることが共通している。石組掘形は長方形を呈し，南側が第２号溝跡と連続している。第２号溝跡は第２号石組と一体の遺構の可能性が高い。

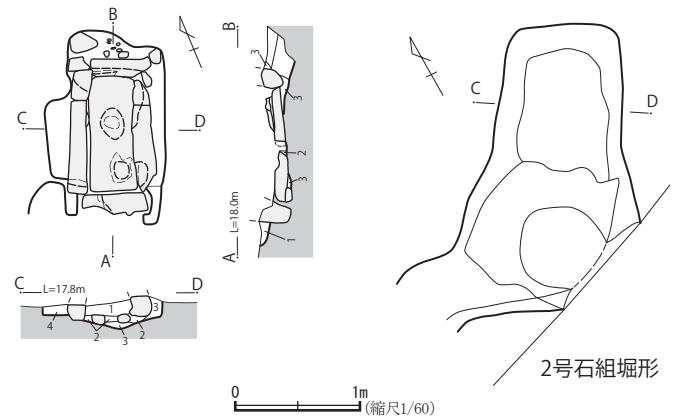
（５）道跡

第１号道跡

南南東から北北西にかけて伸びる道跡である。調査当初は溝跡としていたが，底面が硬化していたため，道跡と考えた。道幅は１ｍほどを測る。南端部が北端部と比べて５cm ほど低くなっており，道跡の東側にみられる浅い溝状の部分を，水は南に流れたものと考えられる。

（６）土坑

第１号土坑



土層説明

AB・CD 土層断面

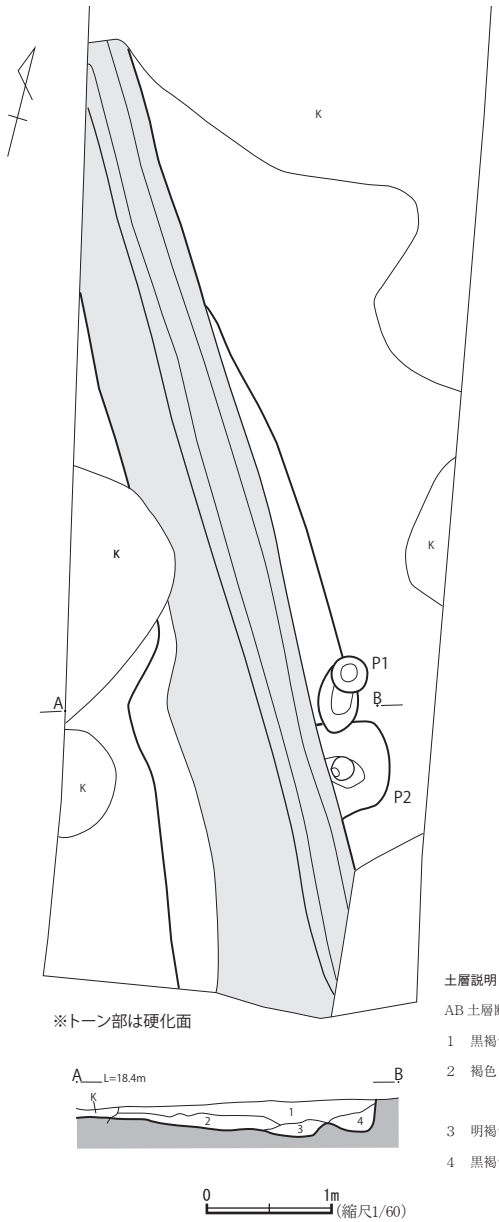
1　黒褐色（泥岩小片・ローム粒含む）

2　明褐色（泥岩片多量含む）

3　明褐色（泥岩粒含む　ローム土混じる）

4　褐色（ローム粒含む　泥岩小片少量含む）

第 59 図　三反田遺跡第８次調査区第２号石組



土層説明

AB 土層断面

1　黒褐色（ローム粒含む）

2　褐色（ロームブロック少量含む）

3　明褐色

4　黒褐色（ロームブロック含む）

第 60 図　三反田遺跡第８次調査区第１号道跡

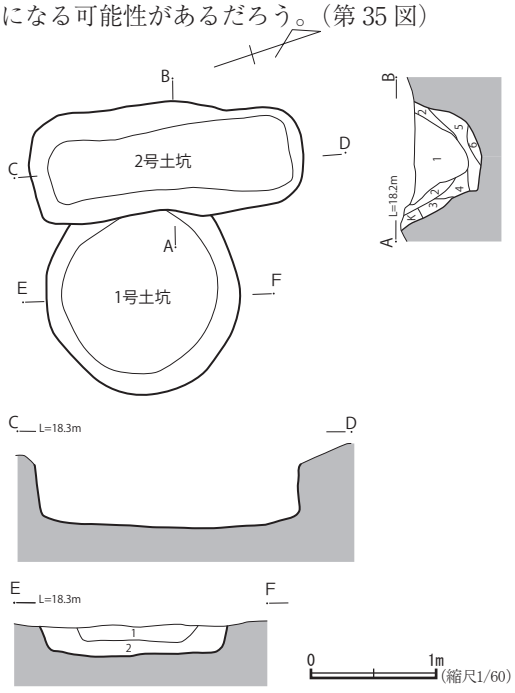
第２号土坑と重複する。新旧は土層から第１号土坑→第２号土坑となる。径 1.5m, 深さ 0.2 mの円形を呈する。覆土第２層は硬くしまった土であり，第１層の部分に置いてあった何かの裏込め土のように思える。近代以後の遺構であろうか。

第２号土坑

第１号土坑と重複する。新旧は土層から第１号土坑→第２号土坑となる。長軸 2.2m，深さ 0.5 mの隅丸長方形を呈する。第１号土坑同様に近代以後の遺構であろうか。

第３号土坑

第２A 号住居跡と重複する。新旧は土層から第２A 号住居跡→第３号土坑となる。長軸 1.8m，短軸 0.5 m，深さ 0.4 mの隅丸長方形を呈する。覆土中からは古墳時代前期と思われる土器片が出土することから，当該期の土坑になる可能性があるだろう。（第 35 図）



土層説明

1 号土坑 EF 土層断面

1　褐色

2　黒褐色（ロームブロック多量含む　締まり有り）

2 号土坑 AB 土層断面

1　暗褐色（ローム粒少量含む

2　暗褐色（明褐色土混じる）

3　明褐色（ロームブロック多量含む）

4　明褐色（ロームブロック含む　ローム粒多量含む）

5　明褐色（ロームブロック多量含む）

6　黄褐色（ローム土主体）

第 61 図　三反田遺跡第８次調査区第１・２号土坑

Ⅳ　旧石器・縄文・弥生時代の遺物

三反田遺跡第７・８次調査では，表土及び遺構の覆土から，旧石器・縄文・弥生の各時代の遺物が検出された。

１　旧石器時代の遺物

ローム土の付着や風化の状態から旧石器時代のものと考えられる剥片類が，特に第７次調査区から出土している（第62図）。石材には，ガラス質黒色安山岩（１・２）とトロトロ石（３・４）がある。時期を推定できる器種が含まれておらず，ローム層を対象とした調査も実施していないので，文化層の層準は明らかでない。一部の写真のみを掲載した。

２　縄文時代の土器

縄文時代の土器は，第７・８次の両調査区から出土した。早～後期の土器が見られるが，前期が主体であり，他の時期は極少量に過ぎない。

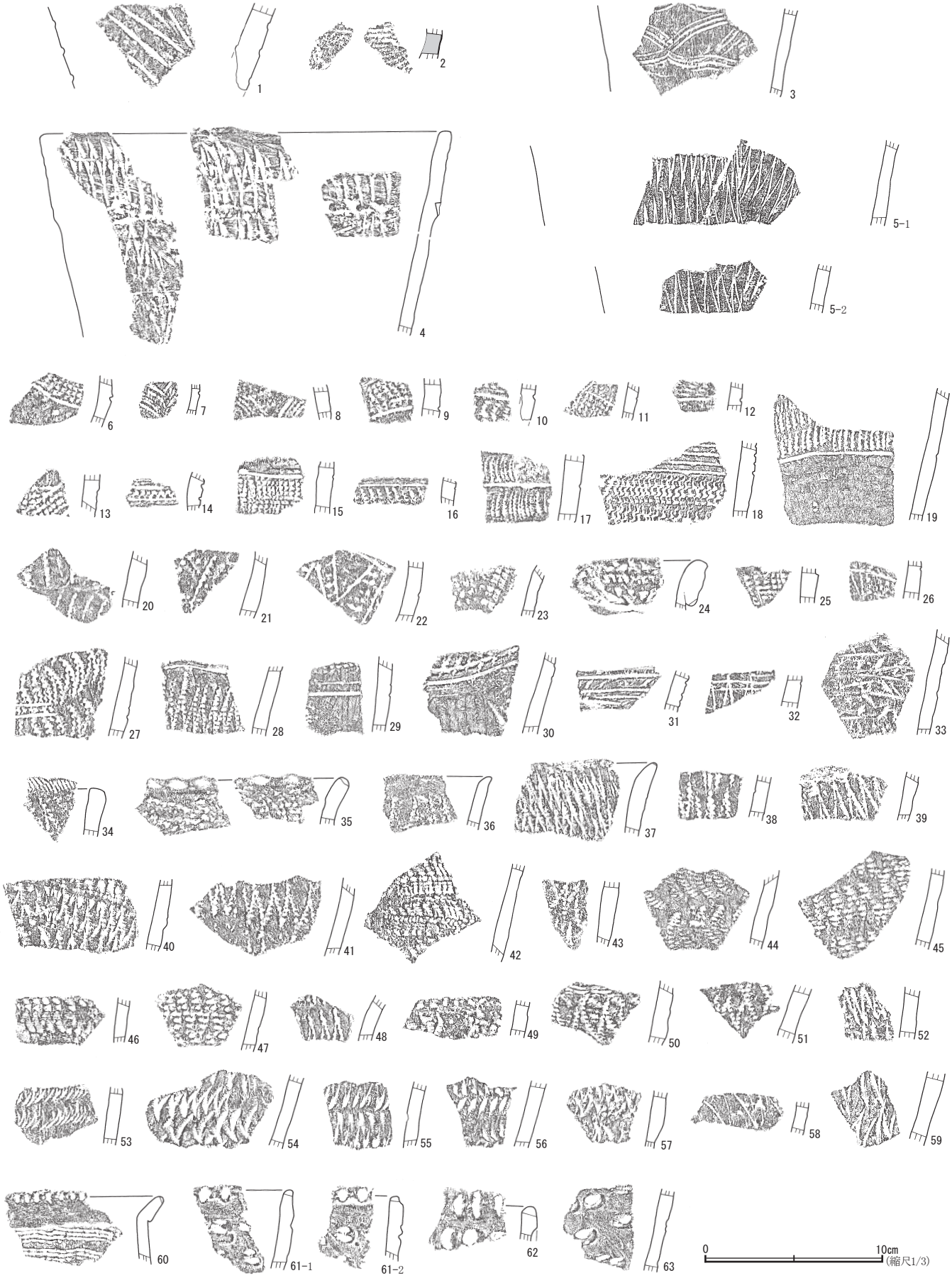
三反田遺跡においては，第１次調査で前期の土坑が１基（第１号土壙）検出されている。この覆土中から出土した土器とともに，調査区から出土した前期の土器群について「三反田式」の型式名称が提案された（川崎・鴨志田・住谷1978）。それは，「全体的にみて興津式土器にみられる文様のバラエティは消失しており，口縁部を飾るタテ刻みの沈線文と貝殻腹縁によるジグザグ文の組合せが中心を占め，興津式土器の系統の中に位置しながらも，それより後出的な要素を否定することはできない」，「三反田遺跡出土の前期縄文式土器は下小野式直前に位置する編年的位置を持つもの」という理解に基づく。しかしながら，貝殻磨消文の土器（第63図６～19等）は「興津Ⅱ式」そのものであり，これに「大木５式」（第64図50～55等）が共存している。当該地域においては，小川貝塚（藤本1980）の「浮島Ⅲ式」・「大木４式」・「諸磯ｂ式」，三反田遺跡の「興津Ⅱ式」・「大木５式」，武田西塙遺跡の「大木６式」・「十三菩提式」（鈴木編2001）という土器群が報告されており，特に「大木式」の序列からは，三反田遺跡の土器群について前期終末「下小野式直前」とは考え難い。その主体は，「興津Ⅱ式」「大木５式」併行の土器群と捉えられるものであろう。

以下に，土器の各資料について計測と観察を記載する。

第63図

１　出土位置・注記：７次２住　時代時期：縄文時代早期（田戸下層式）法量：最大径126㎜（残存率13％）文様：沈線文。　２　出土位置・注記：８次３住１区　時代時期：縄文時代早期後葉　文様：器内外面条痕文　備考：胎土に繊維を含む。　３　出土位置・注記：７次２住　法量：最大径111㎜（残存率22％の部分から推定）文様：条線文。　４　出土位置・注記：８次１住P3・P4・１区・２区・掘形　法量：口径228㎜（残存率８％の破片から推定）文様：刺突文（半截竹管），貝殻波状文　備考：器外面炭化物付着。　５　出土位置・注記：７次１土坑，表土　法量：最大径204㎜（残存率13％の部分から推定）文様：貝殻波状文。　６　出土位置・注記：７次２住床　文様：沈線文，貝殻押引文（放射肋有）。　７　出土位置・注記：７次２住　文様：沈線文，貝殻押引文（放射肋有）。　８　出土位置・注記：７次２住床下　文様：沈線文，貝殻押引文（放射肋有）備考：焼成不良。　９　出土位置・注記：８次１周溝６区　文様：沈線文，貝殻押引文（放射肋有）。　10　出土位置・注記：８次１周溝３区　文様：沈線文，押引状の貝殻押引文（放射肋有）。　11　出土位置・注記：８次１周溝４区　文様：沈線文，貝殻押引文（放射肋有）。　12

第62図　調査区出土の旧石器



第 63 図　調査区出土の縄文式土器（1）

出土位置・注記：7次1ピット　文様：貝殻文（放射肋有）ヵ。　13　出土位置・注記：7次3住pit2　文様：沈線文，貝殻押引文（放射肋有）。　14　出土位置・注記：8次1住掘形　文様：沈線文，貝殻腹縁文（放射肋有）ヵ。15　出土位置・注記：7次2住　文様：沈線文，押引状の貝殻腹縁文（放射肋有）備考：上位の破断面にネズミの齧り痕あり。　16　出土位置・注記：8次4住pit1　文様：平行沈線文（半截竹管），貝殻腹縁文。　17　出土位置・注記：8次1周溝7区　文様：沈線文，貝殻腹縁文。　18　出土位置・注記：8次1周溝6区　文様：平行沈線文（半截竹管），貝殻腹縁文。　19　出土位置・注記：8次1周溝2区　文様：沈線文，貝殻腹縁文。　20　出土位置・注記：8次1周溝1区　文様：貝殻腹縁文。　21　出土位置・注記：8次1周溝2区　文様：貝殻腹縁文。　22　出土位置・注記：8次1周溝4区　文様：沈線文，貝殻腹縁文ヵ　備考：焼成不良。　23　出土位置・注記：7次表土　文様：貝殻押引文ヵ。　24　出土位置・注記：8次1周溝4区　文様：複合口縁部貝殻腹縁文ヵ。　25　出土位置・注記：8次表採　文様：貝殻波状文（放射肋有），刺突文（半截竹管）。　26　出土位置・注記：8次1周溝3区　文様：貝殻波状文（放射肋有），平行沈線文（半截竹管）。　27　出土位置・注記：8次表土　文様：貝殻波状文（放射肋有），平行沈線文（半截竹管）。　28　出土位置・注記：8次3周溝5区　文様：貝殻波状文（放射肋有），平行沈線文（半截竹管）。　29　出土位置・注記：8次1周溝6区　文様：貝殻波状文ヵ，平行沈線文（半截竹管）。30　出土位置・注記：7次2住　文様：貝殻波状文（放射肋有），平行沈線文（半截竹管）備考：器内面に発泡状の剥落あり。　31　出土位置・注記：8次1周溝6区　文様：貝殻波状文ヵ，平行沈線文（半截竹管）。　32　出土位置・注記：7次4住pit2　文様：貝殻波状文，条線文。　33　出土位置・注記：8次1周溝1区　文様：貝殻波状文，平行沈線文（半截竹管）。　34　出土位置・注記：8次1周溝5区　文様：口唇部貝殻背圧痕，貝殻波状文。　35　出土位置・注記：7次2住　文様：口唇部押圧（指頭ヵ），貝殻波状文（放射肋有）備考：胎土に赤色粒子が目立つ。　36　出土位置・注記：8次1周溝4区　貝殻波状文（放射肋有）備考：胎土に骨針を含む。　37　出土位置・注記：7次表土　文様：口唇部刻み（箆状工具），貝殻波状文（放射肋有）。38　出土位置・注記：8次3周溝7区　文様：貝殻波状文（放射肋有）。　39　出土位置・注記：7次4住　文様：貝殻波状文（放射肋有）。40　出土位置・注記：7次2住　文様：貝殻波状文（放射肋有）。41　出土位置・注記：8次Pit1　文様：貝殻波状文（放射肋有）。　42　出土位置・注記：7次4住床下　文様：貝殻波状文（放射肋有）。　43　出土位置・注記：7次2住　文様：貝殻波状文（放射肋有）。　44　出土位置・注記：8次1周溝4区　文様：貝殻波状文（放射肋有）。　45　出土位置・注記：8次2A住P61　文様：貝殻波状文（放射肋有）。　46　出土位置・注記：8次1住掘形　文様：貝殻波状文（放射肋有）。　47　出土位置・注記：8次1周溝4区　文様：貝殻波状文（放射肋有）。　48　出土位置・注記：7次2住　文様：貝殻波状文（放射肋有）。　49　出土位置・注記：7次4住　文様：貝殻波状文（放射肋有）。　50　出土位置・注記：7次2住文様：貝殻波状文（放射肋有）備考：胎土に泥岩片を含む。　51　出土位置・注記：7次2住床下　文様：貝殻波状文（放射肋有）　備考：胎土に赤色粒子が目立つ。　52　出土位置・注記：8次SK1　文様：貝殻波状文。　53　出土位置・注記：8次2周溝4区　文様：貝殻波状文。　54　出土位置・注記：7次4住床　文様：貝殻波状文　備考：胎土に赤色粒子が目立つ。　55　出土位置・注記：8次1周溝6区　文様：貝殻波状文。　56　出土位置・注記：8次2周溝4区　文様：貝殻波状文。　57　出土位置・注記：8次表土　文様：貝殻波状文。　58　出土位置・注記：8次1周溝4区　文様：貝殻波状文。　59　出土位置・注記：7次4住　文様：貝殻波状文。　60　出土位置・注記：7次3住P3　文様：口唇部刻み（棒状工具），貝殻押引文（放射肋有）。　61　出土位置・注記：8次1周溝1区・2区　文様：口唇部刻み（指頭ヵ），刺突文（半截竹管）。　62　出土位置・注記：8次1周溝　文様：口唇部刻み（半截竹管），刺突文（半截竹管）。　63　出土位置・注記：7次2住　文様：刺突文（指頭）

第64図

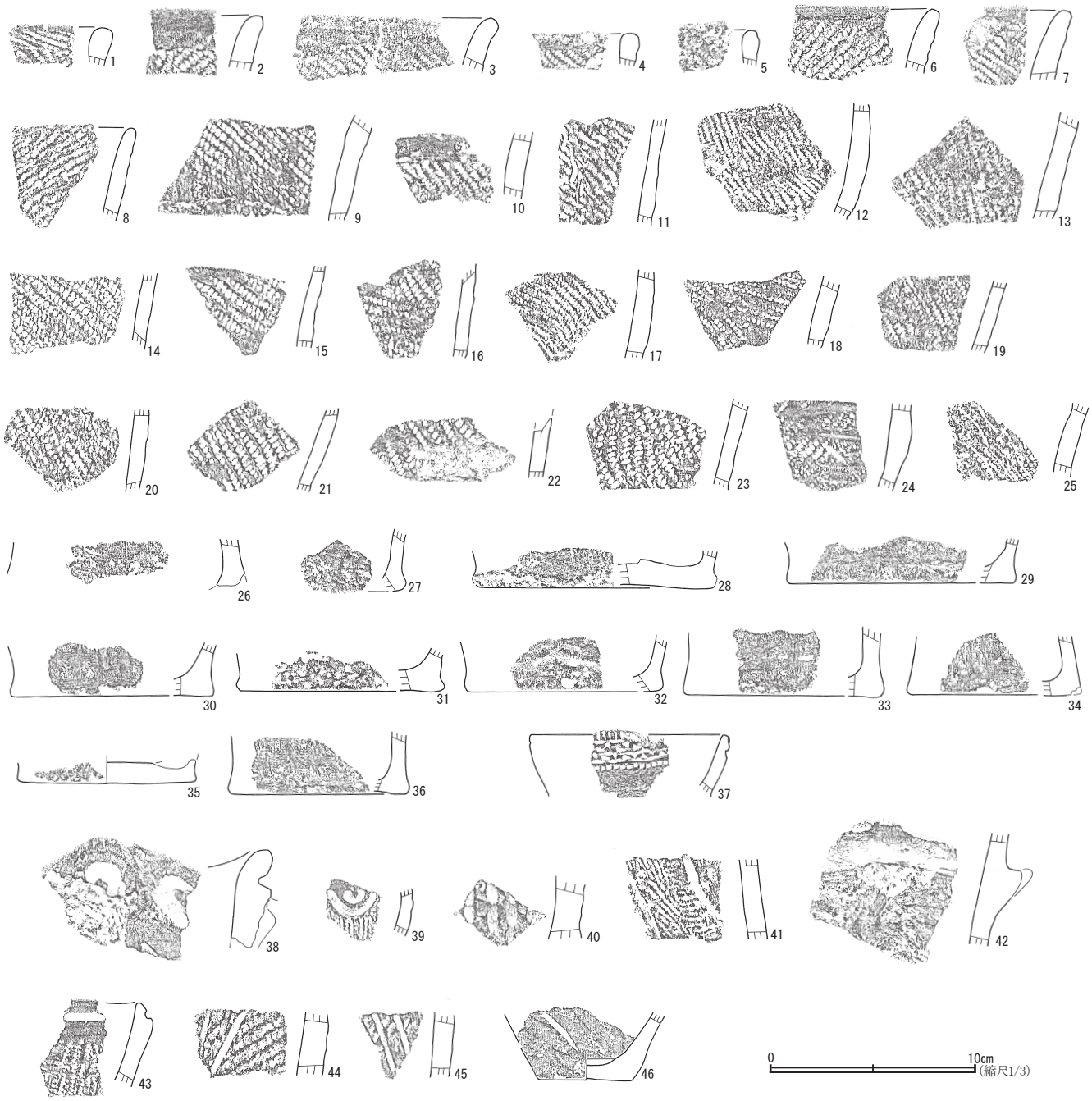
1　出土位置・注記：8次1周溝4区　文様：平行沈線文（半截竹管）。　2　出土位置・注記：8次1周溝6区　文様：平行沈線文（半截竹管）備考：胎土に銀（白）雲母を含む。　3　出土位置・注記：8次1住掘形　文様：平行沈線文（半截竹管）。　4　出土位置・注記：8次2A住3区　文様：平行沈線文（半截竹管）備考：器外面剥落。　5　出土位置・注記：7次2住・2住pit1　文様：口唇部刻み（指頭），条線文。　6　出土位置・注記：8次2周溝4区　文様：条線文。　7　出土位置・注記：7次4住　文様：条線文。　8　出土位置・注記：7次2住　文様：条線文。　9　出土位置・注記：7次表土　文様：条線文。　10　出土位置・注記：7次2住　文様：条線文。　11　出土位置・注記：8次SK1　文様：条線文。　12　出土位置・注記：8次1周溝4区　文様：沈線文（箆状工具）。　13　出土位置・注記：8次1周溝4区　文様：口唇部及び複合口縁下端刻み（半截竹管），沈線文（棒状工具）。　14　出土位置・注記：8次2周溝4区　文様：複合口縁下端刻み（半截竹管）備考：口唇部は残存しないが口縁部の破片と考えられる。　15　出土位置・注記：8次1周溝6区　文様：口唇部直下に縦位短沈線（半截竹管），刺突文（半截竹管），平行沈線文（半截竹管）備考：胎土に赤色粒子が目立つ。　16　出土位置・注記：8次1周溝5区　文様：口唇部直下に縦位短沈線（棒状工具），刺突文（半截竹管）備考：胎土に赤色粒子が目立つ。　17　出土位置・注記：8次2周溝4区　文様：刺突文（半截竹管）。　18　出土位置・注記：8次1周溝6区　文様：口唇部直下に縦位短沈線（棒状工具），刺突文（半截竹管）。　19　出土位置・注記：8次1周溝2区，4住pit1　文様：刺突文（半截竹管），平行沈線文（半截竹管）。　20　出土位置・注記：8次1周溝1区　文様：刺突文（半截竹管）。　21　出土位置・注記：7次2住ヘキミゾ　文様：刺突文（縄文原体ヵ）。　22　出土位置・注記：8次1周溝4区　文様：口唇部直下に縦位短沈線（半截竹管）備考：胎土に黒色粒子が目立つ。　23　出土位置・注記：8次1周溝4区　文様：複合口縁直下に凹線文。　24　出土位置・注記：7次2住床下　文様：口唇部刻み（棒状工具），器内面口唇部直下沈線文（棒状工具）。　25　出土位置・注記：8次1周溝4区　文様：刺突文もしくはキズ。　26　出土位置・注記：8次1住掘形　文様：成形の積上痕が残る。　27　出土位置・注記：7次2住床下　文様：口唇部刻み（棒状工具），成形の積上痕が残る。　28　出土位置・注記：7次2住pit1　文様：成形の積上痕が残る。　29　出土位置・注記：8次1周溝7区　文様：沈線文もしくはキズ（箆状工具）。　30　出土位置・注記：7次1ミゾ　文様：無文。　31　出土位置・注記：8次2周溝4区，表土　文様：平行沈線文もしくはキズ（半截竹管）。　32　出土位置・注記：7次2住床　文様：無文　備考：胎土に骨針を含む，器外面にネズミの齧り痕あり。　33　出土位置・注記：8次1周溝6区　文様：口縁部沈線文（棒状工具），複合口縁下端刻み（半截竹管），単節斜縄文（RL）。　34　出土位置・注記：8次2A住1区掘形　文様：撚糸側面圧痕文（RL）備考：胎土に白雲母を多量に含む。　35　出土位置・注記：7次2住　文様：口唇部波

第 64 図　調査区出土の縄文式土器（2）

状隆帯貼付，口唇部縄文（RL），撚糸側面圧痕文（RL）備考：胎土に骨針を含む。　36　出土位置・注記：7次表土　文様：口唇部縄文（LR），撚糸側面圧痕文（LR）備考：胎土に雲母を含む。　37　出土位置・注記：7次5住文様：撚糸側面圧痕文（RL）。　38　出土位置・注記：7次2住文様：撚糸側面圧痕文（RL），単節斜縄文（RL）。　39　出土位置・注記：7次3住　文様：撚糸側面圧痕文（RL），単節斜縄文（RL）。　40　出土位置・注記：7次2住ヘキミゾ　文様：撚糸側面圧痕文（RL），単節斜縄文（RL）。41　出土位置・注記：8次SK2　文様：口唇部刻み（箆状工具），結節文，成形の積上痕が残る　備考：胎土に赤色粒子が目立つ。42　出土位置・注記：8次2B住　文様：結節文，単節斜縄文（RL）。　43　出土位置・注記：8次2A住3区　文様：結節文，単節斜縄文（RL）。44　出土位置・注記：8次2周溝1区　文様：結節文。　45　出土位置・注記：8次3周溝2区　文様：結節文，単節斜縄文（LR）。　46　出土位置・注記：8次1周溝5区　文様：結節文，単節斜縄文（RL）。　47出土位置・注記：8次1周溝4区　文様：結節文。　48　出土位置・注記：8次2周溝　文様：結節文，単節斜縄文（LR）。　49　出土位置・注記：8次2周溝3区　文様：口唇部縄文（RL），刺突文（箆状状工具），単節斜縄文（RL）。　50　出土位置・注記：7次2住　文様：環状貼付文，刺突文，沈線文。　51　出土位置・注記：7次2住　文様：沈線文，単節斜縄文（RL）。　52　出土位置・注記：7次2住床下　文様：沈線文，単節斜縄文(RL)。　53　出土位置・注記：7次4住　文様：沈線文，単節斜縄文(RL)。54　出土位置・注記：7次2住pit4　文様：沈線文，単節斜縄文（RL）備考：器外面炭化物付着。　55　出土位置・注記：7次2住　文様：沈線文，単節斜縄文（RL）。　56　出土位置・注記：7次2住　文様：沈線文，単節斜縄文（RL）。　57　出土位置・注記：7次2住　文様：沈線文，単節斜縄文（RL）。　58　出土位置・注記：7次3住　文様：沈線文，単節斜縄文（RL）。　59　出土位置・注記：7次1ピット　文様：平行沈線文（半截竹管），単節斜縄文（LR）備考：器外面炭化物付着。60　出土位置・注記：7次6住，4住pit2　文様：平行沈線文（半截竹管），単節斜縄文（LR）備考：胎土に赤色粒子が目立つ，器外面炭化物付着。61　出土位置・注記：7次1ピット　文様：平行沈線文（半截竹管），単節斜縄文（LR）備考：胎土に赤色粒子が目立つ。　62　出土位置・注記：7次6住　文様：平行沈線文（半截竹管），単節斜縄文（RL）。63　出土位置・注記：7次4住ヘキミゾ　文様：平行沈線文（半截竹管ヵ），単節斜縄文（RL）。　64　出土位置・注記：7次2住　文様：条線文，単節斜縄文（RL）。　65　出土位置・注記：8次1周溝5区　文様：条線文，単節斜縄文（RL）備考：器内面発砲状剥落。　66　出土位置・注記：7次3住床　文様：条線文，単節斜縄文（RL）。　67　出土位置・注記：8次2A住3区　文様：沈線文（半截竹管），単節斜縄文（RL）備考：胎土に金雲母を含む。　68　出土位置・注記：8次2A住3区　文様：無節斜縄文（L）ヵ。　69　出土位置・注記：7次3住pit1　文様：結節文，単節斜縄文（RL）備考：左破断面付近（矢印）に木葉痕？あり。　70　出土位置・注記：8次2周溝4区　文様：口唇部刻み（指頭），単節斜縄文（RL）備考：器外面剥落。　71　出土位置・注記：7次2住pit1　文様：口唇部縄文（RL），単節斜縄文（RL）。　72　出土位置・注記：7次2住床　文様：口唇部縄文（RL），単節斜縄文（RL）備考：器外面炭化物付着。

第65図

1　出土位置・注記：8次1周溝4区　文様：単節斜縄文（RL）。　2　出土位置・注記：8次1道　文様：単節斜縄文（LR）。　3　出土位置・注記：7次表土　文様：単節斜縄文（RL）備考：器外面にネズミの齧り痕ヵ。　4　出土位置・注記：8次2周溝3区　文様：単節斜縄文（RL）。　5　出土位置・注記：8次1周溝7区　文様：単節斜縄文（RL）。　6出土位置・注記：7次4住　文様：単節斜縄文（LR）。　7　出土位置・注記：7次3住床　文様：単節斜縄文（RL）。　8　出土位置・注記：8次1住2区　文様：無節斜縄文（L）。　9　出土位置・注記：7次2住　文様：結節文，単節斜縄文（RL）。　10　出土位置・注記：7次3住床　文様：結節文，単節斜縄文（RL）。　11　出土位置・注記：7次4住　文様：結節文，無節斜縄文（R）。　12　出土位置・注記：8次1周溝4区　文様：単節斜縄文（RL）。　13　出土位置・注記：8次2A住P39　文様：単節斜縄文（RL）。　14　出土位置・注記：7次2住Pit1　文様：単節斜縄文（RL）。15　出土位置・注記：7次2住　文様：単節斜縄文（RL）。　16　出土位置・注記：7次表土　文様：単節斜縄文（RL）備考：器内面にネズミの齧り痕あり。　17　出土位置・注記：7次3住　文様：単節斜縄文（RL）。18　出土位置・注記：8次1周溝5区　文様：単節斜縄文（RL）。19出土位置・注記：7次2住　文様：単節斜縄文（RL）。　20　出土位置・注記：7次3住床　文様：単節斜縄文（RL）。　21　出土位置・注記：8次3住3区　文様：単節斜縄文（RL）。　22　出土位置・注記：8次1周溝西隅　文様：単節斜縄文（RL）。　23　出土位置・注記：7次2住　文様：単節斜縄文（RL）。　24　出土位置・注記：7次2住　文様：単節斜縄文（LR）備考：器内面に発泡状の剥落あり。　25　出土位置・注記：7次2住　文様：付加条縄文（LR+r）備考：胎土に赤色粒子が目立つ。　26　出土位置・注記：7次2住　法量：底径120㎜ほど（残存率13％の部分から推定）。　27　出土位置・注記：8次3周溝4区。　28　出土位置・注記：8次1周溝5区　法量：底径116㎜（残存率16％）備考：器内面炭化物付着。　29　出土位置・注記：7次2住　法量：底径110㎜（残存率20％）。　30　出土位置・注記：7次3住P4　法量：底径98㎜（残存率13％）。　31　出土位置・注記：8次1道　法量：底径100㎜（残存率14％）備考：器内面炭化物付着。　32　出土位置・注記：8次1住4区　法量：底径96㎜（残存率14％）備考：器内面炭化物付着。　33　出土位置・注記：8次1周溝5区　法量：底径96㎜（残存率12％）。34　出土位置・注記：7次表土　法量：底径85㎜（残存率16％）備考：器内面炭化物付着。　35　出土位置・注記：7次2住　法量：底径86㎜（残存率11％）備考：焼成不良。　36　出土位置・注記：7次2住　法量：底径86㎜（残存率21％）。　37　出土位置・注記：8次2周溝3区　時代時期：縄文時代中期初頭ヵ　法量：口径96㎜（残存率12％の部分から推定）文様：口唇部直下縦位短沈線，沈線文，刺突文。38　出土位置・注記：7次4住　時代時期：縄文時代中期（加曽利E式）文様：隆線文，沈線文　備考：器外面に赤彩痕あり。　39　出土位置・注記：8次3周溝3区　時代時期：縄文時代中期（加曽利E式）文様：沈線文，撚糸文（Rの絡条体）。　40　出土位置・注記：8次1住掘形　時代時期：縄文時代中期（加曽利E式）文様：押引状の沈線文　備考：胎土に赤色粒子が目立つ。　41　出土位置・注記：8次1周溝4区　時代時期：縄文時代中期（加曽利E式）文様：沈線文，単節斜縄文（LR）ヵ。42　出土位置・注記：8次3周溝4区　時代時期：縄文時代中期（加曽利E式）文様：隆線文，突起（端部欠損），無節斜縄文（L）。　43　出土位置・注記：8次1周溝4区　時代時期：縄文時代後期（堀之内1式）文様：沈線文，単節斜縄文（LR）備考：胎土に赤色粒子が目立つ。　44出土位置・注記：8次2A住2区　時代時期：縄文時代後期（堀之内1式）文様：沈線文，単節斜縄文（LR）。　45　出土位置・注記：8次1周溝4区　時代時期：縄文時代後期（堀之内1式）文様：沈線文，単節斜縄文（LR）。　46



第65図　調査区出土の縄文式土器（3）

出土位置・注記：8次住2周溝P2　時代時期：縄文時代中・後期　法量：底径45㎜（残存率100％）文様：沈線文もしくは傷（篦状工具）。

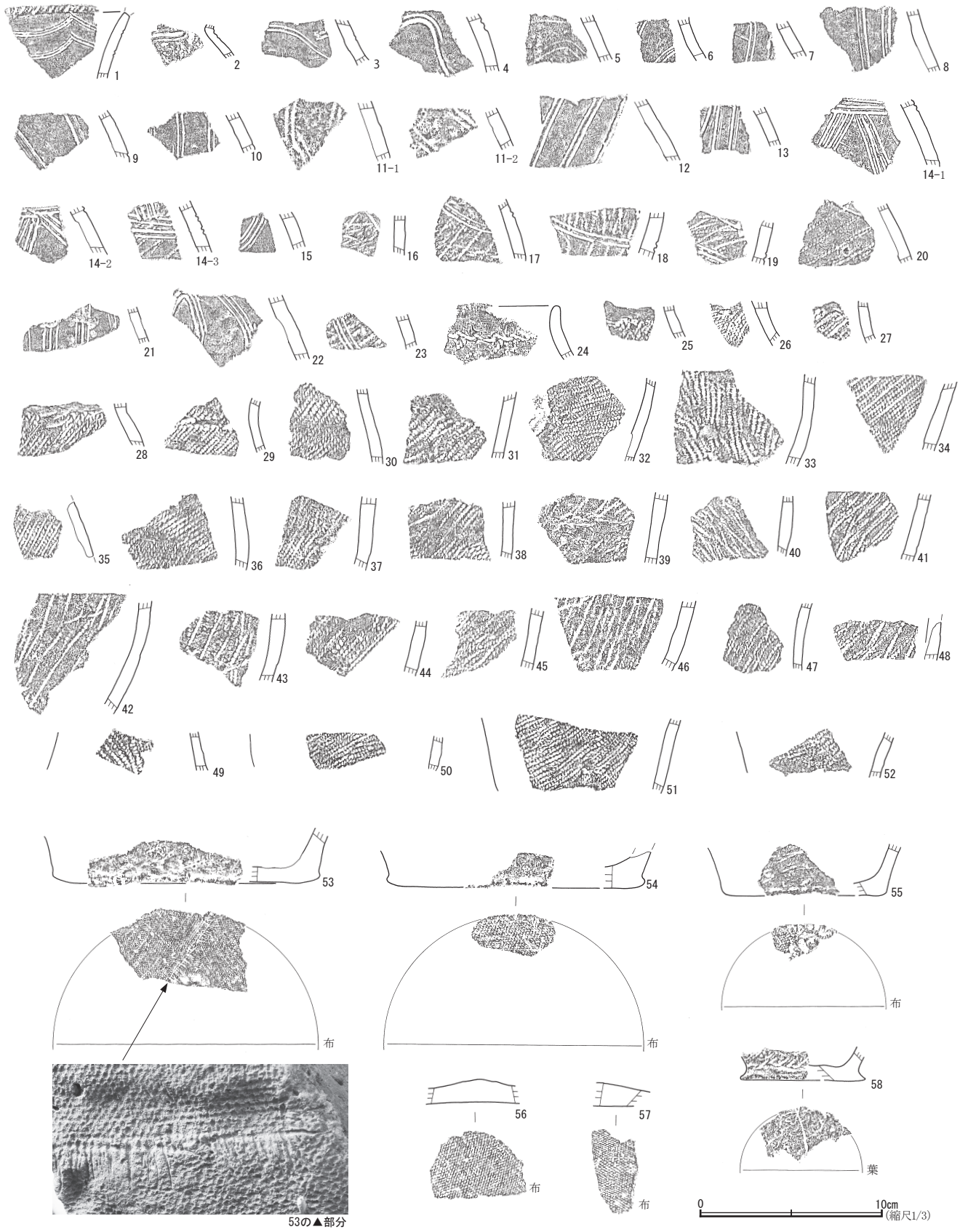
3　弥生時代の土器

弥生時代の土器は，第7次調査区では極少量で，ほとんどが第8次調査区から出土したものである。1点のみ木葉痕の底面痕跡があり，これは後期前半に位置付けられるものなのであろう。中期後葉の「足洗式」が主体であり，既往の調査を含めても後期後半の「十王台式」は出土していない。

以下に，土器の各資料について計測と観察を記載する。

第66図

1　出土位置・注記：8次2周溝2区　時代時期：弥生時代中期後葉　文様：口唇部付加条縄文（LR+2R），平行沈線文（半截竹管）備考：胎土に骨針を含む。　**2**　出土位置・注記：7次2住　時代時期：弥生時代中期後葉　文様:平行沈線文（半截竹管），付加条縄文（RL+2L）備考:胎土に骨針を含む。　**3**　出土位置・注記：8次3周溝3区　時代時期：弥生時代中期後葉　文様：平行沈線文（半截竹管）。　**4**　出土位置・注記:8次3周溝1区　時代時期:弥生時代中期後葉　文様:平行沈線文（半截竹管）。　**5**　出土位置・注記：8次2周溝1区　時代時期：弥生時代中期後葉　文様：平行沈線文（半截竹管）。　**6**　出土位置・注記：8次1周溝西隅　時代時期:弥生時代中期後葉　文様:平行沈線文（半截竹管）。　**7**　出土位置・注記:8次3周溝4区　時代時期:弥生時代中期後葉　文様:平行沈線文（半截竹管）。　**8**　出土位置・注記：8次1周溝7区　時代



第 66 図　調査区出土の弥生式土器

時期：弥生時代中期後葉　文様：平行沈線文（半截竹管）備考：器内面剥落。　**9**　出土位置・注記：8 次 3 周溝 7 区　時代時期：弥生時代中期後葉　文様:平行沈線文（半截竹管）備考:器内面剥落。 **10** 出土位置・注記：8 次 3 住 1 区　時代時期：弥生時代中期後葉　文様：平行沈線文（半截竹管）備考：胎土に骨針を含む。　**11** 出土位置・注記：8 次 2A 住 2 区・3 区　時代時期：弥生時代中期後葉　文様：平行沈線文（半截竹

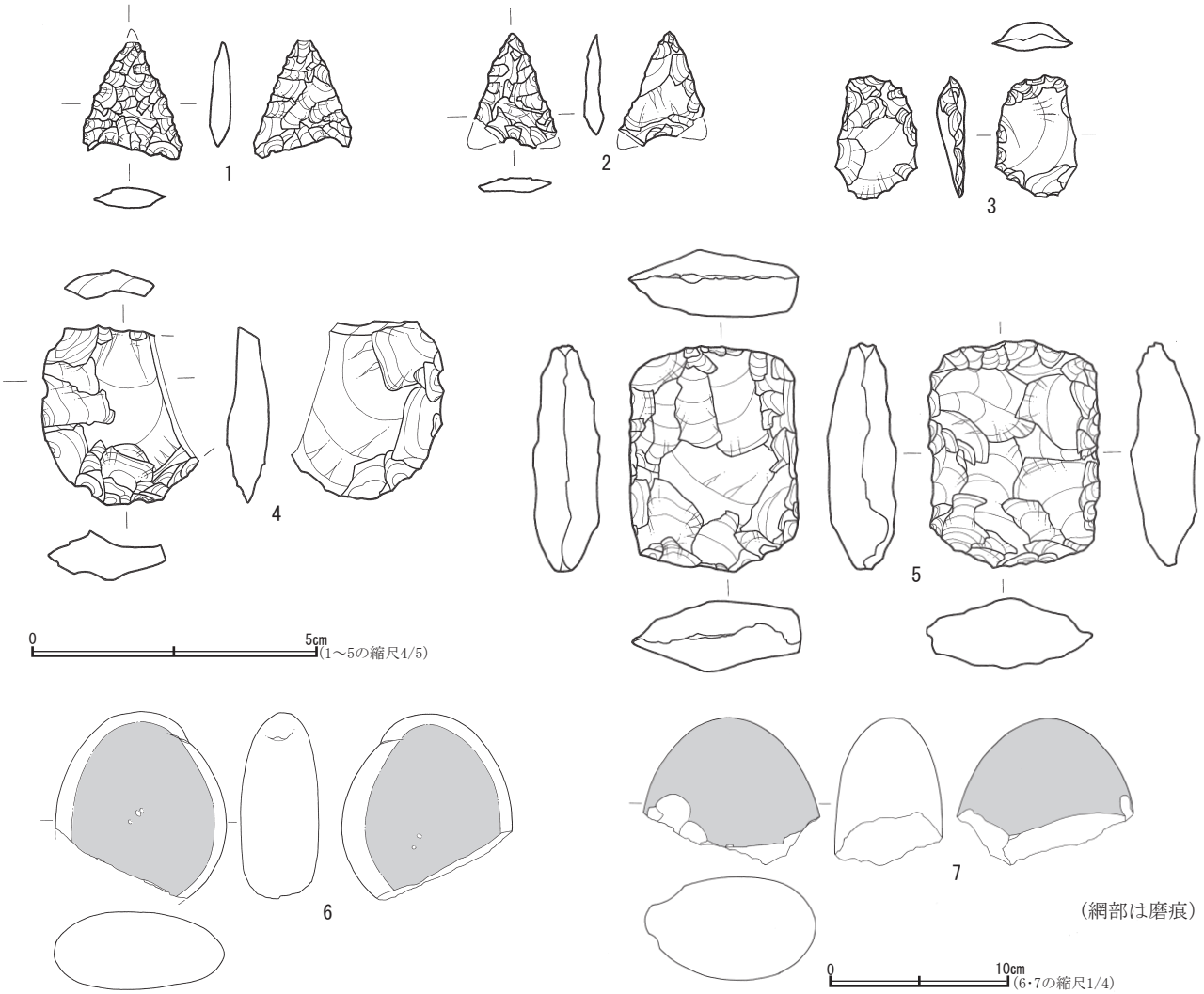
管）備考：器内面剥落。 **12** 出土位置・注記：8次2周溝3区時代時期：弥生時代中期後葉 文様：平行沈線文（半截竹管）備考：器外面に赤彩痕あり，器内面剥落。 **13** 出土位置・注記：8次3周溝4区 時代時期：弥生時代中期後葉 文様：平行沈線文（半截竹管）備考：胎土に金雲母を含む。 **14** 出土位置・注記：8次2A住1区・4区，2周溝4区 時代時期：弥生時代中期後葉 文様：平行沈線文（半截竹管），付加条縄文（R-S）備考：破片2の器内面剥落。 **15** 出土位置・注記：8次3住1区 時代時期：弥生時代中期後葉 文様：平行沈線文（半截竹管）。 **16** 出土位置・注記：7次2住 時代時期：弥生時代中期後葉文様：平行沈線文（半截竹管），反撚り縄文（LL）備考：器内面剥落。**17** 出土位置・注記：8次2A住3区 時代時期：弥生時代中期後葉 文様：平行沈線文（半截竹管），付加条縄文（LR+R）。 **18** 出土位置・注記：8次2周溝4区 時代時期：弥生時代中期後葉 文様：平行沈線文（半截竹管），付加条縄文（LR+R）。 **19** 出土位置・注記：8次表土 時代時期：弥生時代中期後葉 文様：平行沈線文（半截竹管），付加条縄文（LR+R）。 **20** 出土位置・注記：8次2A住1区 時代時期：弥生時代中期後葉 文様：平行沈線文（半截竹管），付加条縄文（LR+R）備考：器内面剥落。 **21** 出土位置・注記：8次2A住pit6 時代時期：弥生時代中期後葉 文様：平行沈線文（3本同時施文具）備考：器内外面剥落。**22** 出土位置・注記：8次3周溝4区 時代時期：弥生時代中期後葉 文様：平行沈線文（3本同時施文具）。 **23** 出土位置・注記：7次2住時代時期：弥生時代中期後葉 文様：平行沈線文（3本同時施文具）。 **24** 出土位置・注記：8次1周溝6区 時代時期：弥生時代中期後葉 文様：結節文，付加条縄文（LR+R）ヵ。 **25** 出土位置・注記：8次2A住3区 時代時期：弥生時代中期後葉 文様：付加条縄文（LR+R）ヵ。 **26** 出土位置・注記：8次2周溝4区 時代時期：弥生時代中期後葉 文様：付加条縄文（LR+2R）。 **27** 出土位置・注記：8次2A住3区 時代時期：弥生時代中期後葉 文様：付加条縄文（LR+R）。 **28** 出土位置・注記：8次3周溝6区 時代時期：弥生時代中期後葉 文様：付加条縄文（LR+2R）備考：胎土に骨針含む。 **29** 出土位置・注記：8次2A住4区 時代時期：弥生時代中期後葉 文様：単節斜条縄文（LR）。 **30** 出土位置・注記：8次2周溝1区 時代時期：弥生時代中期後葉 文様：単節斜条縄文（LR）。 **31** 出土位置・注記：8次2周溝4区 時代時期：弥生時代中期後葉 文様：単節斜条縄文（LR）備考：器内面にネズミの齧り痕あり。 **32** 出土位置・注記：8次2B住掘形 時代時期：弥生時代中期後葉 文様：単節斜条縄文（LR）備考：胎土に骨針含む，器外面炭化物付着。 **33** 出土位置・注記：8次1住掘形 時代時期：弥生時代中期後葉 文様：単節斜条縄文（RL）備考：器外面炭化物付着。**34** 出土位置・注記：8次3周溝3区 時代時期：弥生時代中期後葉 文様：付加条縄文（LR+R）備考：器内面剥落。 **35** 出土位置・注記：8次3周溝6区 時代時期：弥生時代中期後葉 文様：付加条縄文（LR+2R）備考：器内面剥落。 **36** 出土位置・注記：8次3周溝3区 時代時期：弥生時代中期後葉 文様：付加条縄文（LR+2R）備考：器外面炭化物付着。 **37** 出土位置・注記：8次3周溝5区 時代時期：弥生時代中期後葉 文様：付加条縄文（LR+2R）。 **38** 出土位置・注記：8次3周溝3区 時代時期：弥生時代中期後葉 文様：付加条縄文（LR+2R）備考：器外面炭化物付着。 **39** 出土位置・注記：8次1周溝西隅 時代時期：弥生時代中期後葉 文様：付加条縄文（LR+R）。 **40** 出土位置・注記：8次3住1区 時代時期：弥生時代中期後葉 文様：付加条縄文（LR+R），上端部に沈線文の一部が残る。 **41** 出土位置・注記：8次2A住2区時代時期：弥生時代中期後葉 文様：付加条縄文（LR+2R）。 **42** 出土位置・注記：8次2周溝2区 時代時期：弥生時代中期後葉 文様：付加条縄文（LR+R）。 **43** 出土位置・注記：8次表土 時代時期：弥生時代中期後葉 文様：付加条縄文（LR+R）。 **44** 出土位置・注記：8次2周溝4区 時代時期：弥生時代中期後葉 文様：付加条縄文（LR+R）備考：胎土に骨針含む。 **45** 出土位置・注記：8次3周溝1区 時代時期：弥生時代中期後葉 文様：付加条縄文（LR+2）。 **46** 出土位置・注記：8次3住掘形 時代時期：弥生時代中期後葉 文様：付加条縄文（LR+R）。 **47** 出土位置・注記：8次3住2区 時代時期：弥生時代中期後葉 文様：付加条縄文（LR+R）。 **48** 出土位置・注記：8次1周溝1区 時代時期：弥生時代中期後葉 文様：付加条縄文（R-S）備考：器内面剥落，上端擬口縁ヵ。 **49** 出土位置・注記：7次4住 時代時期：弥生時代中期後葉 法量：最大径87㎜（残存率13%の部分から推定）文様：単節斜縄文（RL）。 **50** 出土位置・注記：8次2A住4区 時代時期：弥生時代中期後葉 法量：最大径104㎜（残存率13%）文様：単節斜縄文（LR）。 **51** 出土位置・注記：8次2A住4区 時代時期：弥生時代中期後葉 法量：最大径108㎜（残存率20%の部分から推定）文様：単節斜縄文（RL）備考：胎土に骨針含む。 **52** 出土位置・注記：8次2A住4区掘形 時代時期：弥生時代中期後葉 法量：最大径86㎜（残存率18%の部分から推定）文様：単節斜縄文（LR）。 **53** 出土位置・注記：8次1周溝4区 時代時期：弥生時代中期後葉 法量：底径144㎜（残存率18%）文様：付加条縄文（LR+R），底面布目痕 備考：布目痕は2枚重ねで，上位の布の端部が観察される，器内面剥落。 **54** 出土位置・注記：8次2A住3区 時代時期：弥生時代中期後葉 法量：底径140㎜（残存率9%）文様：付加条縄文（R-S），底面布目痕。 **55** 出土位置・注記：8次2周溝 時代時期：弥生時代中期後葉 法量：底径90㎜（残存率14%）文様：付加条縄文（R-S），底面布目痕。 **56** 出土位置・注記：8次2周溝4区 時代時期：弥生時代中期後葉 文様：底面布目痕。 **57** 出土位置・注記：8次3周溝4区 時代時期：弥生時代中期後葉 文様：底面布目痕。 **58** 出土位置・注記：8次1周溝 時代時期：弥生時代後期ヵ 法量：底径68㎜（残存率21%）文様：付加条縄文（LR+2R），底面木葉痕。

4 縄文・弥生時代の石器

縄文・弥生時代の石器として抽出したのは，石鏃が2点，石鏃未成品が2点，楔形石器が1点，磨石が2点の計7点である。他に，第7次第4号住居跡からは，縄文時代晩期の石剣の破片が出土しているが，これは，古墳時代に破片が転用されたものと判断し，古墳時代の遺物として報告している。おそらくは当時に，同じ台地の突端に位置する柳沢遺跡（井上・佐藤 1972）・大田房貝塚（藤本 1977）から採集してきたものではなかろうか。鷹ノ巣遺跡（井上 1994）においても，同じく古墳時代前期の第16号住居址から石剣の破片が出土しており，気になるところである。

以下に，石器の各資料について計測と観察を記載する。

第67図



第 67 図　調査区出土の石器

1　出土位置・注記：7 次 4 住 pit1　器種：石鏃　石材：黒曜石　法量：長さ 21 ㎜，幅 17 ㎜，厚さ 3.5 ㎜　重量：0.9 ｇ。　**2**　出土位置・注記：8 次 2A 住 3 区　器種：石鏃　石材：ガラス質黒色安山岩　法量：長さ 19 ㎜，幅 14 ㎜，厚さ 3 ㎜　重量：0.7 ｇ。　**3**　出土位置・注記：7 次 2 住 pit1　器種：石鏃未成品　石材：チャート　法量：長さ 21.5 ㎜，幅 14 ㎜，厚さ 5 ㎜　重量：1.6 ｇ。　**4**　出土位置・注記：8 次 1 周溝 1 区　器種：石鏃未成品　石材：ホルンフェルス　法量：長さ 32 ㎜，幅 27 ㎜，厚さ 9 ㎜　重量：8.2 ｇ。　**5**　出土位置・注記：7 次 2 住　器種：楔形石器　石材：ガラス質黒色安山岩　法量：長さ 40 ㎜，幅 39 ㎜，厚さ 12 ㎜　重量：19.1 ｇ。　**6**　出土位置・注記：8 次 1 周溝 S1　器種：磨石，敲石？　石材：砂岩　法量：長さ 105 ㎜，幅 95 ㎜，厚さ 43 ㎜　重量：550.9 ｇ　備考：表裏面に敲打痕のような窪みが僅かに見られる。　**7**　出土位置・注記：8 次 3 周溝 6 区　器種：磨石　石材：砂岩　法量：長さ 82 ㎜，幅 98 ㎜，厚さ 58 ㎜　重量：534.8 ｇ　備考：表面の剥離は後世のもの。

参考文献

井上義安・佐藤次男　1972 『柳沢遺跡調査報告』那珂湊市文化財調査報告Ⅰ　那珂湊市教育委員会・柳沢遺跡発掘調査団

井上義安　1994 『那珂湊市鷹ノ巣遺跡』那珂湊市鷹ノ巣遺跡発掘調査会

川崎純徳・鴨志田篤二・住谷光男　1978 『三反田遺跡（一・二次）』三反田遺跡調査団

鈴木素行編　2001 『武田石高遺跡　旧石器・縄文・弥生時代編』（公社文化財調査報告第 21 集）　ひたちなか市教育委員会・ひたちなか市文化・スポーツ振興公社

藤本彌城　1977 『那珂川下流域の石器時代研究Ⅰ』（私家版）

藤本彌城　1980 『那珂川下流域の石器時代研究Ⅱ』（私家版）

1　第７次調査区全体

2　第７次調査区第 1A・1B 号住居跡

3　第７次調査区第２号住居跡（1）

4　第７次調査区第２号住居跡（2）

5　第７次調査区第２号住居跡ピット１土層

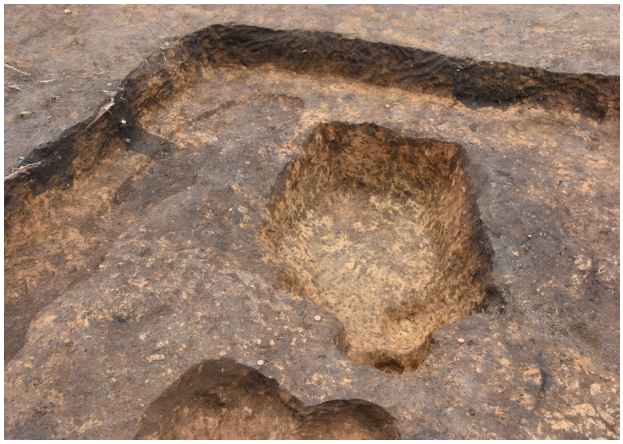
6　第７次調査区第２号住居跡ピット１遺物出土状況（1）

7　第７次調査区第２号住居跡ピット１遺物出土状況（2）

8　第７次調査区第２号住居跡鉄製品出土状況

図版２　第７次調査（2）

9　第７次調査区第２号住居跡完掘状況



10　第７次調査区第２号住居跡ピット１完掘状況

11　第７次調査区第２号住居跡床下ピット１～３完掘状況

12　第７次調査区第３号住居跡

13　第７次調査区第３号住居跡遺物出土状況

14　第７次調査区第４号住居跡

15　第７次調査区第４号住居跡遺物出土状況（1）

16　第７次調査区第４号住居跡遺物出土状況（2）

17　第７次調査区第４号住居跡ピット２

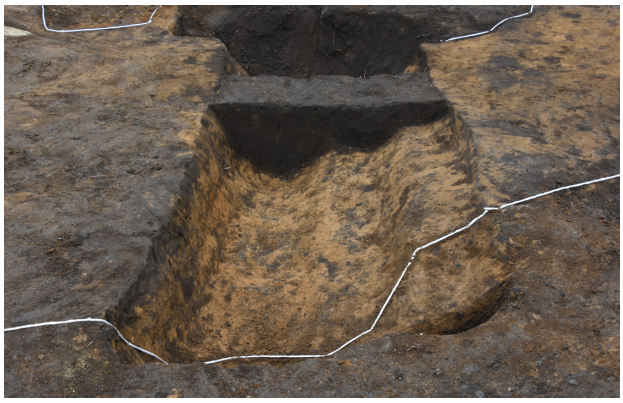
18　第７次調査区第４号住居跡ピット３土層

19　第７次調査区第４号住居跡炉

20　第７次調査区第５号住居跡

21　第７次調査区第６号住居跡

22　第７次調査区第１号土坑



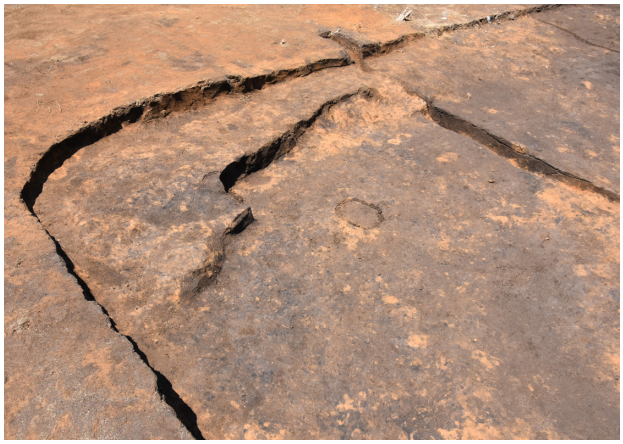
23　第７次調査区第１号溝跡

24　第８次調査区第１号住居跡

25　第８次調査区第１号住居跡掘形

図版 4　第 8 次調査（2）

26　第 8 次調査区第 2A 号住居跡



27　第 8 次調査区第 2A 号住居跡床面南西部の段差

28　第 8 次調査区第 2A 号住居跡掘形

29　第 8 次調査区第 2A 号住居跡遺物出土状況

30　第 8 次調査区第 2A 号住居跡土器 10 出土状況

31　第 8 次調査区第 2A 号住居跡土錘出土状況

32　第 8 次調査区第 2B 号住居跡

33　第 8 次調査区第 2B 号住居跡遺物出土状況

34　第８次調査区第 2B 号住居跡掘形

35　第８次調査区第３号住居跡

36　第８次調査区第３号住居跡南側床面

37　第８次調査区第３号住居跡炉

38　第８次調査区第３号住居跡ピット８

39　第８次調査区第３号住居跡炭化材出土状況

40　第８次調査区第３号住居跡炭化材８と遺物 21 ～ 23 の出土状況

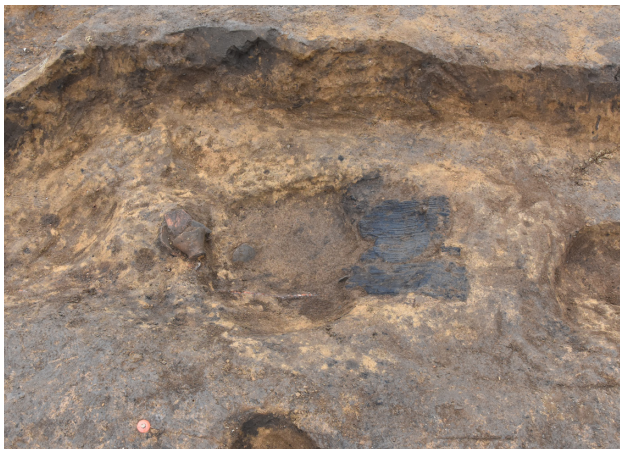
41　第８次調査区第３号住居跡炭化材と遺物４の出土状況

図版６　第８次調査（4）

42　第８次調査区第３号住居跡炭化材と遺物 16 の出土状況

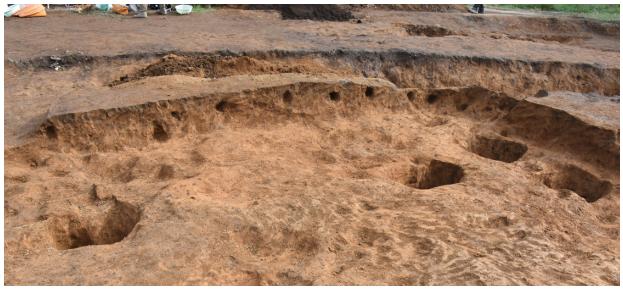
43　第８次調査区第３号住居跡炭化材 21 の出土状況

44　第８次調査区第３号住居跡ピット８付近の遺物出土状況



45　第８次調査区第３号住居跡ピット８付近の炭化材 26 出土状況

46　第８次調査区第３号住居跡掘形



47　第８次調査区第３号住居跡掘形壁面に見られた小ピット

48　第８次調査区第１号方形周溝墓

49　第８次調査区第１号方形周溝墓遺物出土状況

50　第８次調査区第２号方形周溝墓

51　第８次調査区第３号方形周溝墓

52　第８次調査区第３号方形周溝墓遺物出土状況

53　第８次調査区第１号溝跡

54　第８次調査区第２号溝跡

55　第８次調査区第３・４号溝跡

56　第８次調査区第１号石組

57　第８次調査区第１号石組掘形

図版８　第８次調査（6）

58　第８次調査区第２号石組（1）

59　第８次調査区第２号石組（2）

60　第８次調査区第２号石組掘形

61　第８次調査区第１号道跡

62　第８次調査区第１・２号土坑

63　第８次調査区校舎部分トレンチ設定状況（1）

64　第８次調査区校舎部分トレンチ設定状況（2）

65　第８次調査区と三反田小学校

第 37 図 8

第 37 図 10

第 37 図 17

第 37 図 20　第 37 図 21　第 37 図 23

1　第 8 次第 2A 号住居跡出土遺物

第 19 図 5

第 52 図 8

第 56 図 3

2　第 7 次第 4 号住居跡，第 8 次第 1･3 号周溝墓出土遺物

図版 10　遺物（2）

第 49 図 3

第 49 図 5

第 49 図 9

第 49 図 10

第 49 図 15

第 49 図 12

1　第 8 次第 3 号住居跡出土遺物

報　告　書　抄　録

フリガナ	ミタンダイセキダイ７・８ジハックツチョウサホウコクショ
書名	三反田遺跡第７・８次発掘調査報告書
編集者名	佐々木義則
著者名	鈴木素行，稲田健一，佐々木義則，照沼沙保里
編集機関	公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社文化課文化財調査事務所
編集機関所在地	茨城県ひたちなか市大字中根 3499　ひたちなか市埋蔵文化財調査センター内
発行機関	ひたちなか市教育委員会・公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社
発行機関所在地	茨城県ひたちなか市東石川２丁目 10 番１号
発行年	2019 年３月 14 日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	標高	調査期間	面積	備考
		市町村	遺跡番号						
ミタンダ三反田	ひたちなか市三反田	08221	038	36°　21′　55″	140°　33′　19″	21.2 m	201709 ～ 201710	270 ㎡	７次
				36°　21′　53″	140°　33′　17″	21.1 m	201807 ～ 201809	650 ㎡	８次

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
三反田	集落	古墳	７次　竪穴住居跡６基 ８次　竪穴住居跡４基 方形周溝墓３基	土師器，石製品，鉄製品 土師器 土師器	８次調査の石組２基は古墳時代の石棺になる可能性がある。また，８次調査の３号土坑は古墳時代前期になる可能性あり。
		平安	７次　竪穴住居跡１基	須恵器	
		時期不明	７次　溝跡１条 ８次　石組２基 溝跡４条 道跡１条 土坑４基	石器，縄文土器，弥生土器	
	包蔵地	旧石器・縄文・弥生	遺構なし		

三反田遺跡第７・８次発掘調査報告書

平成 31（2019）年３月 14 日発行

編　集　　公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社

発　行　　ひたちなか市教育委員会

〒 312-8501　茨城県ひたちなか市東石川 2-10-1

TEL029-273-0111

公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社

〒 312-0011　茨城県ひたちなか市中根 3499

TEL029-276-8311

印　刷　　株式会社　高野高速印刷